SONY

4-145-850-02(2)

接続と準備

再生する

サラウンド効果を楽しむ

ネットワーク機能を使う

マルチゾーン機能を使う

その他の操作をする

設定を変更する

画面リモコン（クイッククリック）で他機を操作する

多機能リモコンで他機を操作する

マルチチャンネル
インテグレートアンプ

TA-DA5500ES

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口
フリーダイヤル…………………0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話… 0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル…………………0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話… 0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「306」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia

(2)

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属の簡単リモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。リモコンと同じ名前の本体のボタンは、同じ働きをします。

付属の電源コードについて

付属の電源コードは本機専用です。他の電気機器では使用できません。

商標について

本機はドルビー*デジタルデコーダー（EX）およびドルビープロロジック（II、IIx）Dolby Digital Plus、Dolby TrueHDデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**（DTS-ESおよびDTS 96/24）デコーダー、DTS-HDデコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AAC ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** 米国特許番号 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567、その他米国および米国外で特許申請中の実施権に基づき製造されています。DTS は登録商標です。また DTS ロゴ、シンボル、DTS-HD および DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。©1996-2008 DTS, Inc. All Rights Reserved.

この取扱説明書でご案内、または表示窓、GUIメニュー画面に表示している「Neural-THX」および「NEURAL-THX」とは、Neural-THX Surroundを指しています。

“Neural Surround”、“Neural Audio”、“Neural”ならびに“NRL”は、Neural Audio Corporationの登録商標およびロゴです。

THXは、THX社の登録商標です。無断複写・転載を禁じます。

マルチチャンネルインテグレートアンプは、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。

HDMI、HDMI ロゴ、及びHigh-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

本製品に搭載されているフォントの書体「新ゴR」は株式会社モリサワより提供を受けており、これらの名称は同社の商標であり、フォントの著作権も同社に帰属します。

Bluetoothワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, INC.の商標であり、ソニー株式会社はライセンスに基づきこのマークを使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、ここの所有者に帰属するものとします。

“ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴはソニー株式会社の登録商標です。

DLNA、DLNA CERTIFIEDは、Digital Living Network Allianceの商標です。

VAIOはソニー株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Mediaは、米国 Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Intel Core、Pentiumは米国およびその他の国におけるIntel Corporation の登録商標または商標です。

SHOUTcast®はAOL LLC.の登録商標です。

本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っている VC-1 PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：
（i）消費者が個人的、非営利の使用目的で、VC-１規格に合致したビデオ信号（以下、VC-1 VIDEOといいます）にエンコードすること。
（ii）VC-1 VIDEO（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。
なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページをご参照下さい。

MPEG Layer-3オーディオコーディング技術とその特許は、Fraunhofer IISおよびThomsonから許諾されています。

“x.v.Color”及び x.v.Colorロゴ は、ソニー株式会社の商標です。

本製品は著作権保護技術を使用しており、マクロビジョン社およびその他の著作権利者が保有する米国特許およびその他の知的財産権によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の特別な許可がない限り家庭用およびその他の一部の鑑賞用の使用に制限されています。分解、改造することも禁じられています。

目次

接続と準備

準備１：スピーカーを設置する 15
準備２：テレビを接続する 18
準備 3a：オーディオ機器を接続する 19
準備 3b：映像機器を接続する 24
準備 3c：AV マウスを接続する 33
準備４：ネットワークに接続する 34
準備５：本体とリモコンを準備する 36
準備６：スピーカーを設定する 37
準備７：自動でスピーカーを設定する
（自動音場補正機能）................................... 39
準備８：ネットワークを設定する 45
準備９：パソコンをサーバーとして使う
準備をする.. 46
画面操作のしかた.. 47

再生する

つないだ機器の音声／映像を楽しむ 50
デジタルメディアポートにつないだ機器の
音声を楽しむ... 52

サラウンド効果を楽しむ

2 チャンネル音声で再生する 53
マルチチャンネルサラウンドで再生する 54
音楽用の音場効果で再生する 56
映画用の音場効果で再生する 58

ネットワーク機能を使う

本機のネットワーク機能について 60
ネットワーク機能でできること 61
外部サーバーにあるコンテンツを
本機で楽しむ 63
SHOUTcast を聞く 64
ES Utility でできること 65

マルチゾーン機能を使う

マルチゾーン機能でできること 67
マルチゾーン接続をする 68
2nd ゾーンのスピーカーを設定する 70
多機能リモコンのゾーン設定を切り換える 71
本機を 2nd ゾーン／ 3rd ゾーンで操作する 71
すべてのゾーンで同じ曲を聞く
（パーティー機能）......................................72

その他の操作をする

“ブラビアリンク”機能を使う 74
HDMI 信号を出力するモニターを切り換える 78
本機がスタンバイ中でも再生機器を楽しむ
（パススルー）..78
デジタル音声とアナログ音声の入力を
切り換える..79
他の入力からの音声／映像を楽しむ
（Input Assign）...80
スリープタイマーを使う 82
小音量でサラウンド効果を楽しむ......................83
他機を使って録音／録画する 84
本体とリモコンのコマンドモードを
切り換える..85
バイアンプ接続する 86

設定を変更する

Settings メニューの使いかた 88
自動音場補正機能設定（Auto Calibration）.......89
スピーカー設定（Speaker）............................91
サラウンド設定（Surround）...........................94
イコライザー設定（EQ）................................96
マルチゾーン設定（Multi Zone）......................96
音声設定（Audio）...98
映像設定（Video）...99
HDMI 設定（HDMI）....................................101
ネットワーク設定（Network）........................102
画面リモコン設定（Quick Click）...................103
システム設定（System）..............................104
テレビをつながずに本機を操作する................105

つづく

画面リモコン（クイッククリック）で他機を操作する

画面リモコン（クイッククリック）で接続した機器や照明を操作する ... 109
クイッククリックを使う ... 110
クイッククリックで操作する機器を設定する ... 114
いくつかの操作を続けて実行させる（マクロ操作） ... 116
クイッククリックにないリモコンコードを学習させる ... 118
クイッククリックのリモコンコードを初期設定に戻す ... 119

多機能リモコンで他機を操作する

多機能リモコンで他機を操作する ... 120
お使いの機器に合わせてリモコンコードを設定する ... 122
いくつかの操作を続けて実行させる（マクロ操作） ... 125
本機のリモコンにないリモコンコードを学習させる ... 126
リモコンをお買い上げ時の設定に戻す ... 128

その他

用語集 ... 129
使用上のご注意 ... 132
故障かな？と思ったら ... 133
保証書とアフターサービス ... 138
主な仕様 ... 138
本製品に含まれるソニー製ソフトウェアの使用許諾契約書 ... 140
本機のファームウェアについて ... 143
索引 ... 147

各部の名前と働き

本体前面

カバーをはずすには

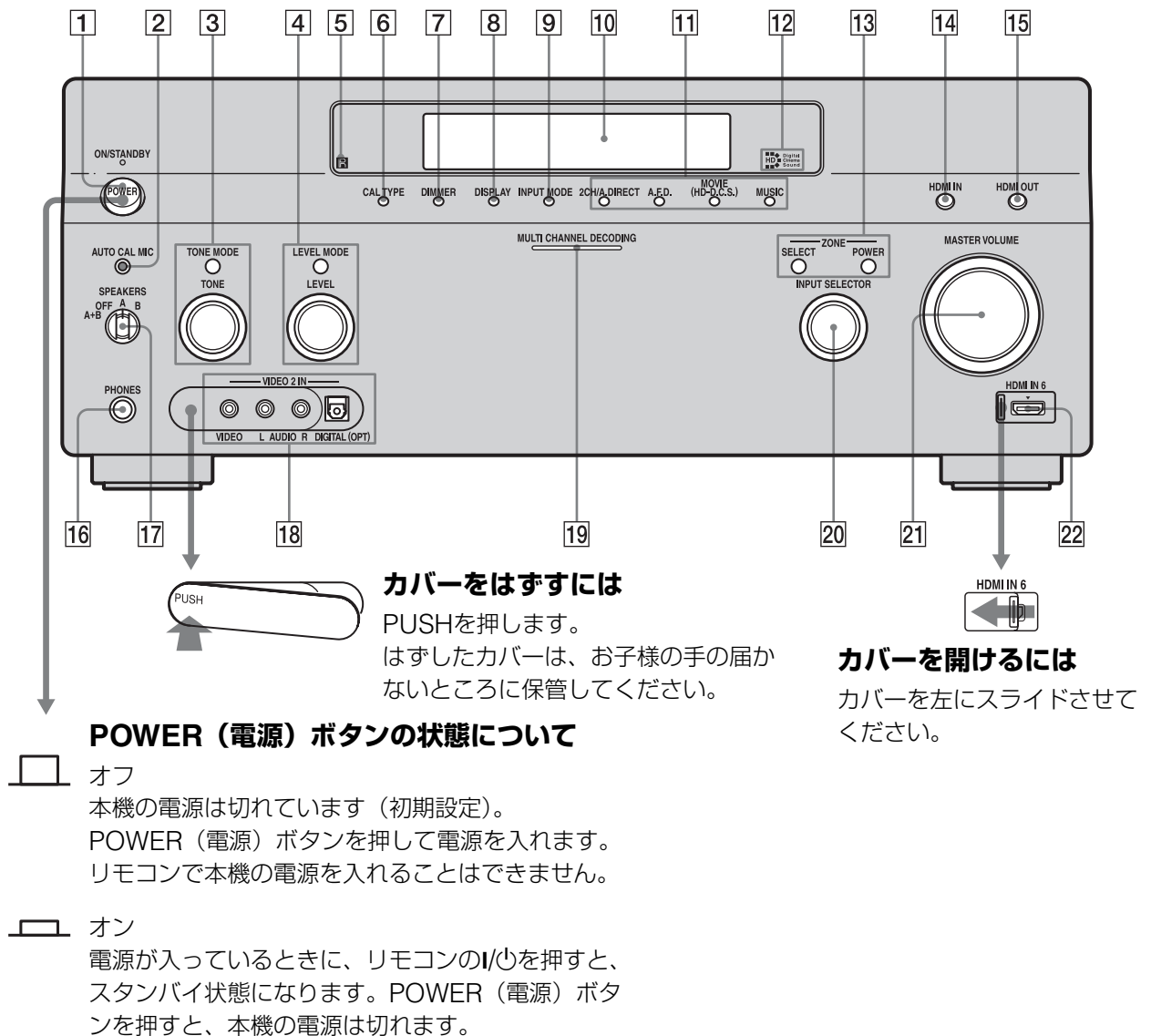
PUSHを押します。
はずしたカバーは、お子様の手の届かないところに保管してください。

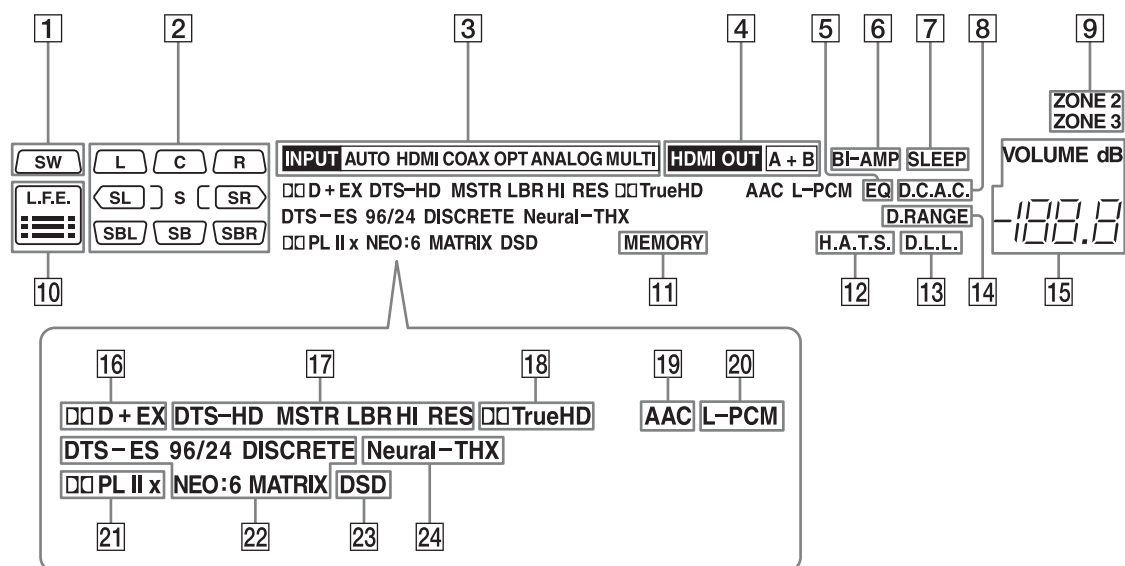
カバーを開けるには

カバーを左にスライドさせてください。

POWER（電源）ボタンの状態について

オフ
本機の電源は切れています（初期設定）。
POWER（電源）ボタンを押して電源を入れます。
リモコンで本機の電源を入れることはできません。

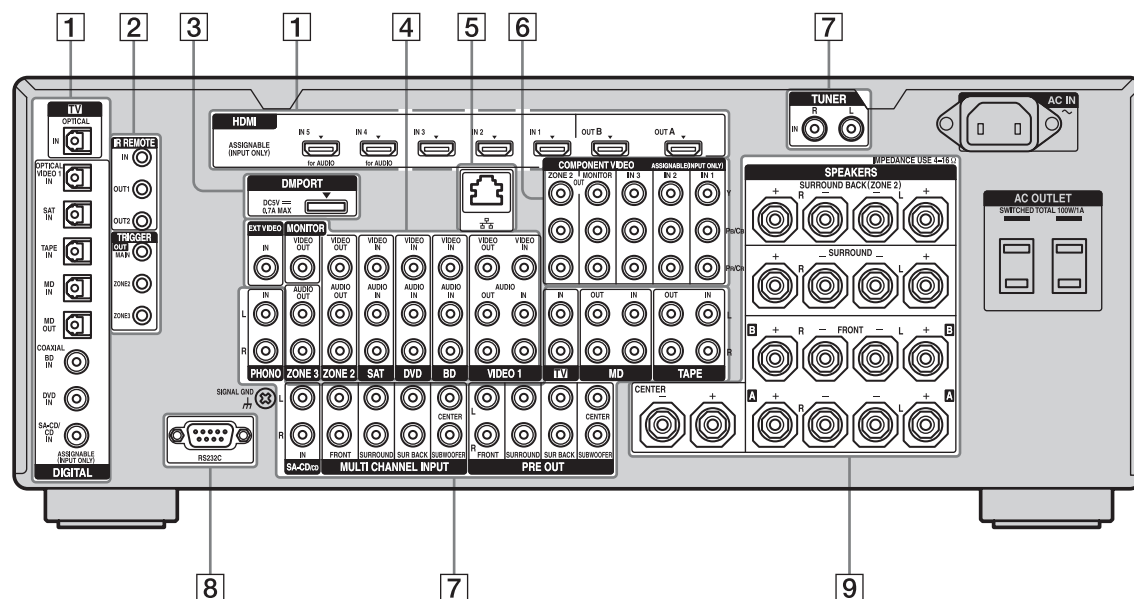
オン
電源が入っているときに、リモコンのI/⏻を押すと、スタンバイ状態になります。POWER（電源）ボタンを押すと、本機の電源は切れます。

名称	働き
1 POWER（電源）	本機（アンプ）の電源を入／切します。
2 AUTO CAL MIC端子	自動音場補正機能で使用するマイクをつなぎます（39ページ）。
3 TONE MODE TONEつまみ	フロント／センター／サラウンド／サラウンドバックスピーカーから出力される高音域（TREBLE）と、低音域（BASS）を調節します。TONE MODEをくり返し押して、BASSまたはTREBLEを選びます。続けてTONEつまみを回してレベルを調節します。
4 LEVEL MODE LEVELつまみ	LEVEL MODEをくり返し押して、Levelメニューを選びます。続けてLEVELつまみを回してレベルを調節します（106ページ）。
5 リモコン受光部	リモコンからの信号を受信します。
6 CAL TYPE	自動音場補正機能の補正タイプを設定します（42ページ）。
7 DIMMER	表示窓の明るさを切り換えます。
8 DISPLAY	表示窓に表示される情報を切り換えます。
9 INPUT MODE	同じ機器をデジタルとアナログ両方の入力端子につないでいる場合に、入力信号の優先順位を設定します（79ページ）。
10 表示窓	プログラムの名称や設定などの情報を表示します（7ページ）。
11 2CH/A.DIRECT A.F.D. MOVIE (HD-D.C.S.) MUSIC	サウンドフィールドを選びます（53、54、56、58ページ）。
12 HD Digital Cinema Soundランプ	サウンドフィールドにHD-D.C.S.が選ばれているときに点灯します（58ページ）。
13 ZONE/SELECT、POWER	SELECTをくり返し押して、2ndゾーン、3rdゾーン、またはメインゾーンを選びます。POWERを押すたびに、選んだゾーンへの信号出力を入／切します（67ページ）。
14 HDMI IN	HDMI IN端子への入力信号を選びます（24ページ）。
15 HDMI OUT	信号を出力するHDMI OUT端子を選びます（24ページ）。
16 PHONES端子	ヘッドホンをつなぎます。
17 SPEAKERS (OFF/A/B/A+B)	フロントスピーカーのOFF、A、B、A+Bを切り換えます（39ページ）。
18 VIDEO 2 IN端子	ビデオカメラやテレビゲーム機などのポータブルオーディオ／映像機器をつなぎます。
19 MULTI CHANNEL DECODINGランプ	マルチチャンネル音声がデコードされているときに点灯します。
20 INPUT SELECTORつまみ	再生する入力ソースを選びます。2ndゾーンまたは3rdゾーンの入力ソースを選ぶには、ZONE SELECT（13）を押して先に2ndゾーンまたは3rdゾーンを選び（表示窓に「ZONE 2 INPUT」または「ZONE 3 INPUT」と表示されます。）、INPUT SELECTORつまみを回して入力ソースを選びます。
21 MASTER VOLUMEつまみ	すべてのスピーカーの音量を同時に調節します（50ページ）。
22 HDMI IN 6	ビデオカメラをつなぎます。ビデオカメラからの映像と音声が入力されます（24ページ）。

表示窓

名称	働き
1 SW	アクティブサブウーファーをつないでいる場合、音声信号がSUBWOOFER端子から出力されているときに点灯します。この表示が点灯しているときは、入力信号のL.F.E.信号またはスピーカーの低域成分をもとに、アクティブサブウーファーから音声を出力しています。
2 再生チャンネル表示	現在本機が出力しているチャンネルを表示します。 文字（L、C、Rなど）はソース音源を、文字の周りの枠は、ソース音源が、スピーカーセッティングに基づくダウンミックス処理で、どのチャンネルから出力されているのかを示します。
L	フロント左
R	フロント右
C	センター（モノラル）
SL	サラウンド左
SR	サラウンド右
S	サラウンド（モノラル／プロロジック処理されたサラウンド成分）
SBL	サラウンドバック左
SBR	サラウンドバック右
SB	サラウンドバック（6.1チャンネル処理されたサラウンドバック成分） 例：記録形式（フロント／サラウンド）：3/2.1 再生チャンネル：サラウンドスピーカーなし サウンドフィールド：A.F.D. Auto SW L C R SL SR
3 入力表示	現在、本機に入力されている信号を表示します。
INPUT	入力ランプとともに常に点灯します。
AUTO	INPUT MODEが「Auto」に設定されているときに点灯します。
HDMI	HDMI IN端子につないだ機器が認識されているときに点灯します。
COAX	デジタル信号がCOAXIAL端子から入力されているときに点灯します。
OPT	デジタル信号がOPTICAL端子から入力されているときに点灯します。
ANALOG	デジタル信号が入力されていないとき、またはINPUT MODEが「Analog」や「2ch Analog Direct」に設定されているときに点灯します。
MULTI	マルチチャンネル入力が選ばれているときに点灯します。
4 HDMI OUT A+B	HDMI OUT A端子またはB端子から信号が出力されているときに点灯します。両方の端子から信号が出力されているときは、A、Bとともに＋も点灯します。
5 EQ	イコライザーが働いているときに点灯します。
6 BI-AMP	サラウンドバックスピーカーの設定を「BI-AMP」に設定しているときに点灯します。
7 SLEEP	スリープタイマーが働いているときに点灯します。
8 D.C.A.C.	自動音場補正機能が働いているときに点灯します。
9 ZONE 2、ZONE 3	2ndゾーン、3rdゾーンが操作可能な状態のときに点灯します。

つづく

名称	働き
10 L.F.E.	入力信号にL.F.E.（重低音効果）のチャンネルが存在しているときに「L.F.E.」の文字が点灯します。また、実際にL.F.E.信号の音が再生されているときには、文字の下のバーが信号のレベルに応じて点灯します。L.F.E.信号は、すべての部分に記録されているとは限らないため、多くの場合、バーは点灯と消灯をくり返します。
11 MEMORY	Name Inputなどのメモリー機能が働いているときに点灯します（51ページ）。
12 H.A.T.S.	H.A.T.S.（High quality digital Audio Transmission System）機能が働いているときに点灯します。
13 D.L.L.	Digital Legato Linear（D.L.L.）機能が働いているときに点灯します。
14 D.RANGE	ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します。
15 VOLUME	現在の音量を表示します。
16 **ドルビーデジタルサラウンド表示**	ドルビーデジタルフォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。 ドルビーデジタルフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していること、INPUT MODEが「Analog」になっていないことを確認してください。
□□D	Dolby Digital
□□D+	Dolby Digital Plus
□□D EX	Dolby Digital Surround EX
17 DTS-HD表示	DTS-HD信号をデコードしているときに点灯します。
DTS-HD	次の表示とともに点灯します。
MSTR	DTS-HD Master Audio
LBR	DTS-HD Low Bit Rate Audio
HI RES	DTS-HD High Resolution Audio
18 □□TrueHD	Dolby TrueHD信号をデコードしているときに点灯します。
19 AAC	MPEG2 AAC信号が入力されたときに点灯します。
20 L-PCM	リニアPCM信号が入力されたときに点灯します。
21 **ドルビープロロジック表示**	ドルビープロロジック処理をしているときに、該当するいずれかの表示が点灯します。マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を5.1チャンネルまたは7.1チャンネルに拡張します。センタースピーカーとサラウンドスピーカーが接続されていない場合は、点灯しません。
□□PL	Dolby Pro Logic
□□PLII	Dolby Pro Logic II
□□PLIIx	Dolby Pro Logic IIx

名称	働き
22 DTS（-ES）表示	DTSまたはDTS-ES信号を入力しているときに点灯します。 DTSフォーマットのディスクを再生するときは、デジタル接続していること、INPUT MODEが「Analog」になっていないことを確認してください。
DTS	DTS信号をデコードしているときに点灯します。信号やデコードのフォーマットによって、次の表示も点灯します。
96/24	DTS 96 kHz/24ビット信号をデコードしているときに点灯します。
NEO:6	DTS Neo:6 Cinema/Music
DTS-ES	デコードのフォーマットよって、次の表示とともに点灯します。
DISCRETE	DTS-ES Discrete 6.1
MATRIX	DTS-ES Matrix 6.1
23 DSD	DSD（Direct Stream Digital）信号を受信しているときに点灯します。
24 Neural-THX	Neural-THXで入力信号を処理しているときに点灯します。

本体後面

1 デジタル入出力部

	OPTICAL（光）デジタル音声入出力端子	DVDプレーヤー、スーパーオーディオCD/CDプレーヤーなどをつなぎます（18、19、20、28、29ページ）。
	COAXIAL（同軸）デジタル音声入力端子	
	HDMI入出力端子*	DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー、チューナーなどをつなぎ、映像と音声をテレビやプロジェクターなどに出力します（18、24ページ）。

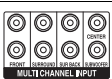
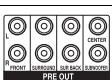
2 ソニー製機器、その他外部機器のコントロール端子

	IR REMOTE入出力端子	AVマウス（33ページ）またはIRリピーター（67ページ）をつなぎます。
	TRIGGER OUT端子	12Vトリガ対応の他の機器や、2ndゾーンまたは3rdゾーンにあるアンプの電源を連動してオン／オフするときにつなぎます（97ページ）。

3 DMPORT

		ソニー製のデジタルメディアポートアダプターをつなぎます （20ページ）。

4 映像と音声の入出力部

L R	音声入出力端子	ビデオデッキ、DVDプレーヤーなどの映像と音声をつなぎます（18、28、29、30ページ）。
	映像入出力端子*	
VIDEO OUT AUDIO OUT ZONE 2 / AUDIO OUT ZONE 3	音声出力端子 映像出力端子	2ndゾーン、3rdゾーンにある機器につなぎます（67ページ）。
EXT VIDEO IN	EXT VIDEO IN端子	PIP（Picture In Picture）画面を使いたいときに映像機器をつなぎます。

5 LANポート

		本機をネットワークに接続するとき、ルーターにつなぎます。

6 コンポーネント映像入出力部

Y PB/CB PR/CR	Y、P_B/C_B、P_R/C_R入出力端子*	DVDプレーヤー、テレビ、チューナーなどとつなぎ、より高画質な映像を楽しめます（18、28、29ページ）。

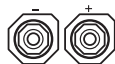
つづく

7 音声入出力部

L R	音声入出力端子	カセットデッキ、MDデッキなどをつなぎます（18、20、22、23ページ）。
MULTI CHANNEL INPUT	マルチチャンネル入力端子	7.1チャンネルや5.1チャンネルのアナログ音声出力端子を持っているスーパーオーディオCDプレーヤーやDVDプレーヤーをつなぎます（19、22ページ）。
PRE OUT	PRE OUT（プリアウト）出力端子	外部のパワーアンプなどとつなぎます。

8 RS232C端子

		保守、サービス用です。

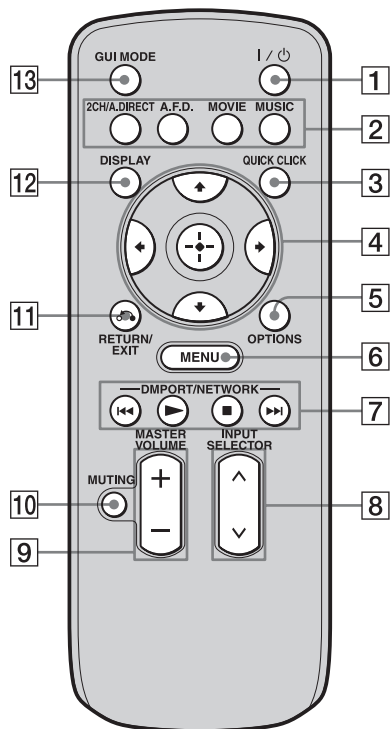
9 スピーカー出力部

		スピーカーをつなぎます（16ページ）。

＊お持ちのテレビを HDMI OUT 端子や MONITOR OUT 端子につなぐと、選んだ入力の映像を見ることができます（18ページ）。

リモコン

付属のリモコンを使って、本機の操作ができます。また、リモコンに登録したソニー製機器を操作できます（122ページ）。

簡単リモコン（RM-AAU061）

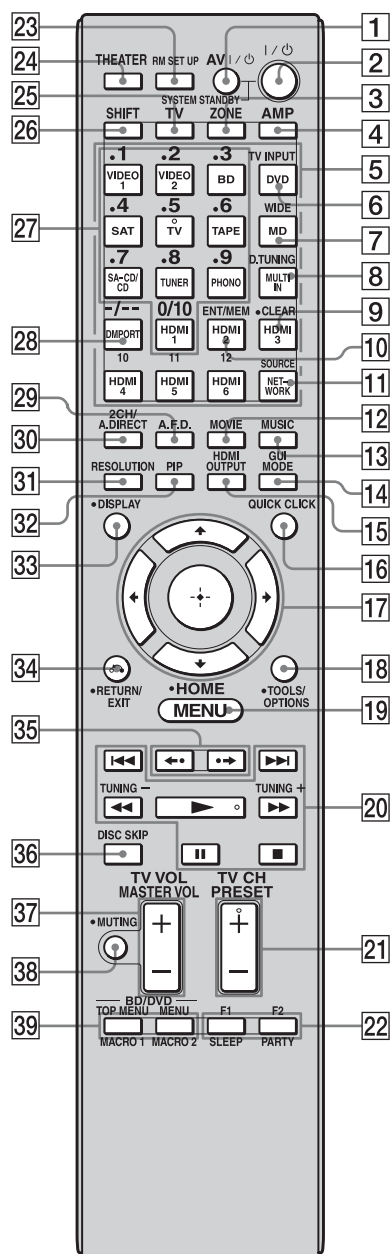
本機の操作専用のリモコンです。主な機能をシンプルな操作で使うことができます。

名称	働き
1 **I/⏻（電源オン／スタンバイ）**	本体の電源を入／切します。
2 2CH/A.DIRECT	サウンドフィールドを選びます（53、54、56、58ページ）。
A.F.D.	
MOVIE	
MUSIC	
3 QUICK CLICK	テレビ画面に画面リモコン（クイッククリック）を表示します。
4 ⊕ ↑/↓/←/→	↑/↓/←/→で項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
5 OPTIONS	オプションメニューを表示、選択します。
6 MENU	本機のメニューを表示します。

名称	働き
7 DMPORT/NETWORK	デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器の操作、またはサーバー上のコンテンツの再生に使うボタンです。
▶	再生します。
■	停止します。
⏮/⏭	トラックをスキップします。
8 INPUT SELECTOR	再生する入力ソースを選びます。
9 MASTER VOLUME +/–	すべてのスピーカーの音量を同時に調節します（50ページ）。
10 MUTING	一時的に消音するときに押します。消音機能を解除する場合はもう一度MUTINGを押します。
11 RETURN/EXIT ↶	前のメニューに戻るときやメニューを消すときに押します。
12 DISPLAY	表示窓の情報を切り換えるときに押します。
13 GUI MODE	メニューの表示モードを「GUI MODE」（テレビ画面）または「DISPLAY MODE」（表示窓）に切り換えます。

ご注意

- 機器によっては使えない機能もあります。
- 機能の説明は、例としてあげています。お使いの機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されているとおりに動かない場合があります。
- 「GUI MODE」でDISPLAY（12）を押すと、テレビ画面にメニューが表示されます。

つづく

多機能リモコン（RM-AAL024）

名称	働き
1 **AV I/⏻（電源オン／スタンバイ）**	リモコンに登録されている機器の電源を入／切します（122ページ）。 I/⏻（2）と同時に押すと、本体と、他のソニー製オーディオ／映像機器の電源を切ります（SYSTEM STANDBY）。

名称	働き
2 **I/⏻（電源オン／スタンバイ）**	本体の電源を入／切します。 2ndゾーンまたは3rdゾーンが選ばれている場合は、このボタンでメインのアンプの電源のみ入／切できます。2ndゾーンまたは3rdゾーンのアンプを含むすべての機器の電源を切るときは、I/⏻とAV I/⏻（1）を同時に押します（SYSTEM STANDBY）。 スタンバイ時の消費電力を抑えるには、「Control for HDMI」および「Installer Mode」を、それぞれ「OFF」に設定し、2nd／3rdゾーンの電源を切ってください。
3 ZONE	2ndゾーンまたは3rdゾーンの操作に切り換えます（67ページ）。
4 AMP	本機のリモコン操作を有効にします。
5 **入力切り換え用ボタン**	使用する機器を選びます。 入力切り換え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。 工場出荷時は、ソニー製機器の操作ができるように設定されています（50ページ）。リモコンに登録すると、他社製の機器を操作することもできます。詳しくは、「お使いの機器に合わせてリモコンコードを設定する」（122ページ）をご覧ください。
6 TV INPUT	TV（25）を押したあとTV INPUTを押して、テレビの入力信号を選びます。
7 WIDE	TV（25）を押したあとWIDEをくり返し押して、ワイド画面モードを選びます。
8 D.TUNING	SHIFT（26）を押したあとD.TUNINGを押して、放送局を手動受信するモードにします。
9 CLEAR	SHIFT（26）を押してからCLEARを押すと、数字ボタンを間違えて押したときに、取り消すことができます。 また、BSデジタルチューナーやDVDプレーヤーを連続再生などに戻します。
10 ENT/MEM	数字ボタンでチャンネルやディスク、トラックを選び、SHIFT（26）を押したあとENT/MEMを押して決定します。

ご注意

AV I/⏻（1）の機能は、入力切り換え用ボタン（5）を押すたびに自動的に切り換わります。

名称	働き
11 SOURCE	SHIFT（26）を押してからSOURCEを押すと、メインゾーンで選んでいるソース機器の信号を2ndゾーンおよび3rdゾーンに出力することができます（71ページ）。
12 MOVIE	映画用サウンドフィールドを選びます（58ページ）。
13 MUSIC	音楽用サウンドフィールドを選びます（56ページ）。
14 GUI MODE	メニューの表示モードを「GUI MODE」（テレビ画面）または「DISPLAY MODE」（表示窓）に切り換えます。
15 HDMI OUTPUT	信号を出力するHDMI OUT端子を選びます（24ページ）。
16 QUICK CLICK	テレビ画面に画面リモコン（クイッククリック）を表示します。
17 ⊕ ↑/↓/←/→	↑/↓/←/→を押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
18 TOOLS/OPTIONS	本機やDVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーのオプションメニューを表示、選択します。
19 MENU HOME	つないだオーディオ／映像機器やテレビのメニューを表示します。
20 ◀◀/▶▶a) ■a) ❚❚a) ▶a) b) ◀◀/▶▶❚a)	DVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、CDプレーヤー、MDデッキ、カセットデッキ、デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器などを操作します。
21 PRESET +b)/– TV CH +b)/–	つないだ機器のチャンネルなどを切り換えます。詳しくは、「多機能リモコンで他機を操作する」（120ページ）をご覧ください。

名称	働き
22 F1/F2	BDまたはDVD（5）を押したあと、F1またはF2を押して操作モードを切り換えます。 • ハードディスクレコーダー F1：HDD F2：DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー • DVD/VHSコンボプレーヤー F1：DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー F2：VHS
SLEEP	AMP（4）を押したあとSLEEPを押して、スリープタイマーを有効にし、本機の電源が自動的に切れるまでの時間を設定します（82ページ）。
PARTY	確認画面を表示して、パーティー機能を開始します。
23 RM SET UP	押すと、リモコンの設定ができます。
24 THEATER	“ブラビアリンク”対応製品とつないだとき、シアターモードを入／切します。
25 TV	テレビの操作を有効にします。
26 SHIFT	押してボタンを点灯させると、ピンク色でボタン名が表記されたボタンの操作が有効になります。
27 数字ボタン	操作する機器の入力切り換え用ボタン（5）を押したあと、SHIFT（26）を押します。そのあとに数字ボタンを押して、トラックや周波数、チャンネルを選びます。0/10ボタンは、操作する機器によって0または10として働きます。 **ヒント** 操作する機器がテレビの場合（TV（25）を押した場合）は、SHIFT（26）を押さなくても、数字ボタンを押してチャンネルを選べます。
28 -/--	-/--を押してから数字ボタンを押すと、10以上の数字のトラックまたはチャンネルを選べます。 機器によっては、-/--を押さずに数字ボタンを押して選べる場合もあります。
29 A.F.D.	サウンドフィールドを選びます（54ページ）。
30 2CH/A.DIRECT	2チャンネルのステレオ音声で聞くことができます。または選んだ入力の音声を、調整を加えないアナログの信号に切り換えます（53ページ）。

つづく

名称	働き
31 RESOLUTION	RESOLUTIONをくり返し押して、HDMI OUT端子とCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子から出力される映像の解像度を切り換えます。
32 PIP	子画面（PIP（Picture In Picture））を表示します。PIPをもう一度押すと、子画面の表示を解除できます。子画面にはEXT VIDEO IN端子につないだ機器の映像が表示されます。また、⊕（17）を押すと主画面と子画面の映像が入れ換わります。↑/↓（17）で子画面の大きさを拡大／縮小、←/→（17）で子画面の位置を移動できます。
33 DISPLAY	本体の表示窓やテレビ画面に表示される接続機器の情報を切り換えます。
34 RETURN/EXIT ↶	ビデオデッキやDVDプレーヤー、BSデジタルチューナーのメニューやガイドがテレビ画面に表示されている場合、前のメニューに戻るときやメニューを消すときに押します。
35 ←·/·→	アルバムを選びます。
36 DISC SKIP	マルチディスクチェンジャーを使っているときに、ディスクを選びます。
37 MASTER VOL +/–	すべてのスピーカーの音量を同時に調節します（50ページ）。
TV VOL +/–	TV（25）を押したあとTV VOL +/–を押して、テレビの音量を調節します。
38 MUTING	一時的に消音するときに押します。消音機能を解除する場合はもう一度MUTINGを押します。
39 BD/DVD TOP MENU、BD/DVD MENU	ブルーレイディスクレコーダーやDVDプレーヤー、テレビのメニューやガイドをテレビ画面に表示させるときに押します。↑/↓/←/→/⊕（17）を使ってメニュー操作を行います。
MACRO 1、MACRO 2	AMP（4）を押したあとMACRO 1またはMACRO 2を押してマクロ操作を設定または実行します（125ページ）。

a) 各機器を操作できるその他のボタンについては、121 ページの表をご覧ください。

b) 数字ボタンの 5/TV および ►、PRESET +/TV CH + には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

ご注意

- 主画面で HDMI 入力を選んでいるときは、⊕（17）を押しても、主画面と子画面の映像の入れ換えはできません。
- 「GUI MODE」で DISPLAY（33）を押すと、テレビ画面にメニューが表示されます。

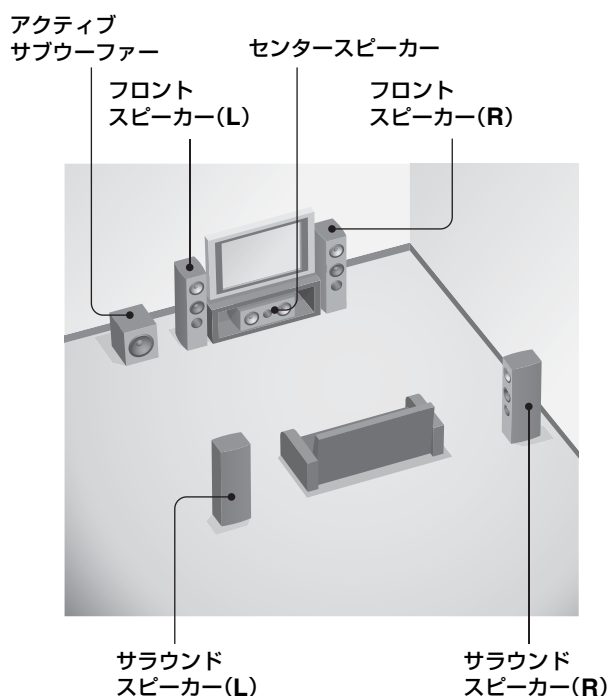
準備1：スピーカーを設置する

本機では最大7.1チャンネル（スピーカー 7本とアクティブサブウーファー 1本）のスピーカーシステムを構成できます。

5.1/7.1チャンネルで楽しむ

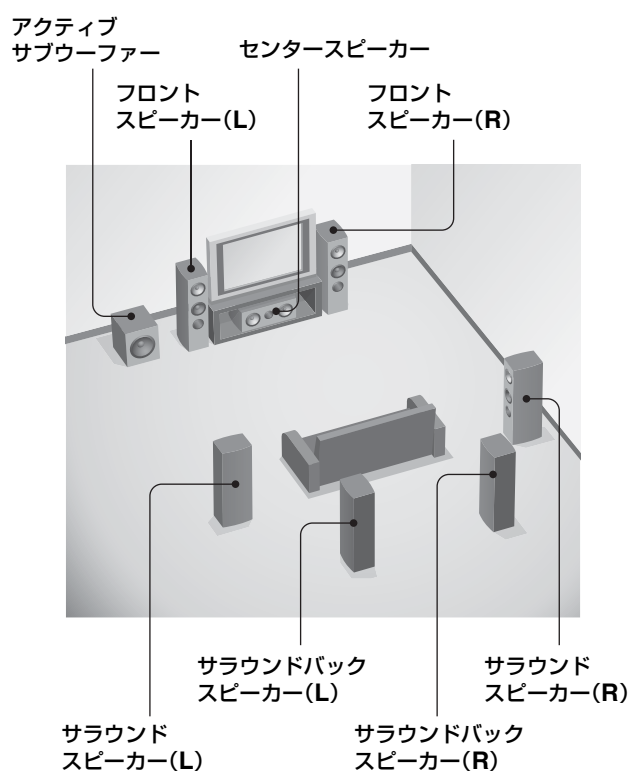
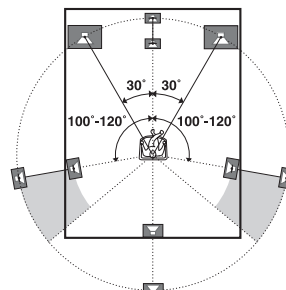
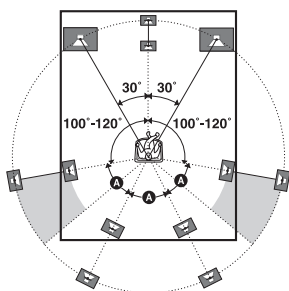
映画館のようなマルチチャンネル音声を充分にお楽しみいただくには、
- 5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）
- アクティブサブウーファー

が必要です（5.1チャンネル）。

5.1チャンネルの設置例

5.1チャンネルにさらに
- サラウンドバックスピーカー：1本（6.1チャンネル）

または
- サラウンドバックスピーカー：2本（7.1チャンネル）

を追加することによって、サラウンドEXフォーマットのDVDやブルーレイソフトを忠実に再現できるようになります。

7.1チャンネルの設置例

ちょっと一言
- Ⓐ の角度は同じにします。

- 6.1 チャンネルのスピーカーシステムを構成する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポジションの真後ろに配置します。
- アクティブサブウーファーには指向性がありませんので、お好みの場所に設置できます。

つづく

スピーカーを接続する

ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

サラウンド
スピーカー（R）

サラウンド
スピーカー（L）

サラウンドバック
スピーカー（R）[a]

サラウンドバック
スピーカー（L）[a]

FRONT SPEAKERS
B 端子[b]

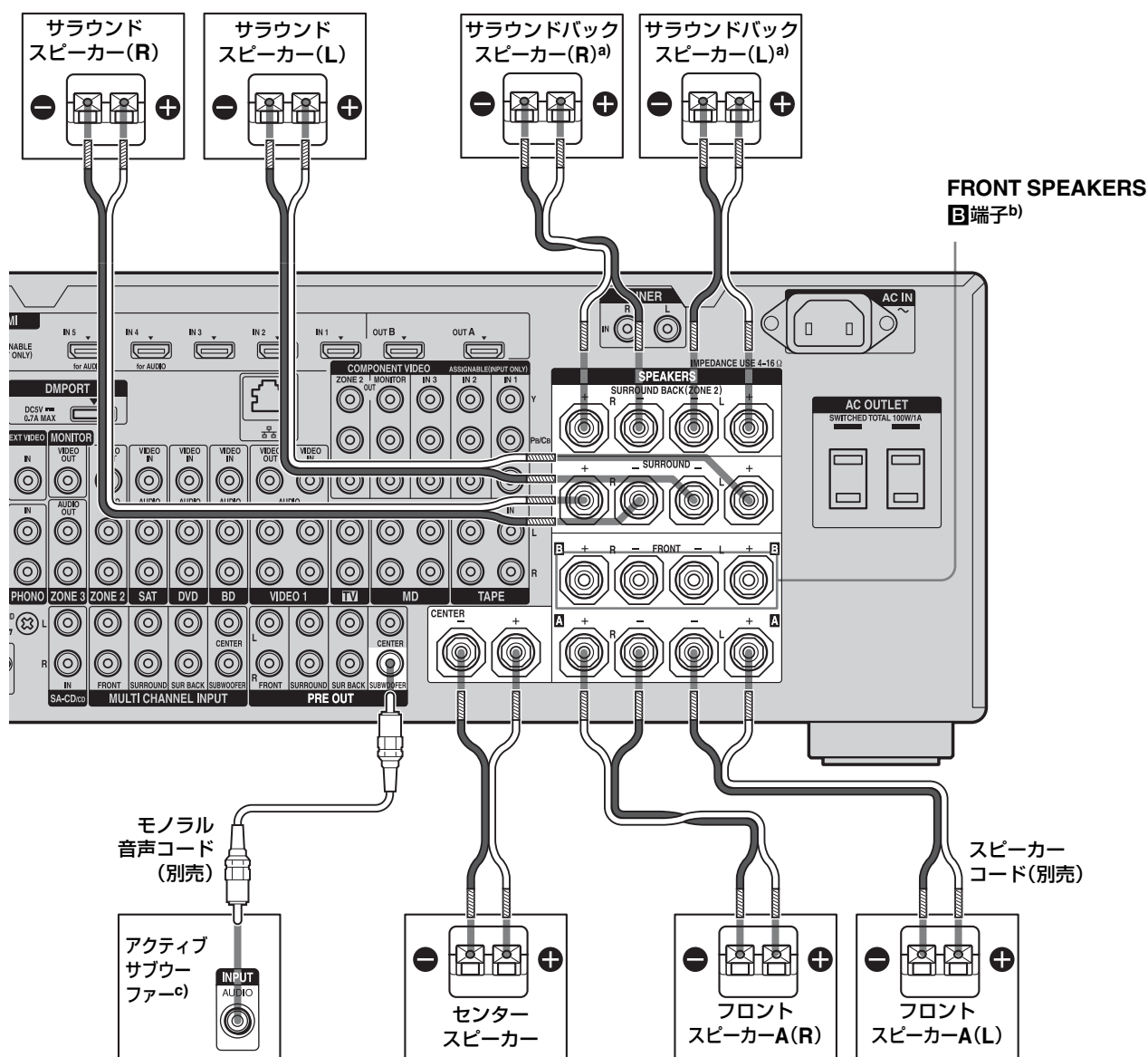
モノラル
音声コード
（別売）

スピーカー
コード（別売）

アクティブ
サブウー
ファー[c]

INPUT
AUDIO

センター
スピーカー

フロント
スピーカーA（R）

フロント
スピーカーA（L）

a) サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用するときは、SURROUND BACK SPEAKERS L 端子につないでください。

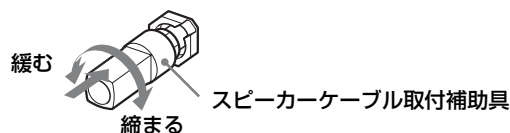
b) 追加のフロントスピーカーを使用するときは、FRONT SPEAKERS B 端子につないでください。使用するフロントスピーカーを本機前面の SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）で選べます（39 ページ）。

c) オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能を OFF にしてください。オートスタンバイ機能が ON になっていると、アクティブサブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイ状態になり、音が出なくなることがあります。

ご注意

- すべて 8Ω 以上のスピーカーをつないだ場合は、Speaker メニューの「Impedance」を「8Ω」に設定してください。それ以外の場合は「4Ω」に設定してください。詳しくは「準備 6：スピーカーを設定する」（37 ページ）をご覧ください。
- 電源コードをつなぐ前に、各スピーカー端子間でコードの金属線が接触していないことを確認してください。

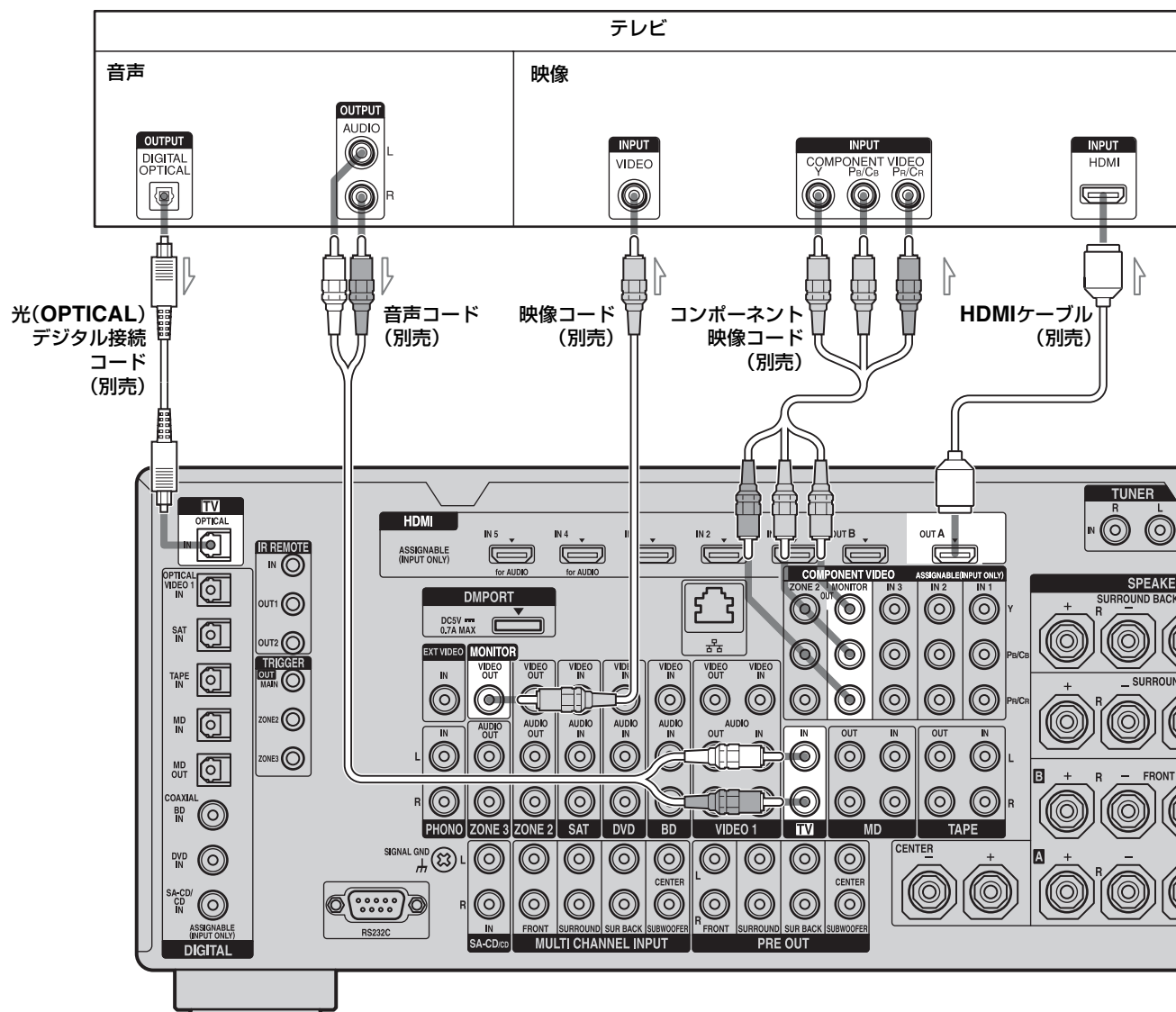
ちょっと一言

- 別のパワーアンプにつないでいるスピーカーに出力するためには、PRE OUT 端子を使用してください。SPEAKERS 端子と PRE OUT 端子の両方から同じ信号が出力されます。例えば、フロントスピーカーだけを別のアンプにつなぎたい場合は、そのアンプを PRE OUT FRONT L、R 端子につなぎます。
- 付属のスピーカーケーブル取付補助具を使うと、楽に SPEAKERS 端子を緩めたり、締め付けたりできます。

2ndゾーンの接続

SURROUND BACK SPEAKERS L、R端子を2ndゾーンのスピーカー用に割り当てることができます。Speakerメニューの「Sur Back Assign」を「ZONE2」に設定してください。2ndゾーンの接続と操作について詳しくは、「マルチゾーン機能を使う」（67ページ）をご覧ください。

準備 2:テレビを接続する

お持ちのテレビをHDMI OUT端子やMONITOR OUT端子につなぐと、選んだ入力の映像を見ることができます。
GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作できます。
すべてのケーブルでつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声／映像コードをつないでください。

ご注意

- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- MONITOR VIDEO OUT 端子にはテレビやプロジェクターなどの映像機器をつないでください。録画機器をつないでも、録画できないことがあります。
- 「Pass Through」を「OFF」に設定している場合、電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。
- テレビのアンテナのつなぎかたによってはテレビの映像が乱れることがあります。この場合、アンテナを本機から離して設置してください。

ちょっと一言

- 本機は映像信号の変換機能を持っています。詳しくは、「映像の変換機能のご注意」（32 ページ）をご覧ください。
- テレビの音声出力端子を本機の TV IN 端子につなぐと、テレビの音声を本機につないだスピーカーで聞けます。テレビの音声出力端子が可変／固定切り換えの場合には、固定にします。別売の BS チューナーなどをつなぐ場合は、音声・映像端子ともに本機につないでください（29 ページ）。
- GUI メニューがテレビ画面に表示された状態で 15 分以上操作がおこなわれない場合は、スクリーンセーバーが起動します。

準備 3a：オーディオ機器を接続する

お持ちの機器の接続のしかたを確認する

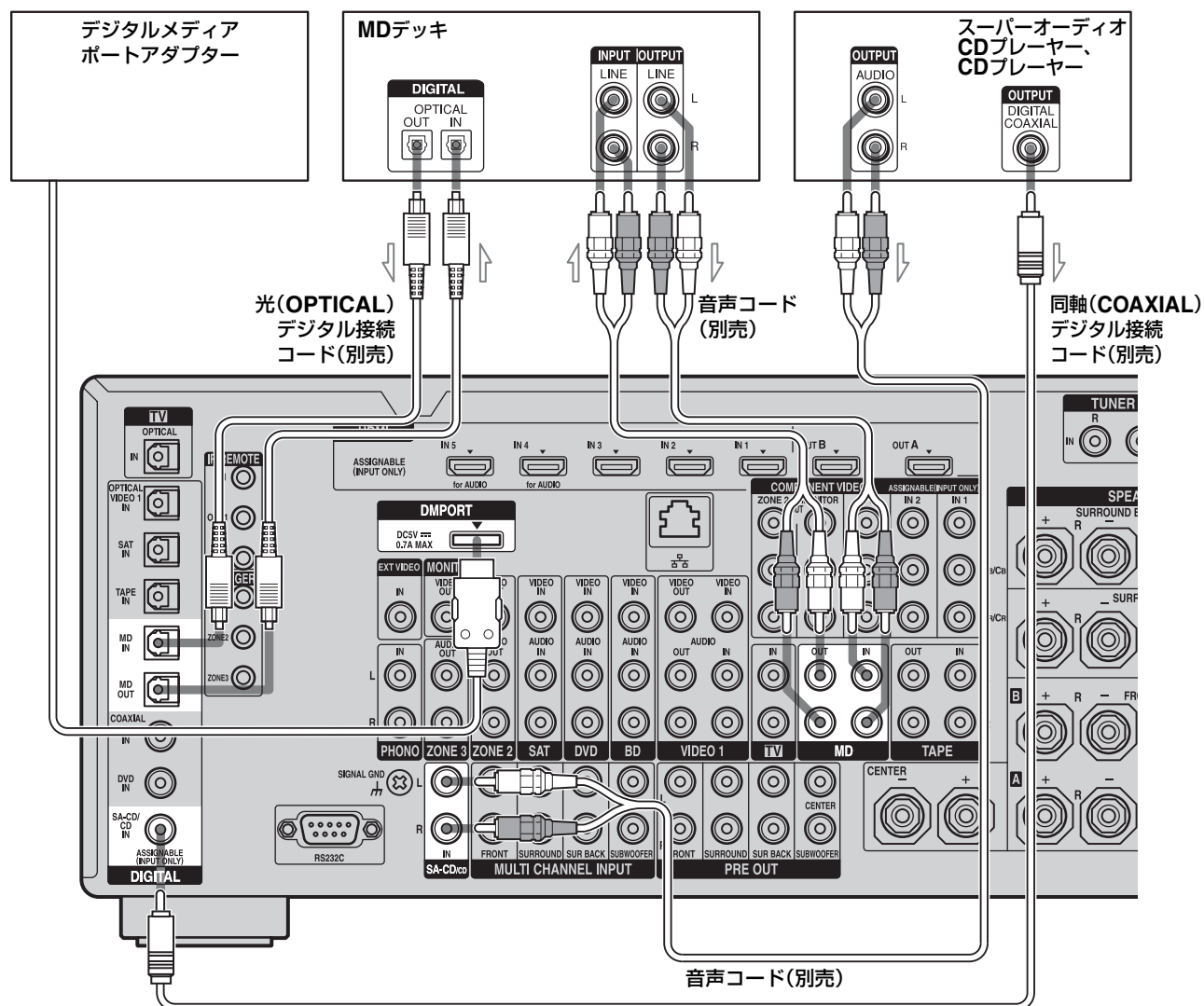
本機とお持ちの機器との接続のしかたを説明します。はじめに下記の接続機器一覧で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。

接続機器		ページ
スーパーオーディオCD/CDプレーヤー	デジタル音声出力端子付き	20ページ
	マルチチャンネル音声出力端子付き	22ページ
	アナログ音声出力端子付き	23ページ
MDデッキ	デジタル音声出力端子付き	20ページ
	アナログ音声出力端子付き	23ページ
カセットデッキ、レコードプレーヤー、チューナー		23ページ

つづく

デジタル音声出入力端子のある機器

スーパーオーディオCD/CDプレーヤーやMDデッキ、デジタルメディアポートアダプターの接続例です。

ご注意

- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。
- デジタルメディアポートアダプターをはずすときは、コネクタの側面を押しながらはずしてください。コネクタはロックで固定されています。

ちょっと一言

- 本機の DIGITAL 音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。
- LD プレーヤーの DOLBY DIGITAL RF OUT 端子を本機のデジタル入力端子に直接つなぐことはできません。RF 復調器が必要です。

スーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生するときのご注意

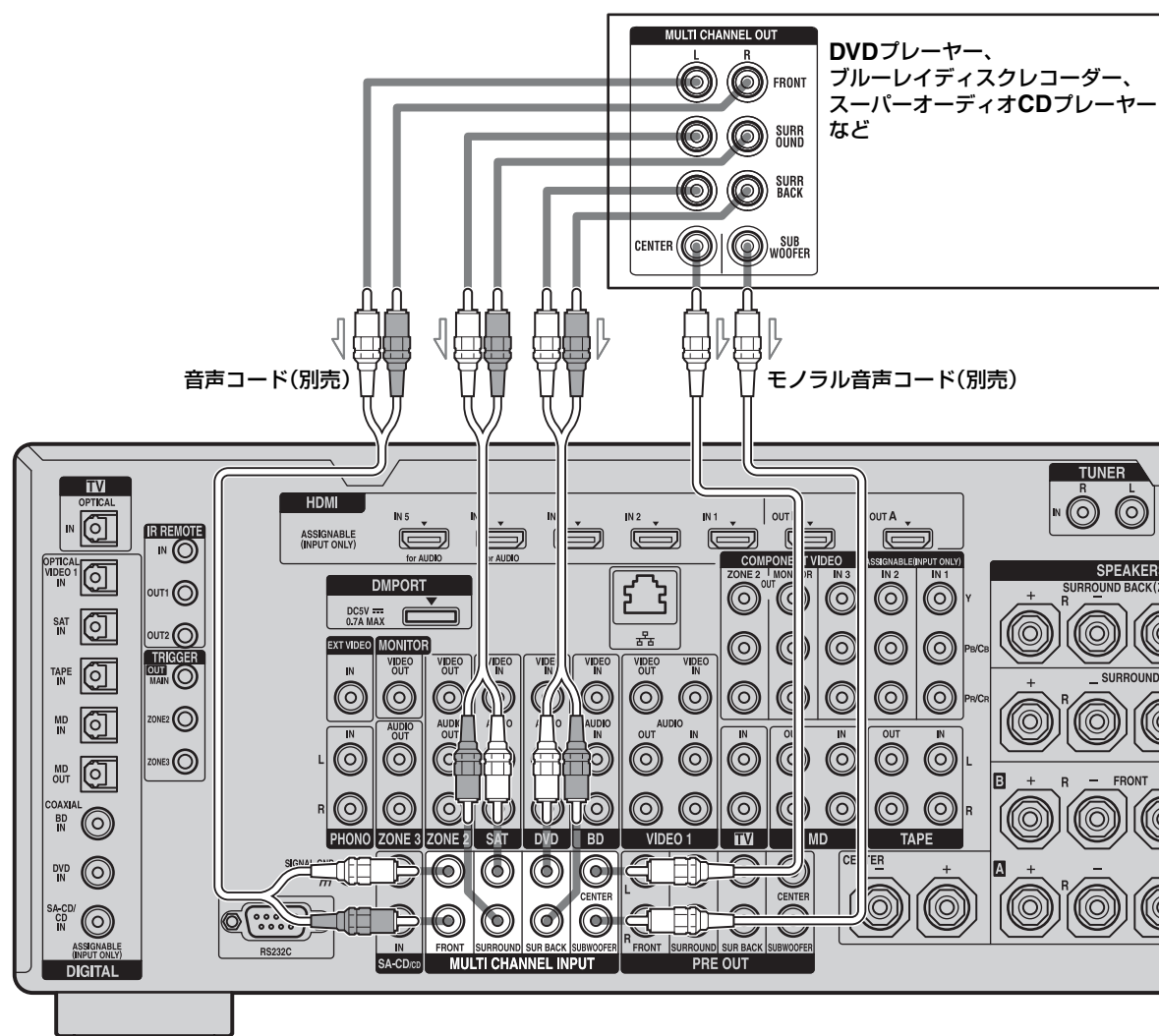
- 本機のCOAXIAL SA-CD/CD IN端子につないだスーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生しても、音声は出力されません。スーパーオーディオCDのディスクを再生するには、本機のMULTI CHANNEL INPUTまたはSA-CD/CD IN端子につないでください。スーパーオーディオCDプレーヤーの取扱説明書もあわせて参照してください。
- HDMI端子からDSD信号を出力できる機器と本機をHDMIケーブルでつないでください。
- スーパーオーディオCDのデジタル音声はデジタル録音できません。

複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は

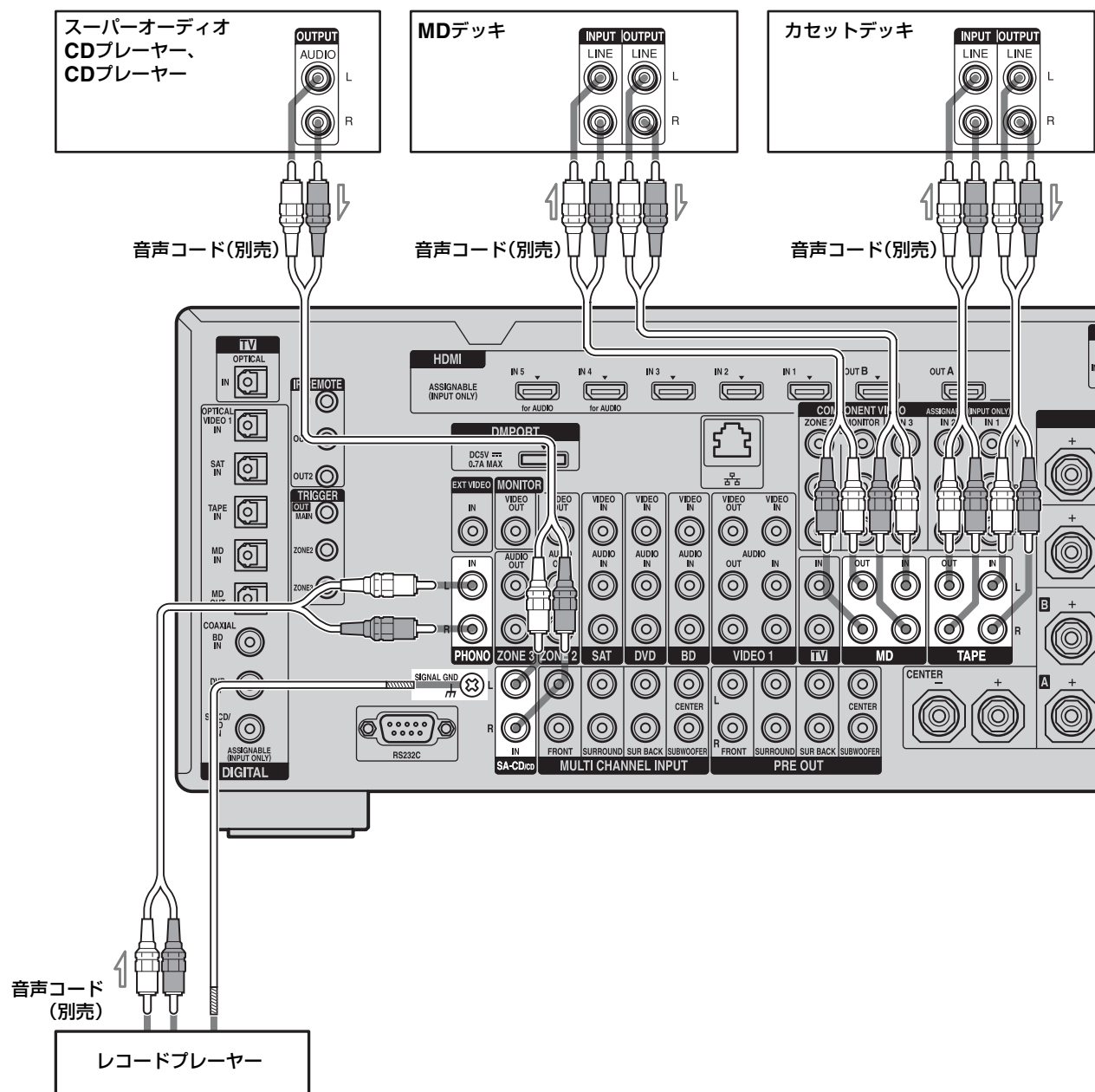
「他の入力からの音声／映像を楽しむ （Input Assign)」（80ページ）をご覧ください。

マルチチャンネル音声出力端子のある機器

お持ちのDVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、スーパーオーディオCDプレーヤーなどにマルチチャンネル音声出力端子がある場合は、本機のMULTI CHANNEL INPUT端子につないで、マルチチャンネル音声を楽しむことができます。外部のマルチチャンネルデコーダーとつなぐためにマルチチャンネル入力端子を使用することもできます。

ご注意

- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- DVD プレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、スーパーオーディオ CD プレーヤーには SURROUND BACK 端子がないことがあります。
- Speaker メニューで「Sur Back Assign」が「BI-AMP」または「ZONE2」に設定されている場合、SUR BACK 端子は無効になります。
- MULTI CHANNEL INPUT 端子に入力された音声信号は、録音出力端子からは出力されません。音声信号は録音できません。

アナログ音声出力端子のある機器

カセットデッキやレコードプレーヤーなどアナログ端子のある機器の接続例です。

ご注意

- お持ちのレコードプレーヤーにアース線が付いているときは、ハム音を防ぐために、アース線を本機の ⏚ SIGNAL GND 端子につないでください。
- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。
- 本機の PHONO 入力は MM カートリッジに対応しています。

準備 3b:映像機器を接続する

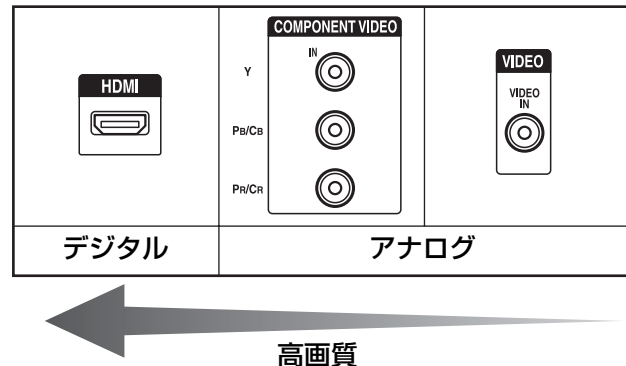
お持ちの機器の接続のしかたを確認する

本機とお持ちの機器との接続のしかたを説明します。はじめに下記の接続機器一覧で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。

接続機器	ページ
テレビ	18ページ
HDMI端子のある機器	24ページ
DVDプレーヤー、 ブルーレイディスクレコーダー	28ページ
BSデジタル／デジタルCSチューナー、 ケーブルテレビ（セットトップボックス）	29ページ
DVDレコーダー、ビデオデッキ	30ページ
ビデオカメラ、テレビゲームなど	30ページ

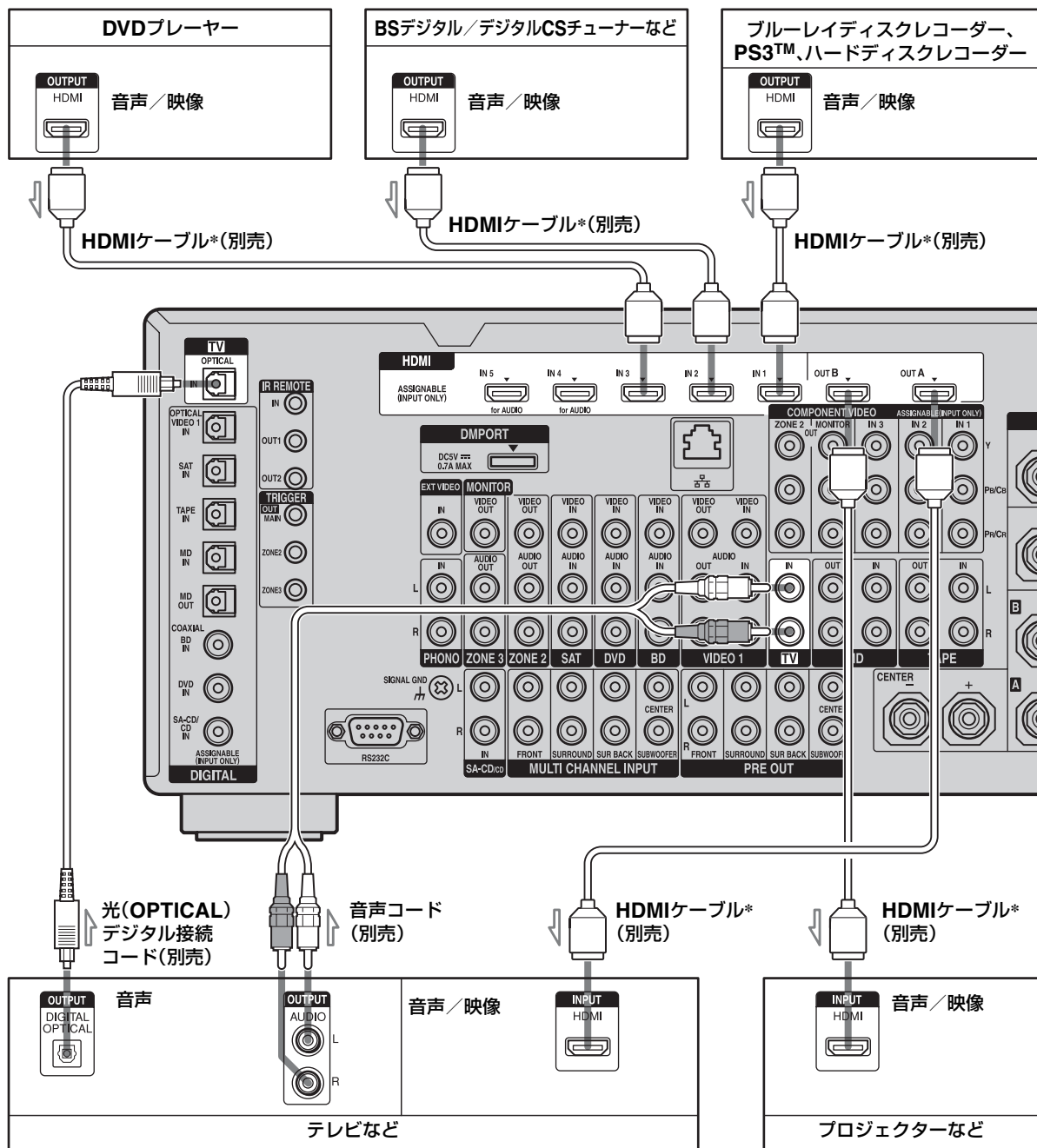
接続する映像端子について

映像信号は次の図のような順によい画質でお楽しみいただけます。お持ちの機器にある端子に合わせて、接続のしかたを選んでください。

高画質

HDMI端子のある機器を接続する

HDMIとはHigh-Definition Multimedia Interfaceの略で、映像信号と音声信号をデジタルで伝送するインターフェースです。

HDMI接続でできること

- 本機ではHDMIで転送されたデジタル音声信号をスピーカー端子とPRE OUTから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、DSD、リニアPCM、AACの各フォーマットに対応しています。
- DSD信号や、DSDをリニアPCMに変換してHDMI出力できるプレーヤーを、HDMIでつなぐことができます。
- 本機は、リニアPCM（サンプリング周波数192 kHz以下）で、8チャンネルまでのデジタル音声信号を、HDMIを使った伝送で受信することができます。
- 映像端子、コンポーネント映像端子に入力したアナログ映像信号を、HDMIに変換して出力できます。映像を変換したとき、音声信号はHDMI OUT端子から出力されません。
- HDMI Version 1.2で拡張されたDSD（Super Audio CD）伝送に対応しています。
- HDMI Version 1.3で拡張されたHigh Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、Deep Color、x.v.Color伝送に対応しています。
- 本機はHDMI機器制御機能に対応しています。ただし、HDMI OUT B端子はHDMI機器制御機能に対応していません。
- HDMI IN 1～6端子はすべて同じようにお使いいただけますが、HDMI IN 4、5端子は、特に音質に配慮した入力端子です。音質を重視したいソース機器との接続をおすすめします。
- 本機にビデオカメラをHDMI接続するときは、HDMI IN 1、2および6端子をお使いください。

＊ソニー製の HDMI ケーブルをおすすめします。

テレビのマルチチャンネルサラウンドサウンド放送を楽しむには

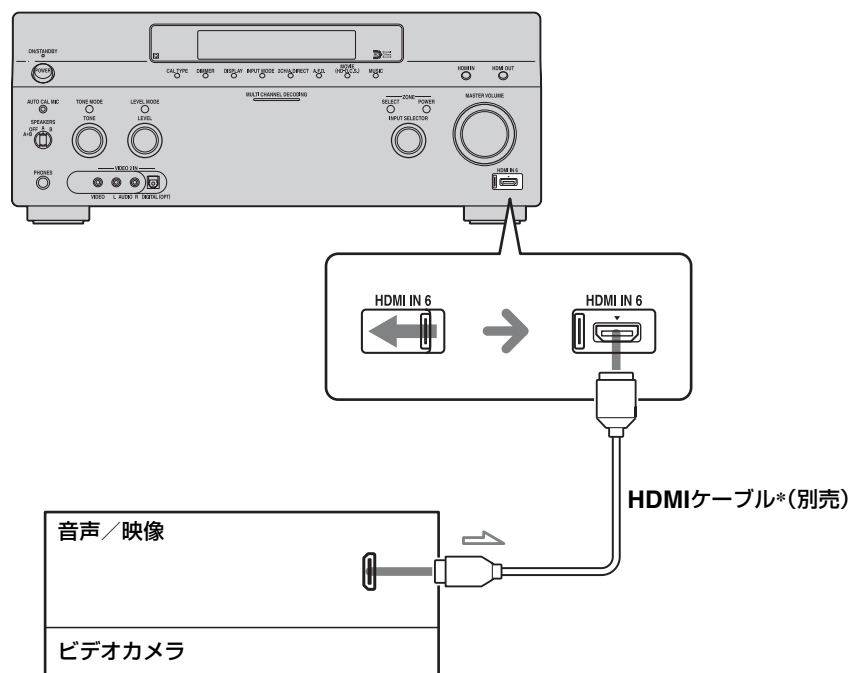
OPTICAL端子で本機とテレビをつなぐことで、スピーカーからマルチチャンネルサラウンドサウンド放送を出力できます。

ご注意

ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

ちょっと一言

テレビの音声出力端子を本機の TV IN 端子につなぐと、テレビの音声を本機につないだスピーカーで聞けます。テレビの音声出力端子が可変／固定切り換えの場合には、固定にします。また、少なくとも光（OPTICAL）デジタル接続コードまたは音声コードのどちらかをつないでください。別売の BS チューナーなどをつなぐ場合は、音声、映像端子ともに本機につないでください（29 ページ）。

つづく

＊ソニー製の HDMI ケーブルをおすすめします。

ちょっと一言

ビデオカメラを HDMI IN 1、2 および 6 端子につなぐと、簡単にビデオカメラの映像を見ることができます（75 ページ）。

接続ケーブルについて

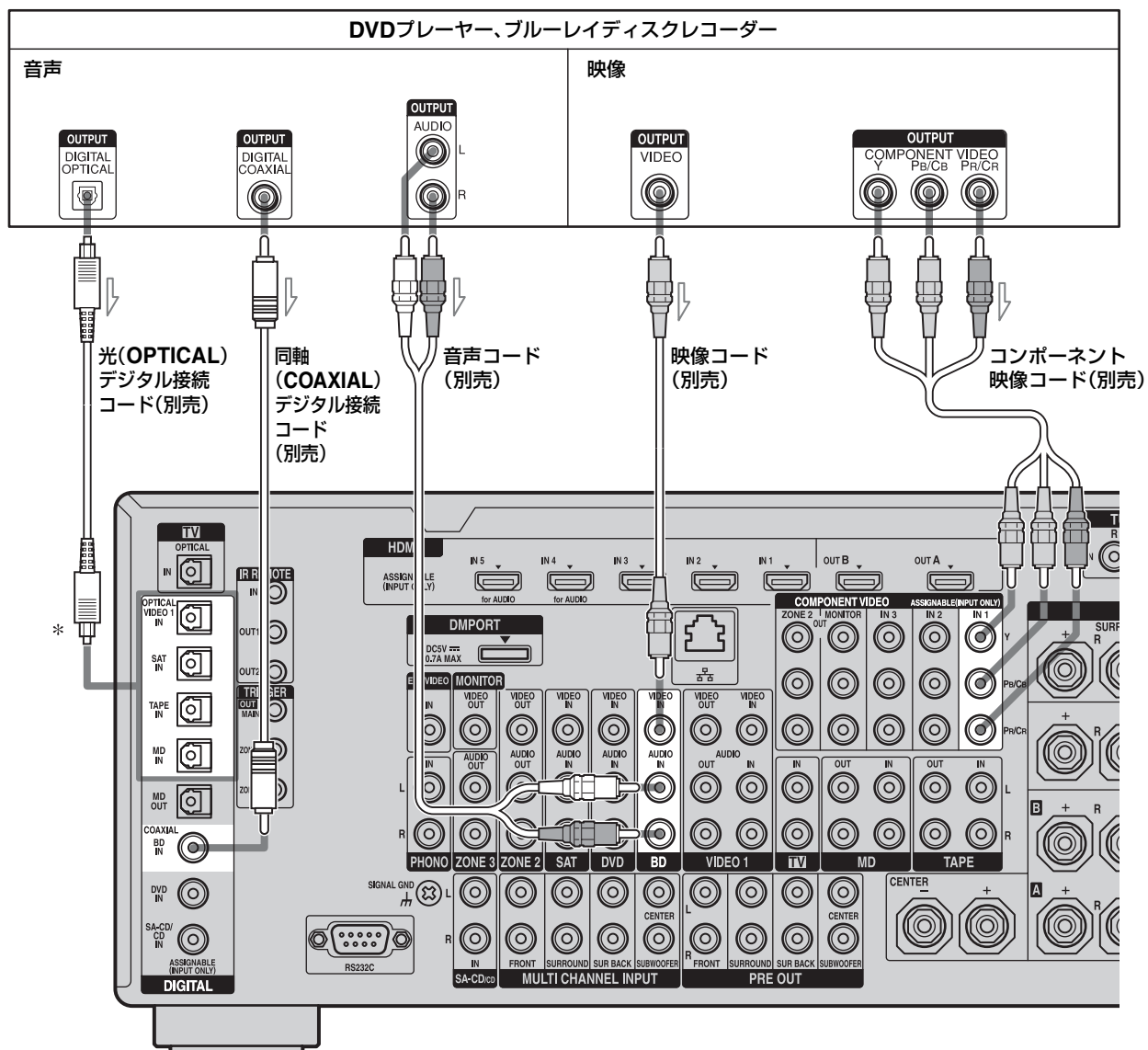
- High Speed HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、1080pやDeep Colorの映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルでDVI-D機器をつないだ場合、音声や映像が出力されないことがあります。音声が正しく出力されない場合は、他の種類の音声コードやデジタル接続コードでつなぎ、「Input」のOptionメニューにある「Input Assign」の設定を行ってください。

HDMI端子の接続のご注意

- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- HDMI IN端子に入力された音声信号はスピーカー出力端子、PHONES端子、HDMI OUT端子、PRE OUT端子から出力することができます。他の音声端子からは出力されません。
- HDMI IN端子に入力された映像信号は、HDMI OUT端子からのみ出力されます。VIDEO OUT端子とMONITOR VIDEO OUT端子からは出力されません。
- テレビのスピーカーから音声を出すときは、HDMIメニューの「Audio Out」を「TV+AMP」に設定してください。「AMP」に設定すると、音声はテレビのスピーカーから出力されません。
- 「Pass Through」を「OFF」に設定している場合、電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。再生機器の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数やチャンネル数、音声フォーマットが切り換わったときに、音声が途切れる場合があります。
- 接続機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI出力端子からの映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。
- 本機につないだ機器について詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、DSD、マルチチャンネルリニアPCMはHDMI接続でのみ楽しめます。
- High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）を楽しむには、プレーヤーの映像解像度を720p/1080i以上に設定してください。
- DSD、マルチチャンネルリニアPCMを楽しむには、プレーヤーの映像解像度の設定が必要な場合があります。プレーヤーの取扱説明書を参照してください。
- 各HDMI機器は、表記されているHDMIのVersionで定義されている機能をすべて包括しているものではありません。例えばVersion 1.3a対応機器がすべてDeep Colorに対応しているわけではありません。

つづく

DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーを接続する

DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーの接続例です。
すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声／映像コードをつないでください。

＊OPTICAL 端子のある機器をつなぐときは、Input メニューの「Input Assign」を設定してください。

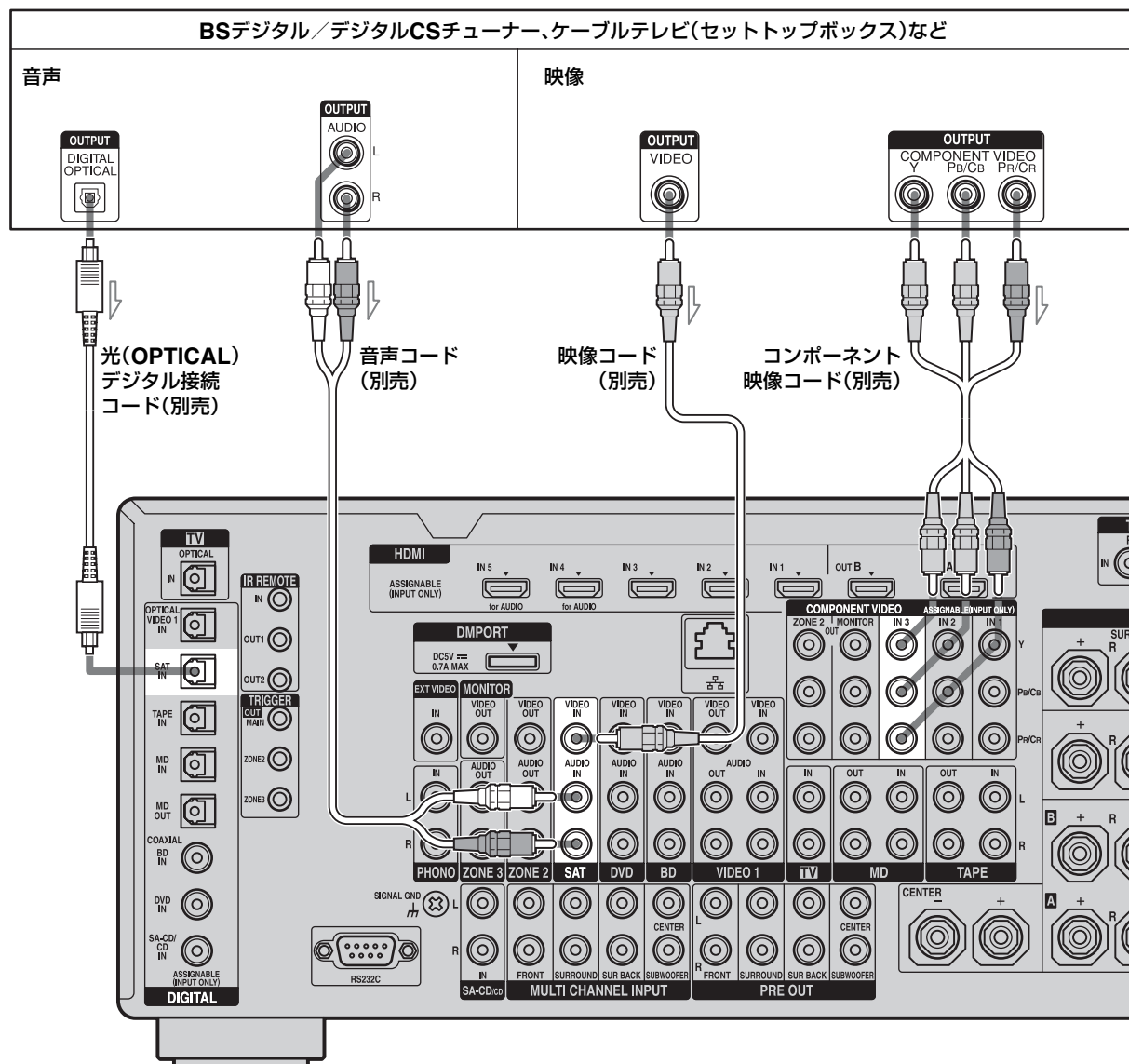
ご注意

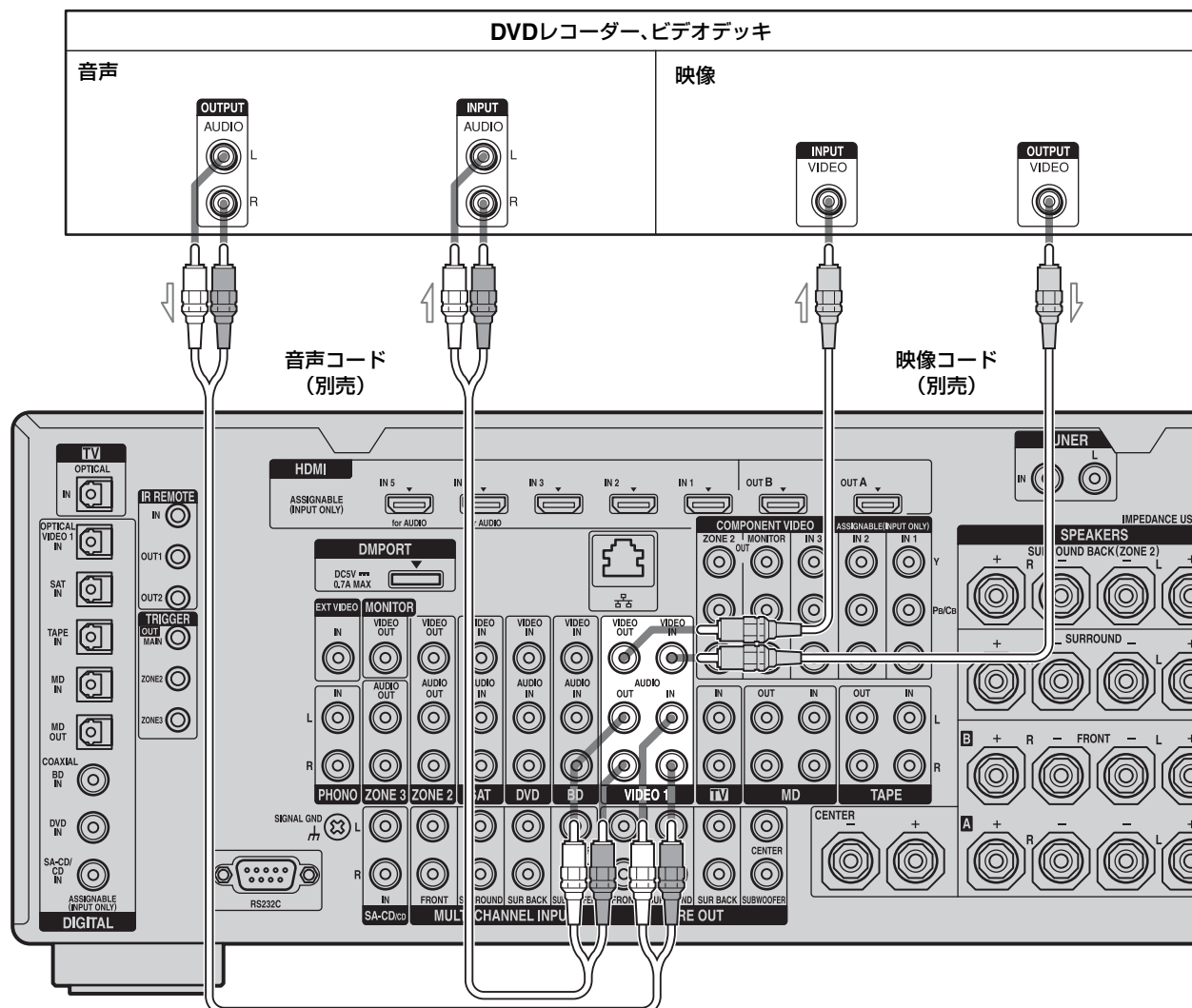
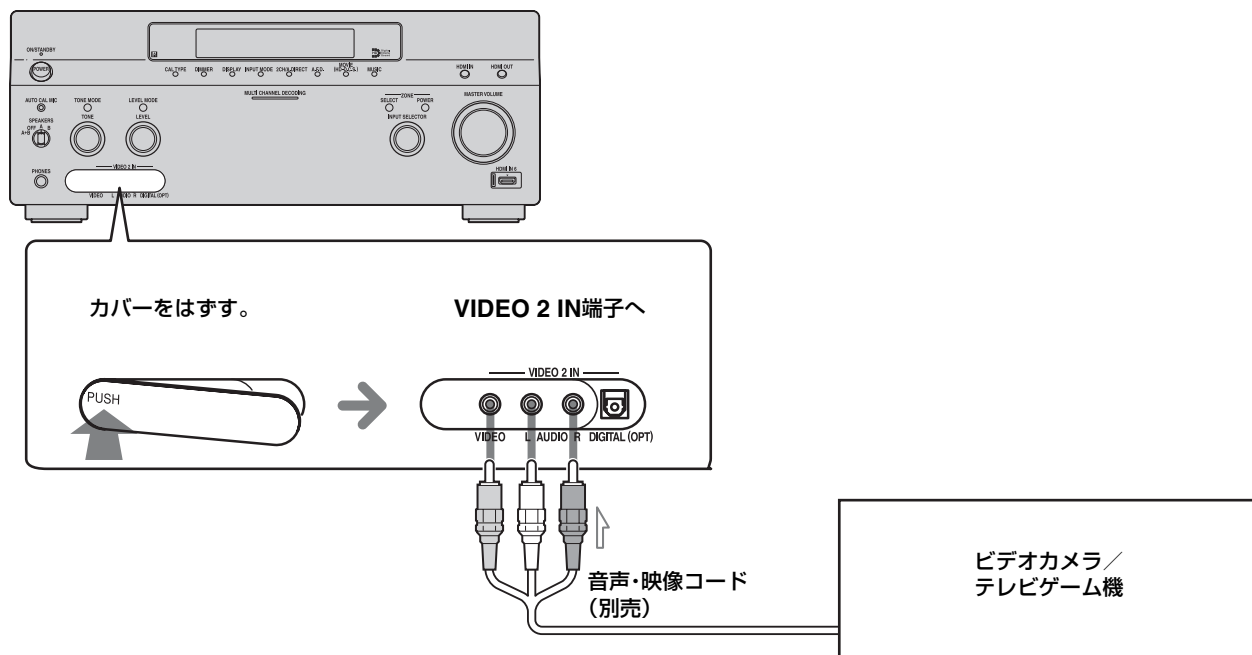
- マルチチャンネルのデジタル音声を出力するために、DVD プレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー側でデジタル音声出力の設定をする必要があります。詳しくは、DVD プレーヤー、ブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書を参照してください。
- ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

BSデジタル／デジタルCSチューナー、ケーブルテレビ（セットトップボックス）を接続する

BSデジタル／デジタルCSチューナー、ケーブルテレビ（セットトップボックス）の接続例です。
すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声／映像コードをつないでください。

ご注意
ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

つづく

アナログ映像／音声端子のある機器を接続する

DVDレコーダーやビデオデッキなどアナログ端子のある機器の接続例です。
すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声／映像コードをつないでください。

ご注意
ケーブル類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

映像信号の変換機能について

本機には映像信号の変換機能があります。

- コンポジット映像信号をHDMI映像信号、コンポーネント映像信号に変換できます。
- コンポーネント映像信号をHDMI映像信号、コンポジット映像信号に変換できます。

初期設定では、下の表のように、つないだ機器からの映像信号をHDMI OUT端子またはMONITOR OUT端子から出力します。お使いのモニターの解像度にあった映像変換機能に設定することをおすすめします。映像変換機能の詳細については、「映像設定 （Video）」（99ページ）をご覧ください。

出力端子／入力信号（つなぐ端子）	HDMI OUT A/B	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT	MONITOR VIDEO OUT
HDMI映像（HDMI IN 1/2/3/4/5/6）	○	×	×
コンポジット映像（VIDEO IN）	○	○	○
コンポーネント映像（COMPONENT VIDEO IN）	○	○	○

○：映像信号を出力します。
×：映像信号を出力しません。

つづく

映像の変換機能のご注意

- ビデオデッキからのコンポジット映像信号を変換したものをテレビにつないでいる場合、映像信号の状態によってはテレビの映像が横方向にずれたり、映像が出なくなる場合があります。
- HDMI信号は、コンポーネント映像信号、コンポジット映像信号に変換できません。
- 変換された映像信号はVIDEO 1 OUT端子からは出力されません。
- 画質向上回路（TBCなど）を搭載したビデオデッキなどを再生するとき、映像が乱れたり出なくなることがあります。
  この場合、ビデオデッキなどの画質向上回路（TBCなど）をオフにしてお使いください。
- COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子へ出力される信号の解像度は1125i（1080i）まで、HDMI OUT端子へ出力される信号の解像度は1125p（1080p）まで変換できます。
- 著作権保護情報が入っている映像信号の解像度を変換するとき、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子には解像度の制限があります。
  COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子への出力は525p（480p）/625p（576p）の解像度までとなります。HDMI OUT端子には制限がありません。
- 解像度変換した映像信号は、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子とHDMI OUT端子に同時に出力できません。両方につないでいる場合は、映像信号はHDMI OUT端子から出力されます。
- MONITOR VIDEO OUT端子、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子の両方の端子から映像を出力したい場合は、Videoメニューの「Resolution」の設定を「AUTO」または「480i/576i」に設定してください。

録画機器をつなぐには

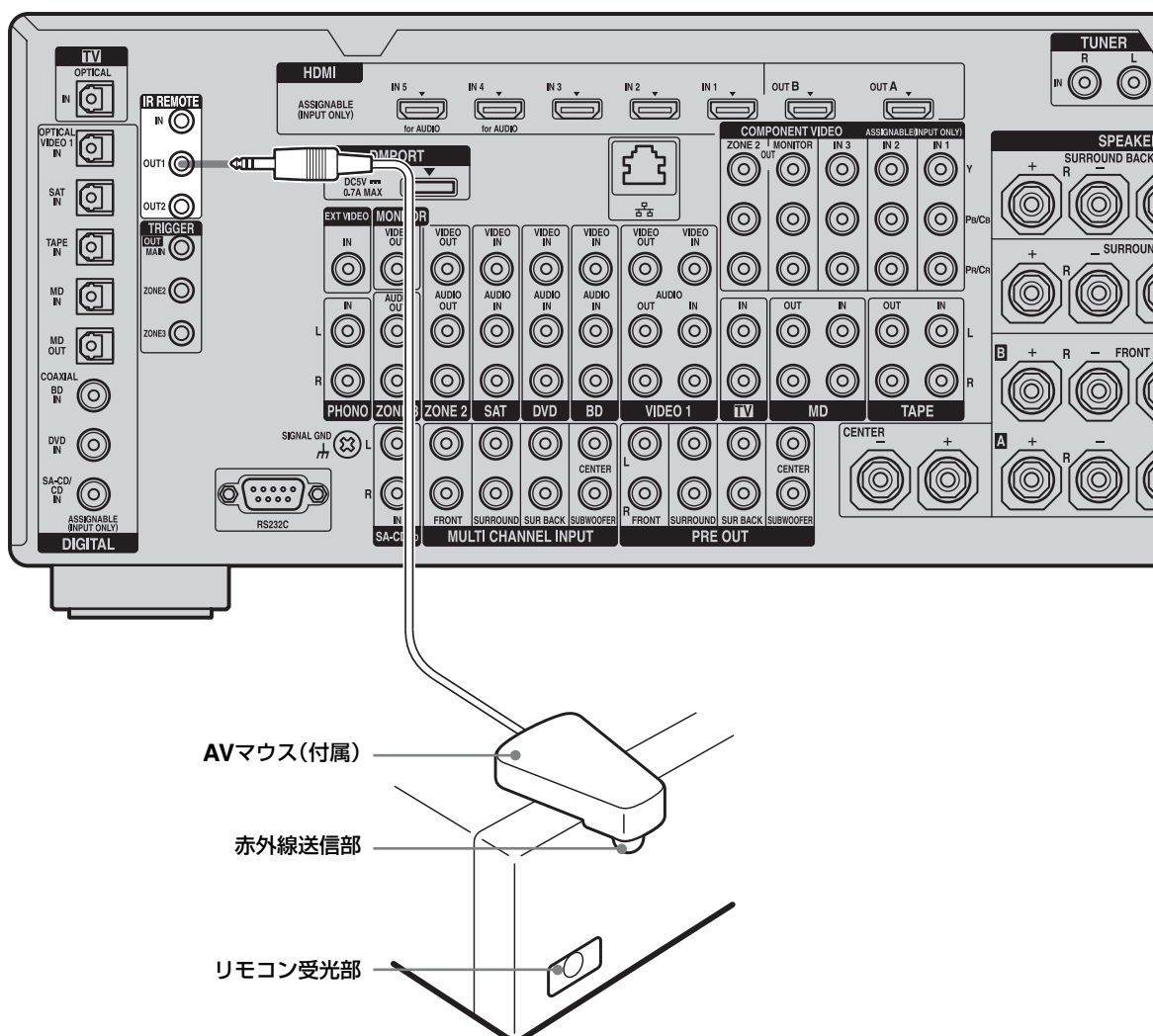
録画する場合は、録画機器を本機のVIDEO OUT端子につないでください。VIDEO OUT端子には映像変換機能がないので、入力信号と出力信号は同じ種類の端子につないでください。

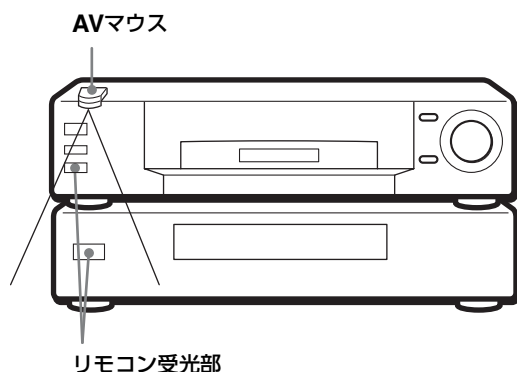
ご注意
HDMI OUT 端子や MONITOR OUT 端子からの出力信号は、正しく録画できない場合があります。

準備 3c：AV マウスを接続する

付属のAVマウスを本機につないだ機器に取り付けてください。本機につないだ機器をAVマウスを介して画面リモコン（クイッククリック）で操作できます。

AVマウス（付属）

赤外線送信部

リモコン受光部

AVマウスで2台の機器を操作したいときは、機器とAVマウスを下の図のように設置してください。

2台の機器のリモコン受光部が左の図のように並んだ位置にない場合、AVマウス（VM-50、別売）を別途1台お買い求めのうえ取り付けていただく必要があります。

本機につないだ機器の取扱説明書を参照してリモコン受光部の位置を確認し、受光部の真上または真下にAVマウスを置きます。ソニー製レコーダーおよび他のソニー製品のリモコン受光部は 🅁 マークで識別できます。このとき、AVマウスの裏面シールはまだはがさないでください。
設定を行ったあと、AVマウスの裏面シールをはがし、AVマウスを所定の位置に固定してください。

ご注意
本機につないだ機器の設定について詳しくは、各機器の取扱説明書を参照してください。

ちょっと一言
AV マウスのコードが短い場合は、3.5 mm ミニジャック延長コード（別売）をお使いください。

準備 4：ネットワークに接続する

ホームネットワークとDLNA対応機器の設定をします。

必要なシステム構成

本機のネットワーク機能を使うには、以下のシステム環境が必要です。

ブロードバンド回線

SHOUTcastを聞いたり、本機のファームウェアアップデート機能を使ったりするためには、インターネットに接続できるブロードバンド回線が必要です。

モデム

ブロードバンド回線に接続し、インターネットで通信するための機器です。ルーターと一体型のモデムもあります。

ルーター

- ネットワーク上のコンテンツを楽しむためには、100 Mbps以上の通信速度に対応したルーターをお使いください。
- DHCPサーバー機能内蔵のルーターをおすすめします。DHCPサーバー機能はLAN上のIPアドレスを自動的に割り当てるものです。

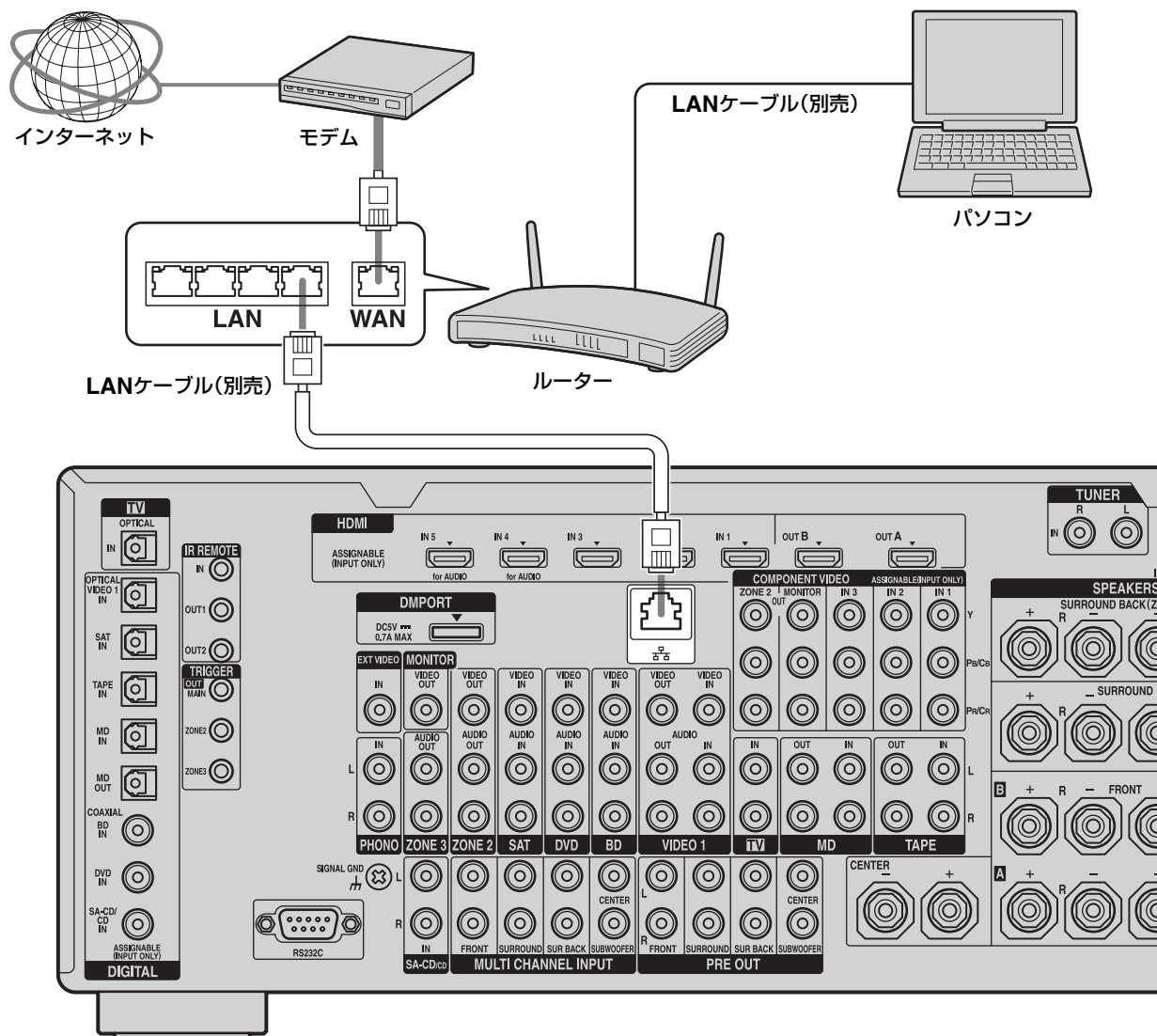
LANケーブル

- カテゴリー 5準拠のLANケーブルをおすすめします。フラットタイプのLANケーブルにはノイズの影響を受けやすいものがあります。ノーマルタイプのLANケーブルをおすすめします。
- 電気機器からの電源ノイズのある環境やノイズの多いネットワーク環境で本機をお使いの場合は、シールドタイプのLANケーブルをお使いください。

ご注意

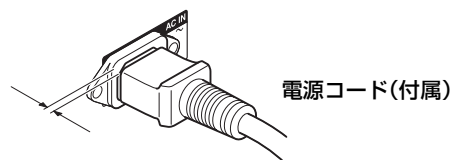
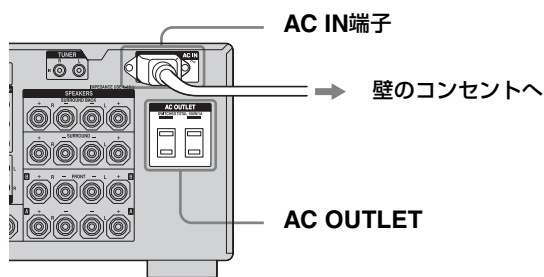
インターネットへの接続方法は、お使いの機器、プロバイダー、パソコン、ルーターによって異なります。

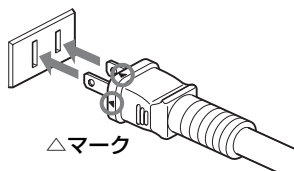
接続の例

本機とパソコンで構成したホームネットワークの接続例です。
有線での接続をおすすめします。

ご注意
無線接続していると、パソコンでの音声の再生がときどき途切れることがあります。

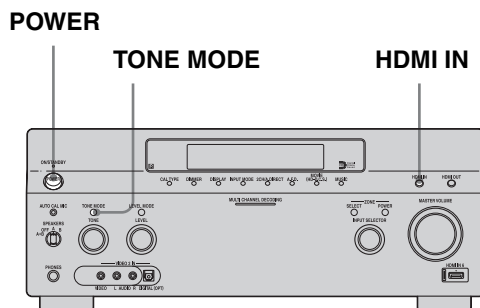
準備 5:本体とリモコンを準備する

電源コードをつなぐ

付属の電源コードを本機後面のAC IN端子につなぎ、電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。
また、お持ちの機器の電源コードを本機の電源コンセント（AC OUTLET端子）につなぐことができます。

本機後面に電源コードを奥まで差し込んでも、プラグと本機後面の間に数ミリの隙間ができますが、これで正しくつながれています。

電源コードについて

付属の電源コードには、上の図のようにN極側に△マークがあります。これはよりよい音質にするために、壁のコンセントの差し込み口との極性を合わせるためです。壁のコンセントの差し込み口に長短がある場合は、長い穴がN極側です。

本機を初めてお使いになるときは（本機を初期設定状態にする）

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。
また、本機をお使いになったあと、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。

1 POWER を押して、本機の電源を切る。

2 TONE MODE と HDMI IN を押しながら、POWER を押す。

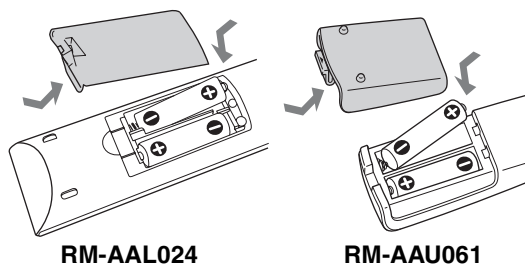
3 2、3秒後にTONE MODEとHDMI INを離す。

表示窓に「MEMORY CLEARING...」と表示されたあと、「MEMORY CLEARED.」と表示されます。
初期設定から変更、調整された設定はすべて初期化されます。

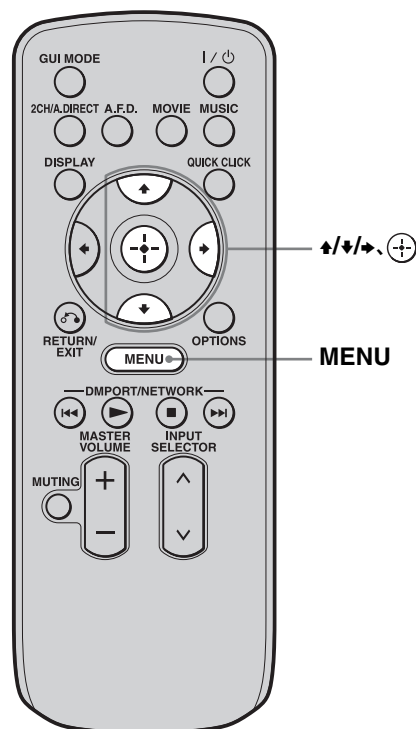
ご注意

- お持ちの機器の電源コードに極性がある（白線または刻印が付いている）ときは、白線のある側を本機の AC OUTLET の白線のある側（アース側）へ差し込みます。
- 本機後面の電源コンセントは連動（SWITCHED）です。本機の電源が入っているときのみ、つないだ機器に電源を供給できます。
- AC OUTLET 端子につなぐ機器の消費電力の合計が 100W を超えないようにしてください。また、テレビや家電製品（アイロンなど）は、つながないでください。故障の原因となります。
- 電源コードを差す前に、各スピーカー端子間でコードの金属線が接触していないことを確認してください。
- 電源コードをしっかり差してください。
- 初期化が完了するまで 30 秒ほどかかります。表示窓に「MEMORY CLEARED.」と表示されるまで電源を切らないでください。

リモコンに電池を入れる

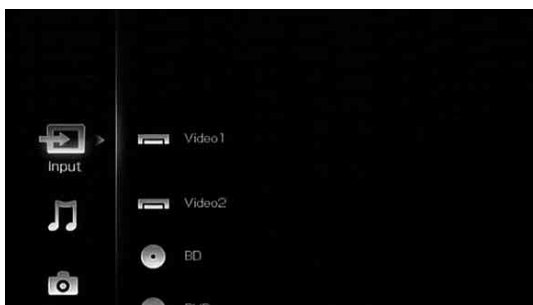
⊕と⊖の向きを合わせて、多機能リモコン、簡単リモコンのぞれぞれに単3形マンガン乾電池（付属）2個を入れます。

準備 6:スピーカーを設定する

スピーカーインピーダンスを設定する

お使いのスピーカーに合わせてスピーカーインピーダンスを設定してください。

ご注意

- 極端に温度や湿度の高い場所にリモコンを放置しないでください。
- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂の恐れがあります。次のことを必ず守ってください。
  - ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れてください。
  - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液もれしたときは、電池入れに付いた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 電池交換時に、リモコンにプログラムした内容が消える場合があります。その場合は、再登録してください（125 ページ）。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部Rに直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。誤動作の原因となります。

ちょっと一言

乾電池の残りが少なくなるとリモコンで操作できる範囲が狭くなります。これを目安にして、新しい乾電池に交換してください。

つづく

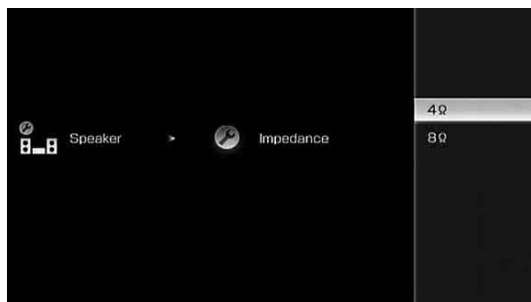
1 MENU を押す。

メニューがテレビ画面に表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。

Settingsメニューが表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Speaker」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「Impedance」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押してお使いのスピーカーに合わせて「4Ω」または「8Ω」を選び、⊕を押す。

選んだ数値で確定します。

メニューを消すには

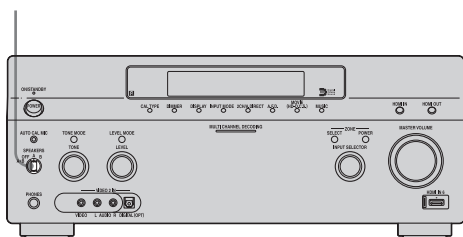
MENUを押します。

ご注意

- お使いのスピーカーのインピーダンスが不明のときは、スピーカーの取扱説明書を参照してください（通常、スピーカー後面にインピーダンスが表示されています）。
- すべて 8Ω 以上のスピーカーをつないだ場合は、「Impedance」を「8Ω」に設定してください。それ以外の場合は「4Ω」にしてください。
- SPEAKERS A と B 端子の両方にスピーカーをつないで使う場合は、8Ω 以上のスピーカーをつないでください。
  - 16Ω 以上のスピーカーを A と B 端子の両方につないだときは、「Impedance」を「8Ω」に設定してください。
  - それ以外のときは、「4Ω」に設定してください。

フロントスピーカーを選ぶ

使用するフロントスピーカーを選びます。

SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）

SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）を、使用するフロントスピーカーシステムに合わせる。

設定値	使うスピーカーシステム
A	FRONT SPEAKERS A端子につないだスピーカー
B	FRONT SPEAKERS B端子につないだスピーカー
A+B	FRONT SPEAKERS AとB端子につないだスピーカー（パラレル接続）
OFF	すべてのスピーカー端子とPRE OUT端子から音声が出力されません。

準備 7:自動でスピーカーを設定する

（自動音場補正機能）

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能によって、各スピーカーと本機の接続やスピーカーのレベル、各スピーカーと視聴位置の距離などを自動的に測定し、最適な音声バランスを設定します。

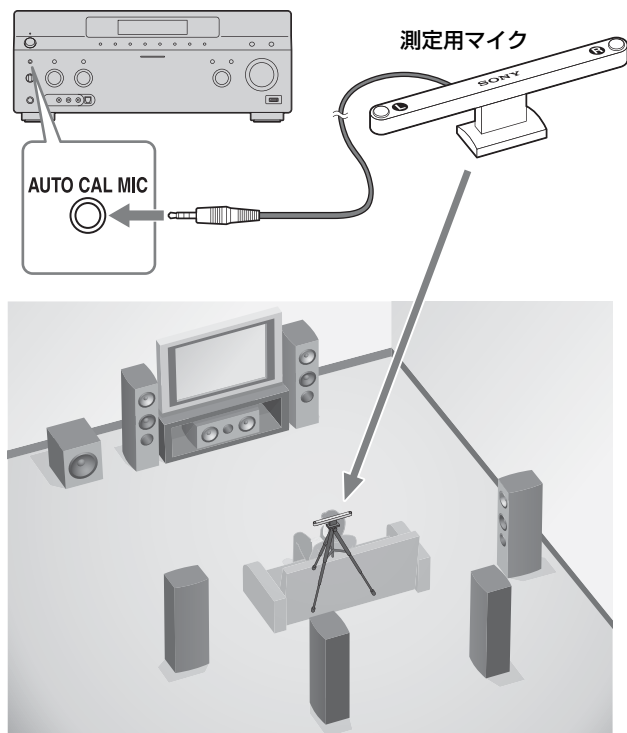
測定の準備をする

スピーカーを設置、接続してから、測定してください（15、16ページ）。
以下についてご注意ください。

- AUTO CAL MIC端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながないでください。本機やマイクの故障の原因となります。
- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。
- バイアンプ接続をしているときは、測定前にサラウンドバックスピーカーの設定をバイアンプにしてください。

ご注意

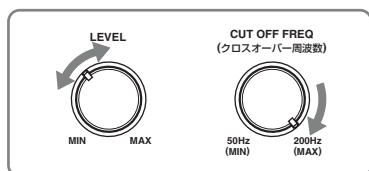
- ヘッドホンをつないでいるときは、SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）でフロントスピーカーを切り換えることはできません。
- ヘッドホンをつないでいるとき、自動音場補正機能は働きません。
- 消音機能を設定していても、測定が始まると自動的に解除されます。

つづく

1 測定用マイク（付属）を本機前面の AUTO CAL MIC 端子につなぐ。

2 マイクを設置する。

マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。マイクのLをフロントスピーカー Lに、マイクのRをフロントスピーカー Rに合わせてください。

アクティブサブウーファーの設定について

- アクティブサブウーファーをつないでいる場合は、電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、ボリュームつまみを半分または半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、最大に設定してください。
- オートオフ設定機能がある場合は、オフ（無効）にしてください。

本機をプリアンプとして使う場合は

本機をプリアンプとして使う場合も、自動音場補正機能を使うことができます。
この場合、スピーカーの距離として表示される数値は、実際の距離と異なる場合がありますが、そのまま使って問題ありません。

測定する

自動音場補正機能は以下の項目を測定します。

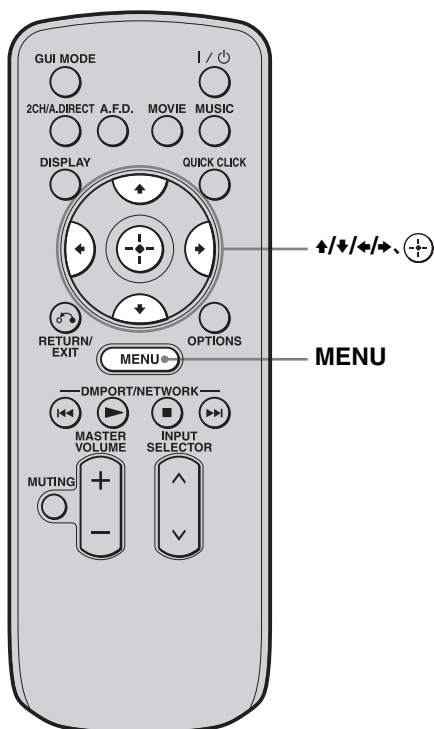
- スピーカーの有無[a]
- スピーカーの極性
- スピーカーの距離[b]
- スピーカーのサイズ[b]
- スピーカーのレベル
- 周波数特性[b] [c]

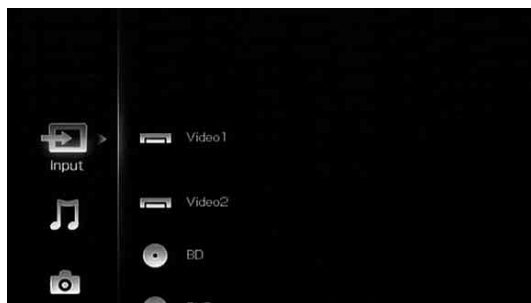
[a] マルチチャンネル入力を選んでいる場合、センタースピーカー、アクティブサブウーファーに対してのみ、アナログダウンミックス処理で補正します。その他のスピーカーに対しては、補正は無効です。

[b] 以下の場合は、測定結果は反映されません。
　－マルチチャンネル入力を選んでいる。
　－アナログダイレクト機能を使用している。

[c] • サンプリング周波数が 88.2 kHz 以上の信号は、もとの周波数にかかわらず 44.1 kHz または 48 kHz で再生されます。
　• サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の Dolby TrueHD 信号を受信している場合は、測定結果は反映されません。

ご注意

- 2 つのスピーカーの中心に測定用マイクの位置を決める場合、2 つのスピーカーの間の角度が狭いと、左右のスピーカーを適切に測定することができません。
- お使いになるアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の配置よりも遠くなることがあります。

1 **MENU を押す。**

メニューがテレビ画面に表示されます。

2 **↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。**

Settingsメニューが表示されます。

3 **↑/↓ をくり返し押して「Auto Calibration」を選び、⊕または → を押す。**

4 **↑/↓ をくり返し押して「Quick Setup」を選び、⊕を押す。**

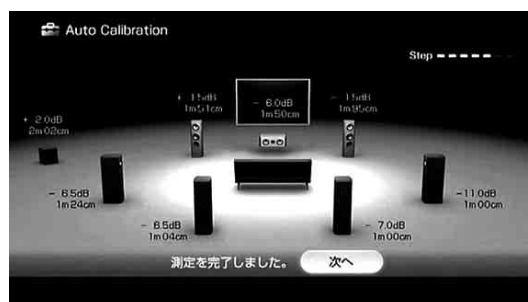
測定できる項目が表示されます。

5 **↑/↓ をくり返し押して測定したくない項目を選び、⊕を押してチェックを外し、→ を押す。**

測定開始の確認画面が表示されます。

6 **「開始」を選び、⊕を押す。**

5秒後に測定が開始されます。測定が終わると、終了音が鳴り、測定結果が表示されます。

つづく

7 **「次へ」を選び、⊕を押す。**

「測定結果を保存しますか？」と表示されます。結果を保存する場合は、「測定結果を保存する」に進んでください。
画面に警告表示やエラーコードが表示された場合は、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」（44ページ）をご覧ください。

測定を中止するには

ボリューム操作、機能の切り換え、本体のSPEAKERS（OFF/A/B/A+B）の切り換え、ヘッドホンの接続で中止されます。

測定結果を保存する

次の手順で自動音場補正の測定結果を保存できます。

1 **「測定する」（40ページ）の手順7で、←/→をくり返し押して「はい」を選び、⊕を押す。**

補正タイプの選択画面が表示されます。

2 **↑/↓ をくり返し押して補正タイプを選び、⊕を押す。**

補正タイプ	説明
Full Flat	各スピーカーの周波数特性を平らにします。
Engineer	ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
Front Reference	すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に整えます。
OFF	自動音場補正のイコライザーをオフにします。

測定結果が保存されます。

ご注意

- スピーカーが逆相のときは、「Out Phase」とテレビ画面に表示されます。スピーカーの＋ / －端子が逆に接続されている可能性があります。スピーカーによっては接続が正しくても表示される場合があります。スピーカーの仕様によるものですので、そのまま使って問題ありません。
- 周波数特性の補正結果を反映すると、サンプリング周波数が88.2 kHz 以上の信号は、もとの周波数にかかわらず44.1 kHz または 48 kHz で再生されます。
- 以下の場合は、周波数特性の補正結果は反映されません。
  - マルチチャンネル入力を選んでいる。
  - アナログダイレクト機能を使用している。
  - サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の Dolby TrueHD 信号を受信している。

ちょっと一言

- 測定中に有効な操作は電源の入／切のみです。その他の操作は無効です。
- 以下の場合、正しく測定できないか、自動音場補正機能が実行されません。
  - ダイポールスピーカーなどの特殊なスピーカーをつないでいる。
  - 2nd ゾーン、3rd ゾーンでマルチゾーン機能を使用している。
- Speaker メニューの「Distance Unit」で距離の単位を切り換えることができます。

3 ➡ **を押す。**

終了画面が表示されます。

4 ⊕**を押す。**

測定結果を確認する

「測定する」（40ページ）の手順7で警告表示やエラーコードが表示された場合は、原因を確認してから、もう一度測定してください。

1 「測定は終了しましたが､測定結果に注意事項があります｡確認しますか？」と表示された場合､⬅/➡ を押して「はい」を選び､⊕を押す。

測定結果の詳細を確認して（44ページ）、適切な対処をしてください。

2 ⬅/➡ **を押して「RETRY」を選び､⊕を押す。**

3 「測定する」(40 ページ)の手順 5 から 7 をくり返す。

エラーが発生した測定結果をそのまま保存するには

1 「測定は終了しましたが､測定結果に注意事項があります｡確認しますか？」と表示された場合､⬅/➡ を押して「いいえ」を選び､⊕を押す。

2 「測定結果を保存する」(42ページ)にしたがって､測定結果を保存する。

ちょっと一言

- スピーカーのサイズ（LARGE/SMALL）は低域特性で判定します。測定結果は測定用マイクの位置、スピーカーの位置、部屋の形などによって変わる場合があります。測定結果のまま使うことをおすすめしますが、Speaker メニューで設定を変更することもできます。測定結果を保存してから変更してください。
- アクティブサブウーファーの位置によって極性の判定が異なる場合があります。測定結果のまま使って問題ありません。

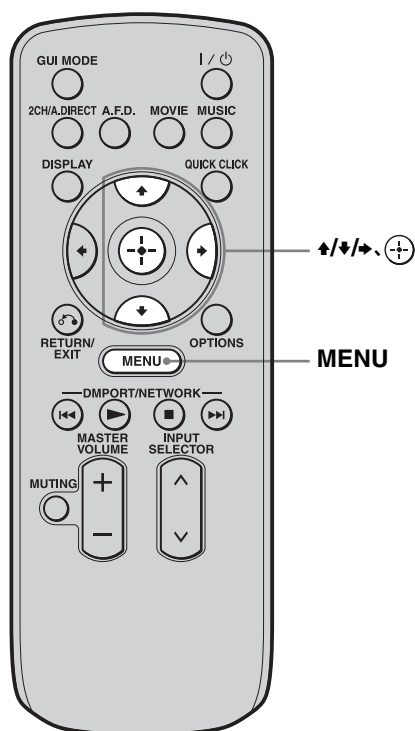
つづく

自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧

表示	原因と対策
Code 30	ヘッドホンが挿入されています。ヘッドホンを外して再測定してください。
Code 31	SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）がOFFになっています。SPEAKERS（OFF/A/B/A+B）を音が出る状態にして、再測定してください。
Code 32	どのチャンネルからも音が検出されませんでした。測定用マイクが正しくつながっていることを確認し、再測定してください。つながっている場合は測定用マイクが断線していることが考えられます。
Code 33	• フロントスピーカーがつながっていない、またはフロントスピーカーが1本しかつながっていません。 • 測定用マイクがつながっていません。 • 左か右どちらかのサラウンドスピーカーがつながっていません。 • サラウンドスピーカーがつながっていないのに、サラウンドバックスピーカーがつながっています。サラウンドスピーカーをSURROUND SPEAKERS端子につないでください。 • サラウンドバックスピーカーがSURROUND BACK SPEAKERS R端子にのみつながっています。サラウンドバックスピーカーを1つだけつなぐときは、SURROUND BACK SPEAKERS L端子につないでください。
Code 34	スピーカーが正しい位置に設置されていません。 マイク、スピーカーの左右が逆に設置されていることが考えられます。 「準備１：スピーカーを設置する」（15ページ）を参照して、スピーカーの位置を確認してください。
Warning 40	測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。 再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。
Warning 41 Warning 42	• スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。お互いの位置を離して設置し、再測定してください。 • 本機をプリアンプとして使っているとき、ボリュームが過大になっている可能性があります。
Warning 43	アクティブサブウーファーの距離・位相が測定できませんでした。 ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。
Warning 44	測定は終了しましたが、スピーカーの位置関係がおかしい可能性があります。 「準備１：スピーカーを設置する」（15ページ）を参照して、スピーカーの位置を確認してください。
NO WARNING	WARNING情報はありません。
-----	スピーカーがつながれていません。

準備 8：ネットワークを設定する

本機のネットワーク機能を使うには、ネットワーク設定を正しく行う必要があります。
本機に必要なネットワーク設定は、イニシャルセットアップウィザードの指示にしたがって行うことができます。

以下ではIPアドレスの自動設定（DHCP）の手順をご説明します。この場合、本機またはプロバイダーに接続されているルーターは、DHCPに対応している必要があります。

1 MENU を押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Network」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「Network Setup」を選び、⊕を押す。
「ネットワーク機能の初期設定を行います。」と表示されます。

5 「Next」を選び、⊕を押す。

6 「Connect Automatically (DHCP)」を選び、⊕を押す。
接続に成功すると、「本機がネットワークに接続しました。」と表示されます。
失敗画面が表示される場合は、最後の手順まで終えたあと「Network Setup」（102ページ）をご覧のうえ設定を行ってください。

7 「Finish」を選び、⊕を押す。

ネットワーク設定を手動で設定するには

「IPアドレスを手動で設定するには」（102ページ）または「Proxyサーバーを手動で設定するには」（103ページ）をご覧ください。

ご注意
ネットワーク設定が完了していない場合、ネットワーク機能を使うたびにウィザード画面がテレビ画面に表示されます。

準備 9:パソコンをサーバーとして使う準備をする

サーバーとは、ホームネットワーク上のDLNA機器にコンテンツ（音楽、写真）を配信する機器です。
DLNA対応のサーバー機能を備えたVAIO Media plusなどのソフトウェアをパソコンにインストールすると、ホームネットワーク上のパソコンに保存されている音楽や写真を本機からネットワーク経由で再生することができます。

VAIO Media plusでできること

VAIO Media plusは、ホームネットワーク上にある音楽、写真などコンテンツをすばやく見つけたり、視聴したりできるようにするソフトウェアです。
他の機器をVAIO Media plusにつなげば、それらの機器に保存されているコンテンツをホームネットワークを通じて見つけたり視聴したりすることもできます。例えば、パソコンやテレビ、オーディオ機器に保存されている写真や音楽をパソコン上で再生できます。
お使いのパソコンがVAIOの場合は、外付けハードディスクやNASに保存されているコンテンツを配信することもできます。

必要なシステム構成

オペレーティングシステム

Windows XP Home Edition/Professional/Media Center Edition 2004/Media Center Edition 2005（SP3、32 bit）
Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Ultimate（SP1、32 bit/64 bit）

パソコン

	Windows XP	Windows Vista
パソコン	IBM PC/AT互換機	
CPU	Intel Celeron Mプロセッサー 1.40 GHz以上（推奨Intel Core 2 Duo 1.80 GHz以上）	Intel Core Duo 1.33 GHz以上（推奨Intel Core 2 Duo 2.26 GHz以上）
メモリー	512 MB以上（推奨1 GB以上）	1 GB以上（推奨2 GB以上）
グラフィックチップ	Intel、NVIDIA、またはATI製グラフィックチップ搭載 DirectX9.0c互換ビデオカード（推奨DirectX9.0c/128 MB互換ビデオカードおよび最新ドライバー）	
ディスプレイ	解像度800 × 600以上	
HDD	推奨500 MB以上	
ネットワーク	100Base-TX以上	
サウンドカード	Direct Sound互換サウンドカード	

VAIO Media plusをパソコンにインストールする

サーバーソフトウェアとしてVAIO Media plusを使うときは、付属のCD-ROMからVAIO Media plusを以下の手順でインストールしてください。
古いバージョンのVAIO Media plusが既にインストールされている場合は、コントロールパネルの「プログラムと機能」（Windows Vista）または「プログラムの追加と削除」（Windows XP）を使って、あらかじめ次の3つのプログラムを削除してください。

- VAIO Media plus
- VAIO Content Folder Watcher
- VAIO Content Folder Setting

1 **パソコンの電源を入れ、Administrator でログインする。**

2 **付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに挿入する。**

インストーラーが自動的に起動し、ソフトウェアセットアップ画面が表示されます。

ご注意

- 本機は映像の再生に対応していません。
- VAIO 以外のパソコンをお使いの場合は、パソコン内蔵のハードディスクに保存されているコンテンツのみ配信することができます。
- 上記の動作環境において、すべてのパソコンについて動作保証するものではありません。バックグラウンドで動作している他のソフトウェアが本ソフトウェアの動作に影響を与えることがあります。

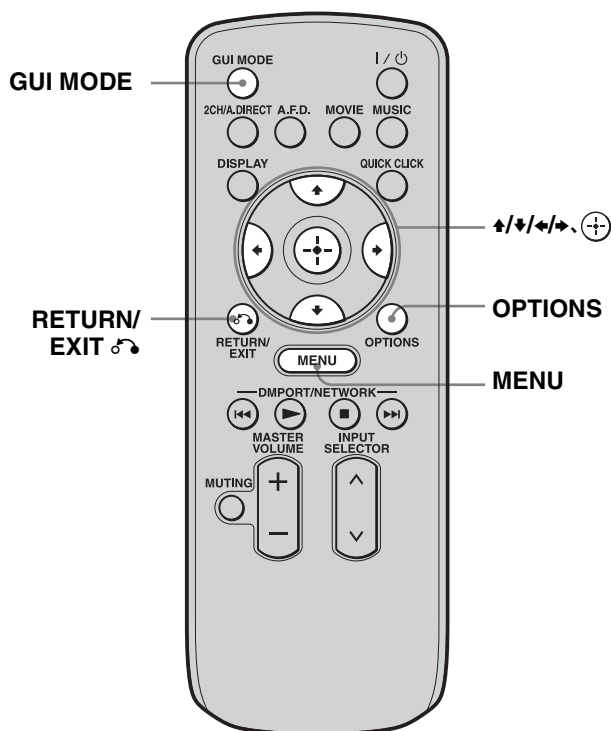
インストーラーが自動的に起動しない場合は、ディスク内の「SetupLauncher.exe」をダブルクリックしてください。

3 画面の指示にしたがってVAIO Media plusをインストールする。

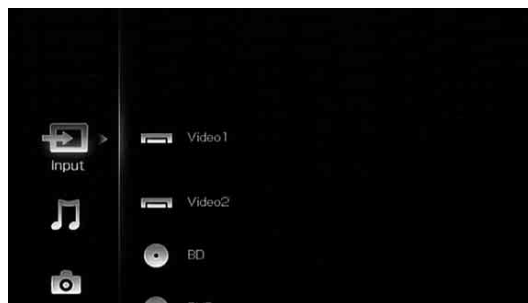
ヘルプを見るには

VAIO Media plusの操作については、ヘルプを参照してください。
ホームメニュー画面の「Settings」をクリックし、「Help」を選んでヘルプを表示します。

画面操作のしかた

テレビ画面にメニューを表示して、↑/↓/←/→と⊕でお好みの機能を設定できます。
本機のメニューをテレビ画面に表示するには、「「GUI MODE」のオン／オフを切り換えるには」（48ページ）の手順にしたがって、本機が「GUI MODE」になっていることを確認してください。

メニューの使いかた

1 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押してお好みのメニューを選び、⊕または → を押す。

メニュー項目の一覧が表示されます。

例：Inputの場合

3 ↑/↓ をくり返し押して設定したいメニュー項目を選び、⊕または → を押す。

4 手順２と３をくり返し、設定を変更する。

前の表示画面に戻るには

RETURN/EXITを押します。

メニューを消すには

MENUを押します。

「GUI MODE」のオン／オフを切り換えるには

GUI MODEを押します。選ばれているモードに応じて、表示窓に「GUI MODE ON」または「GUI MODE OFF」と表示されます。

メニュー一覧

メニューアイコン	内容
Input	本機への入力を選びます（50ページ）。
Music	デジタルメディアポートアダプターにつないだオーディオ機器（52ページ）やホームネットワーク上のサーバーから音楽を選びます（63ページ）。
Photo	ホームネットワーク上のサーバーから写真を選びます。
Video	今後発売されるデジタルメディアポートアダプターのための項目です。
SHOUTcast	SHOUTcastラジオサービスを選びます（64ページ）。
Settings	スピーカーやサラウンド効果、イコライザー、音声、映像、HDMI入力など本機の設定、調節をします（88ページ）。

オプションメニューの使いかた

OPTIONSを押すと、選んでいるメインメニューのオプションメニューが表示されます。関連する機能をメニューから選び直すことなく簡単に変更できます。

1 MENU を押す。

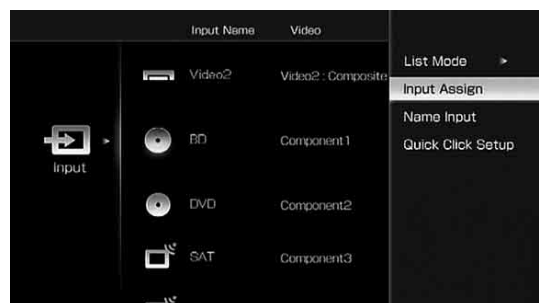
テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押してお好みのメニューを選び、⊕または → を押す。

メニュー項目の一覧が表示されます。

例：Inputの場合

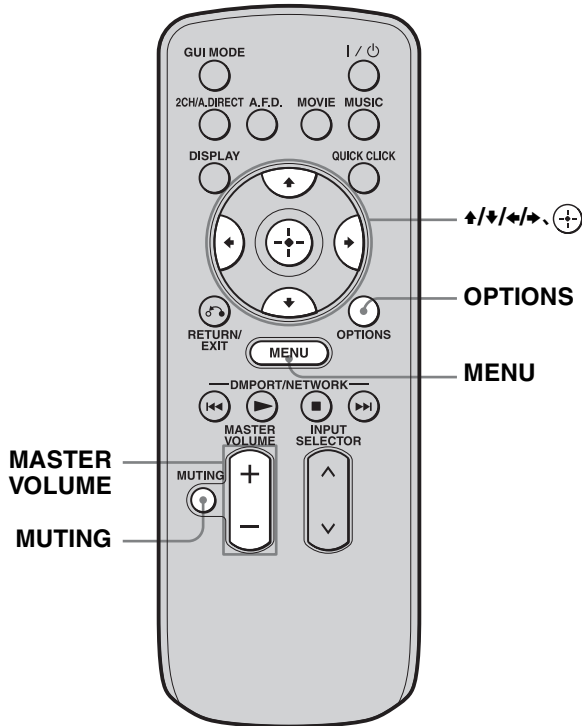
3 メニュー項目の表示中に OPTIONS を押す。

オプションメニューが表示されます。

4 ↑/↓ をくり返し押してお好みのオプションメニュー項目を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押して設定を選び、⊕を押す。

オプションメニューを消すには

OPTIONSを押します。

つないだ機器の音声／映像を楽しむ

1 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Input」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して再生したい機器を選び、⊕または → を押す。

メニューから外部機器の再生画面に切り換わります。

選んだ入力	再生する機器
Video 1、Video 2	VIDEO 1またはVIDEO 2端子につないだビデオデッキなど
BD	BD端子につないだブルーレイディスクレコーダーなど
DVD	DVD端子につないだDVDプレーヤーなど
SAT	SAT端子につないだBS/CSチューナーなど
TV	TV端子につないだテレビなど
Tape	TAPE端子につないだカセットデッキなど
MD	MD端子につないだMDデッキなど
SA-CD/CD	SA-CD/CD端子につないだスーパーオーディオCD/CDプレーヤーなど
Tuner	TUNER端子につないだラジオチューナーなど
Phono	PHONO端子につないだレコードプレーヤーなど
Multi in	MULTI CHANNEL INPUT端子につないだ機器
HDMI 1、2、3、4、5、6	HDMI1、HDMI2、HDMI3、HDMI4、HDMI5、またはHDMI6端子につないだHDMI機器など

4 本機につないだ機器の電源を入れ、再生する。

5 MASTER VOLUME ＋ / －を押して、音量を調節する。

ちょっと一言

- 本体の MASTER VOLUME を回す速さによって音量の調整量を変えられます。
  音量を早く上げ／下げしたいとき：速く回す。
  音量を微調整したいとき：ゆっくり回す。
- リモコンの MASTER VOLUME ＋ / －を押す時間の長さによって音量の調整量を変えられます。
  音量を早く上げ／下げしたいとき：押し続ける。
  音量を微調整したいとき：短く押す。

音を一時的に消すには

リモコンのMUTING を押します。解除するには、MUTING をもう一度押します。またはMASTER VOLUMEを押して音量を上げます。消音中に本体の電源を切ると、消音機能は解除されます。

スピーカーの破損を防ぐために

電源を切る前に音量を最小にしておいてください。

入力に名前を付ける（Name Input）

入力に8文字までの名前を付けて、表示できます。機器名を付けると、どの端子に何の機器をつないだかがわかり、便利です。

1 「Input」画面で ↑/↓ をくり返し押して、名前を付けたい機器を選ぶ。

2 OPTIONS を押す。
オプションメニューが表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Name Input」を選び、⊕を押す。
ソフトキーボードが表示されます。

4 ↑/↓/←/→ を押して文字を 1 つずつ選び、⊕を押す。

5 ↑/↓/←/→ を押して「入力完了」を選び、⊕を押す。
入力した名前が保存されます。

名前の入力をキャンセルするには

↑/↓/←/→を押して「Cancel」を選び、⊕を押します。

表示項目を切り換える（List Mode）

「Input」画面で、表示する項目を変更できます。

1 「Input」画面で ↑/↓ をくり返し押して、変更したい項目を選ぶ。

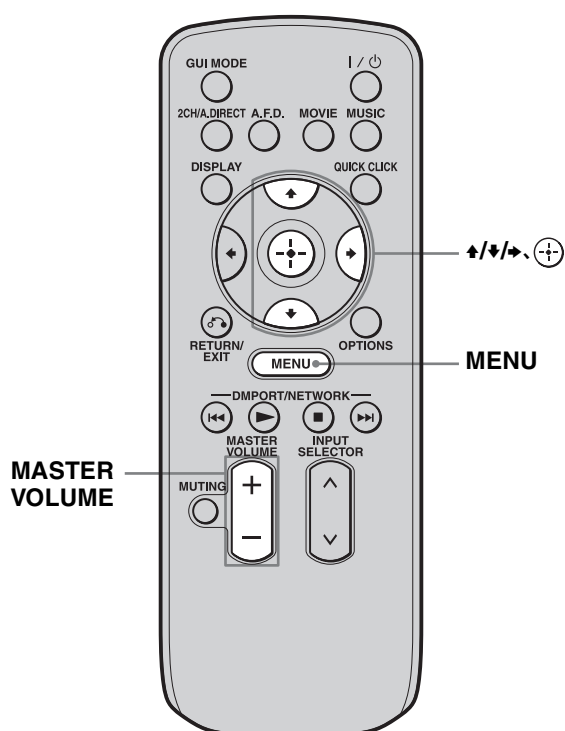
2 OPTIONS を押す。
オプションメニューが表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して「List Mode」を選び、⊕を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して表示したい項目を選び、⊕を押す。

- Input Assign
  入力名と割り当てられた音声／映像端子の一覧を表示します。
- Sound Field
  入力名とサウンドフィールドの一覧を表示します。
- A/V Sync
  入力名とA/V Syncメニューで設定されているずれの数値を一覧で表示します。

デジタルメディアポートにつないだ機器の音声を楽しむ

デジタルメディアポートアダプターを使って、本機でポータブルオーディオプレーヤーなどからの音楽を楽しめます。デジタルメディアポートの接続について詳しくは、「デジタル音声出入力端子のある機器」（20ページ）をご覧ください。
デジタルメディアポートアダプター TDM-NW10、TDM-BT10は別売です。

1 MENUを押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「♫Music」を選び、⊕を押す。

「Video」は今後発売されるデジタルメディアポートアダプターのための項目です。

3 ↑/↓ をくり返し押して「DMPORT」、またはデジタルメディアポートアダプターにつないだ機器を選び、⊕を押す。

デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器が認識され、テレビ画面の表示が「DMPORT」からそれぞれの機器名とアイコンに変わります。アダプターが認識されていない場合、テレビ画面の表示は「DMPORT」のままです。

アイコン	接続した機器
DMPORT	以下の機器以外と接続
Walkman	ネットワークウォークマンと接続
Bluetooth	Bluetooth対応機器と接続

4 デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器で聞きたい曲を選ぶ。

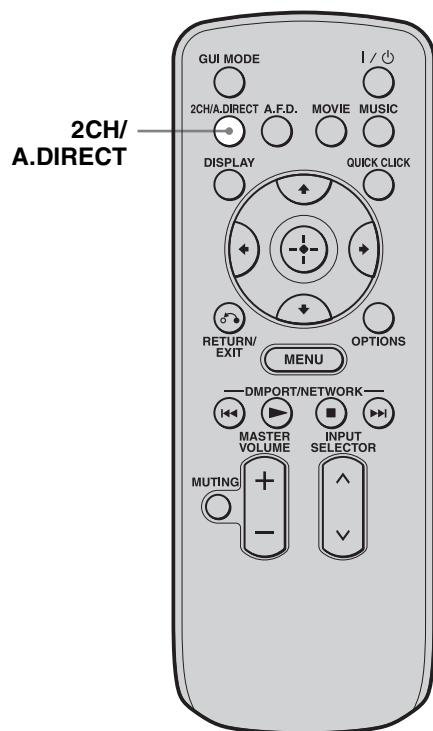
5 MASTER VOLUME ＋ / －を押して、音量を調節する。

デジタルメディアポートメッセージ一覧

メッセージ	説明
No Adapter	アダプター未接続です。
No Device	機器未接続です。
No Audio	オーディオファイルが見つかりません。
Loading	データ読み込み中です。
No Item	アイテムが見つかりません。

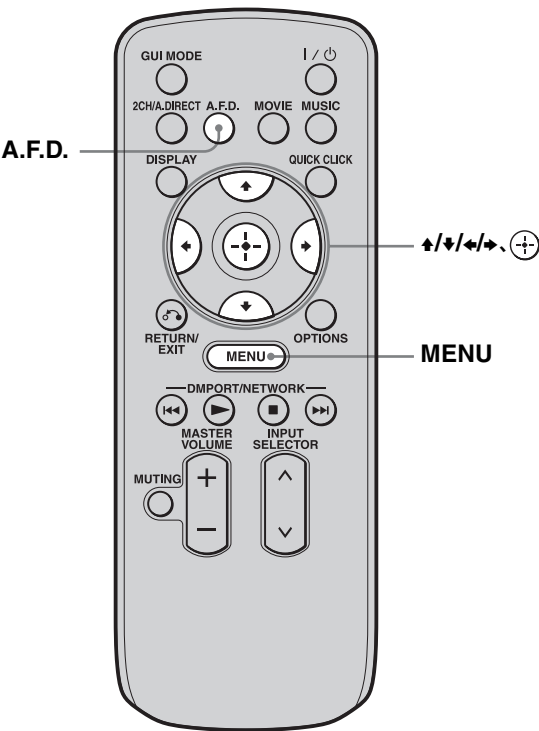
ご注意
- 本機にデジタルメディアポートアダプター以外のアダプターをつながないでください。
- 電源が入っている状態で、本機にデジタルメディアポートアダプターをつないだり、はずしたりしないでください。

2 チャンネル音声で再生する

音楽ソフトの記録フォーマットやつないだ再生機器、サウンドフィールドなどに関係なく、2チャンネル音声出力に切り換えられます。

2CH/A.DIRECT をくり返し押して、出力したい 2 チャンネル音声モードを選ぶ。

2チャンネルモード	効果
2ch Stereo	フロントL/Rの2本のスピーカーのみから音を出します。アクティブサブウーファーからは音が出ません。 標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに再生します。マルチチャンネル音声は、2チャンネルにして（ダウンミックス）再生します。
2ch Analog Direct	選んでいる入力の音声を、2チャンネルのアナログ入力に切り換えます。高品質のアナログ音声を楽しむことができます。 この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのバランスのみ調節できます。

マルチチャンネルサラウンドで再生する

A.F.D.（オートフォーマットダイレクト）モードを使って、録音またはエンコードされたままのソフトの音を再現します。また、2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞くためのデコードモードを選ぶことができます。

A.F.D. をくり返し押して、A.F.D. モードを選ぶ。

A.F.D.モード	デコード後の マルチチャンネル音声	効果
A.F.D. Auto	（自動判別）	サラウンド効果なしで録音またはエンコードされたままの音声として処理します。
Enhanced Surround	–	サラウンド効果を選べます。サラウンド効果について詳しくは「好みのマルチチャンネルサラウンド効果を設定する」（55ページ）をご覧ください。
Multi Stereo	（マルチステレオ）	2チャンネルの信号に対し、L/R成分をすべてのスピーカーから出力します。

好みのマルチチャンネルサラウンド効果を設定する

1 CD や DVD など聞きたい音源を再生する。

2 MENU を押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。
Settingsメニューが表示されます。

4 ↑/↓ をくり返し押して「Surround」を選び、⊕または → を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押して「Enhanced Sur Mode」を選び、⊕を押す。
サラウンド効果メニューが表示されます。

6 ↑/↓をくり返し押して、お好みのEnhanced Sur Mode を選び、⊕または ← を押す。

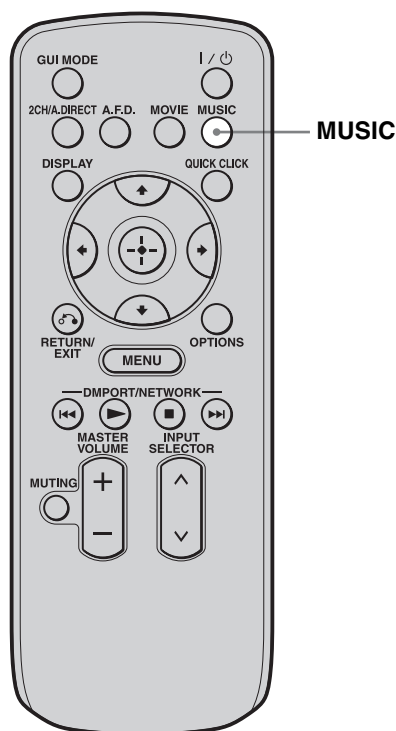
Enhanced Sur Mode	デコード後のマルチチャンネル音声	効果
Pro Logic II*	5チャンネル	ドルビープロロジックIIの処理を行います。2チャンネルの音源を5.1チャンネルにデコードします。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹き替え版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。
Pro Logic IIx*	7チャンネル	ドルビープロロジックIIxの処理を行います。2チャンネルまたは5.1チャンネルの音源を7.1チャンネルにデコードします。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹き替え版や古い映画のビデオなども7.1チャンネルで再生できます。
Neo:6 Cinema	7チャンネル	DTS Neo:6のシネマモード処理を行います。2チャンネルの音源を7チャンネルにデコードします。
Neo:6 Music	7チャンネル	DTS Neo:6のミュージックモード処理を行います。2チャンネルの音源を7チャンネルにデコードします。CDなど通常のステレオ録音の再生に適しています。
Neural-THX	7チャンネル	次世代のNeural-THX®サラウンドです。ステレオ処理や純粋な5.1チャンネル処理に加え、Neural-THX®サラウンド処理された映画や音楽の360度、7.1チャンネルのサラウンド再生が可能です。

*「Speaker Pattern」でサラウンドバックスピーカーがない設定を選んでいるときは Pro Logic II、サラウンドバックスピーカーがある設定を選んでいるときは Pro Logic IIx が選ばれ、同時に両方を設定することはできません。

ご注意
- 以下の場合は機能しません。
  - マルチチャンネル入力を選んでいる。
  - サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の Dolby TrueHD 信号を受信している。
- Neural-THX は、サンプリング周波数が 88.2 kHz 以上の DTS-HD 信号を受信しているときは、効果がありません。
- Neural-THX 処理を入／切すると、音声が頭切れすることがあります。

ちょっと一言
- 通常は「A.F.D. Auto」の使用をおすすめします。
- DVD ソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。
- ドルビープロロジック IIx 処理は、2 チャンネルまたは 5.1 チャンネル信号が入力されているときに有効です。
- Neural-THX は、2 チャンネルまたは 5.1 チャンネル信号が入力されているときに有効です。

音楽用の音場効果で再生する

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、コンサートホールの臨場感を再現できます。

MUSIC をくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

サウンドフィールド	効果
D.Concert Hall A	3D立体音響処理により、反射によって大きなサウンドステージを作ることが特長的なコンサートホールの音響特性を再現します。
D.Concert Hall B	3D立体音響処理により、ホールの残響が特長的なコンサートホールの音響特性を再現します。
Jazz Club	ジャズクラブの音響を再現します。
Live Concert	300席あるライブハウスの音響を再現します。
Stadium	屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。
Sports	スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。
Portable Audio	ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音像を再現します。MP3やその他の圧縮された音源に適しています。

ヘッドホンで聞いている場合には

サウンドフィールド	効果
Headphone（2ch）	2ch Stereoモード、またはA.F.D.モードでヘッドホンを使用すると自動的に選ばれます。通常の2チャンネルステレオ音源は一切サウンドフィールドの処理を行わず、マルチチャンネルのサラウンド音声は2チャンネルにダウンミックスして出力されます。
Headphone（Direct）	音色、サウンドフィールドなどの処理を行わずに、アナログ音声を出力します。
Headphone（Multi）	マルチチャンネル入力を選んでいるときにヘッドホンを使用すると、自動的に選ばれます。MULTI CHANNEL INPUT端子のFRONT L/R端子に入力された信号を出力します。

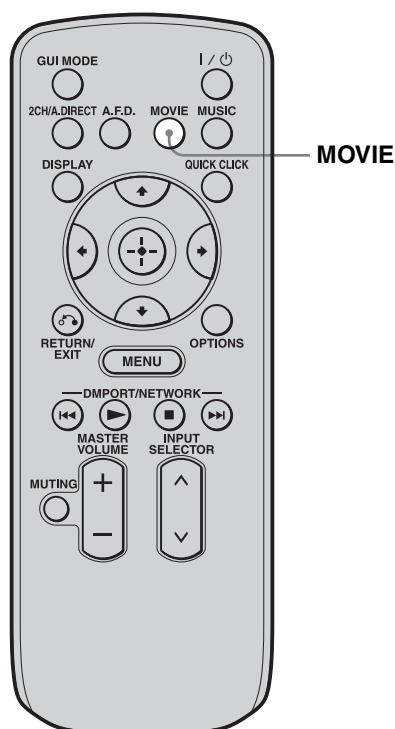
音楽用のサウンドフィールドを解除するには

2CH/A.DIRECTまたはA.F.D.を押します。

ご注意

- 音楽用のサウンドフィールドは、以下の場合は機能しません。
  – マルチチャンネル入力を選んでいる。
  – サンプリング周波数が 88.2 kHz 以上の DTS-HD 信号を受信している。
  – サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の Dolby TrueHD 信号を受信している。
- DTS 96/24 信号を受信中にサウンドフィールドを設定すると、もとの周波数にかかわらず 48 kHz で再生されます。
- サンプリング周波数が 88.2 kHz 以上の信号を受信中にサウンドフィールドを設定すると、もとの周波数にかかわらず 44.1 kHz または 48 kHz で再生されます。
- 音楽用サウンドフィールドのいずれかを選んでいるときは、Speaker メニューですべてのスピーカーが「LARGE」に設定されていても、アクティブサブウーファーからは音が出ません。ただし、入力されたデジタル信号に L.F.E. 信号が含まれているときや、フロントとサラウンドのいずれかが「SMALL」に設定されているとき、映画用サウンドフィールドを選んでいるとき、「Portable Audio」を選んでいるときは、アクティブサブウーファーから音が出ます。
- 選んだサウンドフィールドによっては、音源のノイズが目立つことがあります。

映画用の音場効果で再生する

本機にあらかじめ設定されているHD-D.C.S.（HD Digital Cinema Sound）サウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、映画館の臨場感を再現できます。
HD-D.C.S.技術について詳しくは、「用語集」（130ページ）をご覧ください。

MOVIE を押す。

サウンドフィールド	効果
HD-D.C.S.	HD-D.C.S.は、ブルーレイディスクやDVDソフトでご覧になっている映画の音響効果を、作品の音響デザイナーが意図したとおり忠実に再現します。HD-D.C.S.のエフェクトタイプを選ぶこともできます。詳しくは「Sound Field Setup」（94ページ）をご覧ください。

映画用のサウンドフィールドを解除するには

2CH/A.DIRECTまたはA.F.D.を押します。

ご注意

- HD-D.C.S. は、以下の場合は機能しません。
  - マルチチャンネル入力を選んでいる。
  - サンプリング周波数が 88.2 kHz 以上の DTS-HD 信号を受信している。
  - サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の Dolby TrueHD 信号を受信している。
- DTS 96/24 信号を受信中にサウンドフィールドを設定すると、もとの周波数にかかわらず 48 kHz で再生されます。
- サンプリング周波数が 88.2 kHz 以上の信号を受信中にサウンドフィールドを設定すると、もとの周波数にかかわらず 44.1 kHz または 48 kHz で再生されます。
- 選んだサウンドフィールドによっては、音源のノイズが目立つことがあります。

ちょっと一言

HD-D.C.S. が選ばれているとき、表示窓の HD Digital Cinema Sound ランプが点灯します。

本機が再生できる音声フォーマット

本機がデコードできる音声フォーマットは、再生機器とつないだデジタル音声入力端子によって異なります。
本機は以下のフォーマットに対応しています。

音声フォーマット	最大チャンネル数	本機と再生機との接続	
		COAXIAL/OPTICAL	HDMI
Dolby Digital	5.1チャンネル	○	○
Dolby Digital EX	6.1チャンネル	○	○
Dolby Digital Plus [a]	7.1チャンネル	×	○
Dolby TrueHD [a]	7.1チャンネル	×	○
DTS	5.1チャンネル	○	○
DTS-ES	6.1チャンネル	○	○
DTS 96/24	5.1チャンネル	○	○
DTS-HD High Resolution Audio [a]	7.1チャンネル	×	○
DTS-HD Master Audio [a] [b]	7.1チャンネル	×	○
DSD [a]	5.1チャンネル	×	○
MPEG-2 AAC（LC）	5.1チャンネル	○	○
マルチチャンネルリニアPCM [a]	7.1チャンネル	×	○

a) 再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書を参照してください。
b) サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の信号は、96 kHz または 88.2 kHz で再生されます。

本機のネットワーク機能について

- 本機のホームネットワーク機能は、DLNA（Digital Living Network Alliance）標準に準拠しています。この機能により、本機ではDLNAロゴが表示された適合機器（DLNA認定製品）に保存されているコンテンツ（音楽、写真）を楽しむことができます。
- 本機をインターネットに接続すれば、SHOUTcastを聞いたり、本機のファームウェアをアップデートしたりすることもできます。

DLNAについて

DLNA（Digital Living Network Alliance）は、コンテンツ（音楽、写真、映像）をやりとりできるパソコン、AV機器、モバイル機器など、さまざまな製品のメーカーから構成される標準機構です。DLNAは標準の決定、および適合機器に表示される認定ロゴの発行を行います。

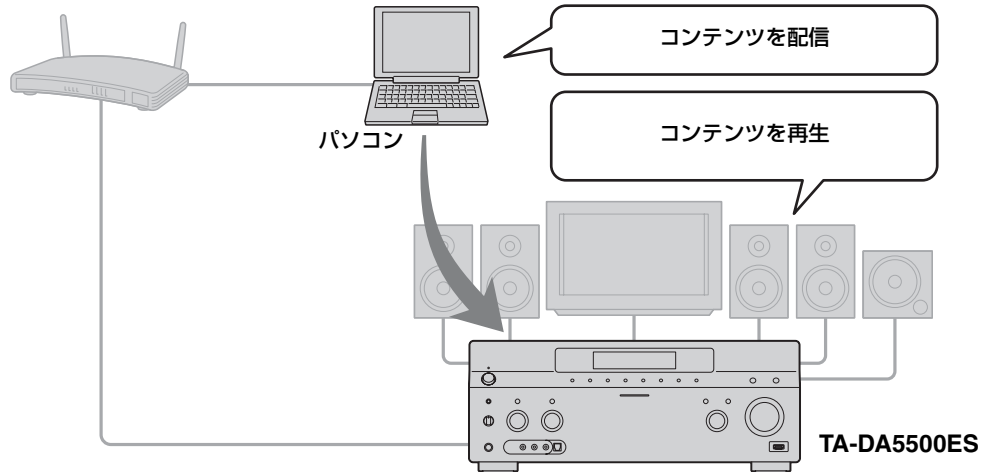
ご注意

接続しているサーバーやコンテンツの種類によっては、本機で再生できない場合があります。

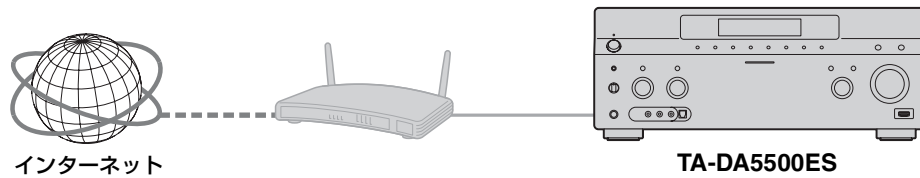
ネットワーク機能でできること

本機のネットワーク機能を使って、以下のことができます。

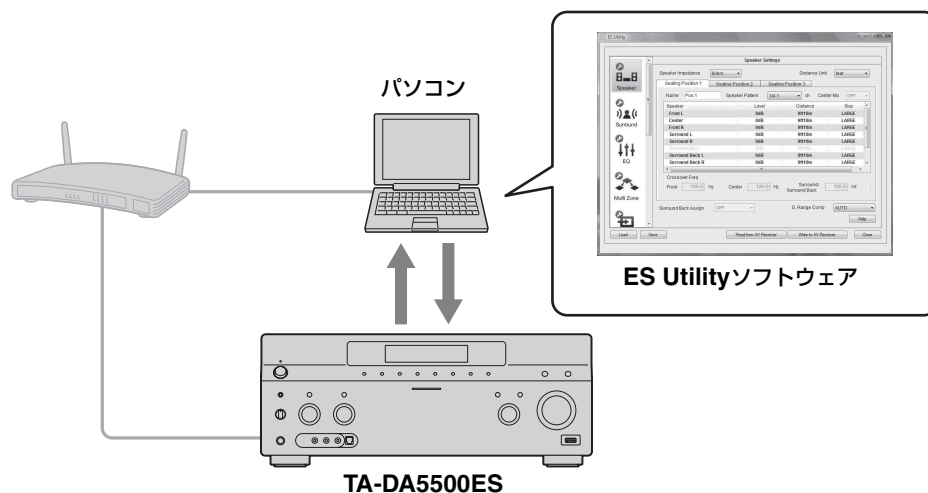
ホームネットワーク上の機器の音楽や写真を再生する

ホームネットワーク上のパソコンなど、他の機器に保存されている音楽や写真を本機で再生することができます（63ページ）。

インターネットラジオを聞く

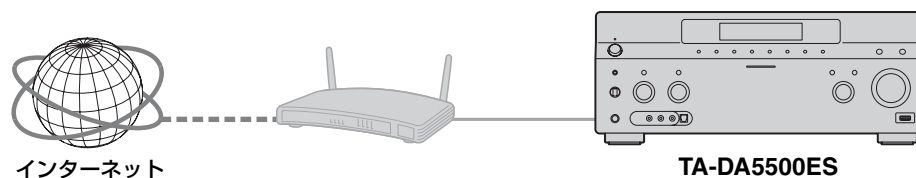
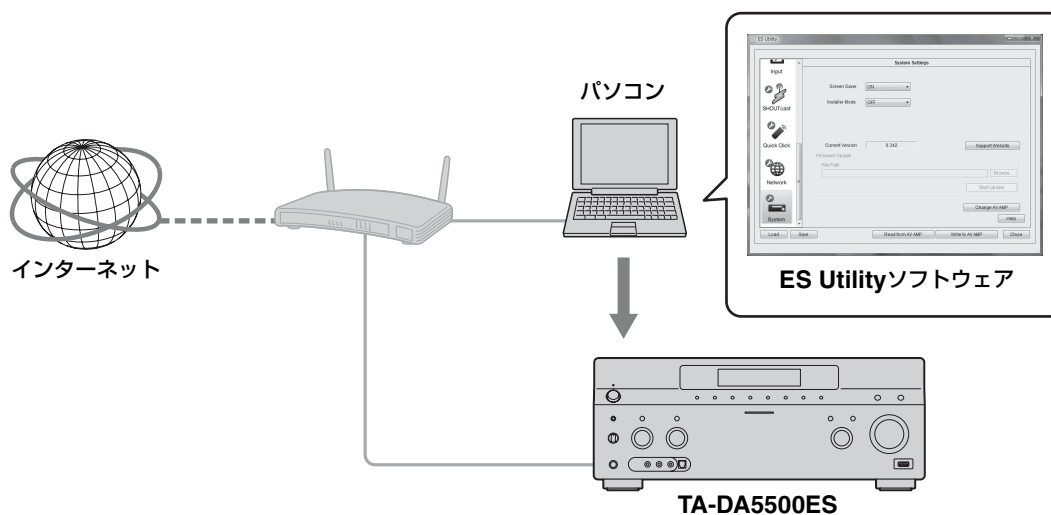
本機でSHOUTcastを聞くことができます（64ページ）。

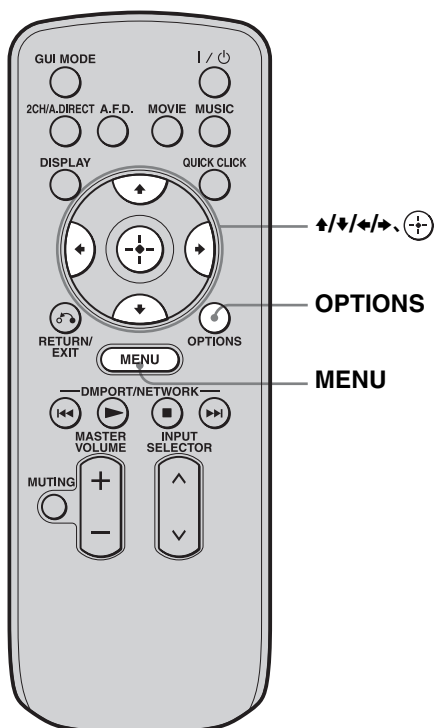
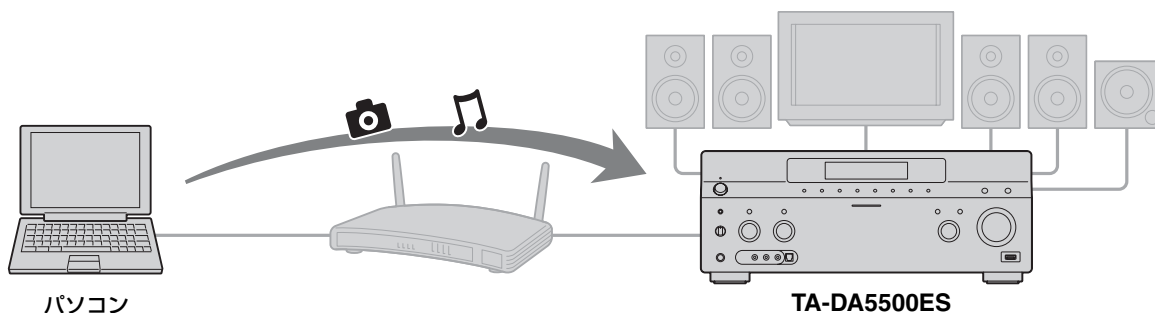
つづく

その他の便利な機能

パソコンを使って本機の設定を変更する

ホームネットワーク上のパソコンから本機の設定を変更することができます（65ページ）。

本機のファームウェアをアップデートする

インターネットから本機のファームウェアをアップデートすることができます。

A）インターネットから直接アップデート（**104**ページ）

B）インターネットからパソコンにダウンロードしたファイルを使ってアップデート（**66**ページ）

外部サーバーにあるコンテンツを本機で楽しむ

サーバーとは、ホームネットワーク上のDLNA機器にコンテンツ（音楽、写真）を配信する機器です。
本機でサーバーに保存されている音楽および写真を再生することができます。

1 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「♫Music」または「📷 Photo」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Server」を選び、⊕を押す。

4 ↑/↓ と⊕を押して、再生したいコンテンツがあるサーバーを選ぶ。

コンテンツ一覧が表示されます。

5 ↑/↓/←/→ を押してコンテンツ一覧から再生したいコンテンツを選び、⊕を押す。

再生画面が表示され、選んだコンテンツが再生されます。

つづく

多機能リモコンを使って再生する

多機能リモコンの以下のボタンでサーバー上のコンテンツを楽しむことができます。

コンテンツの種類		Music	Photo
多機能リモコンのボタン	►	●	●
	■	●	●
	II	●	●
	►►I	●	●
	I◄◄	●	●
	►►	●*	
	◄◄	●*	

* このボタンは接続しているサーバーやコンテンツの種類によっては働かないことがあります。

再生方法を選ぶ

Musicカテゴリーの再生方法を選ぶことができます。

1 音楽コンテンツを再生中にOPTIONSを押す。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Repeat」または「Shuffle」を選び、⊕を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して以下からお好みの再生方法を選び、⊕を押す。

■Repeat

1つのトラックまたはすべてのトラックをくり返し再生します。

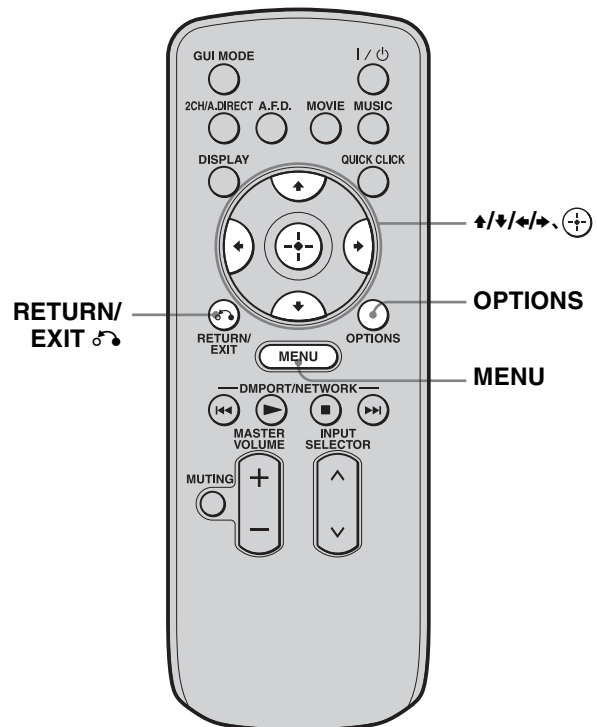
- Off
  リピート再生を解除します。
- One
  1つのトラックをくり返し再生します。
- All
  すべてのトラックをくり返し再生します。

■Shuffle

すべてのトラックをランダムに再生します。

- Off
  シャッフル再生を解除します。
- On
  シャッフル再生にします。

SHOUTcast を聞く

SHOUTcastは、ストリーミング技術を用いてデジタルオーディオを配信するインターネットラジオサービスです。SHOUTcastは、いわばインターネットラジオ局の登録簿で、ユーザーはここから世界中のDJや放送局が無料で配信している膨大なオンラインラジオ局にアクセスすることができます。
詳しくはSHOUTcast のホームページ（http://www.shoutcast.com/）を参照してください。

SHOUTcastの放送局を選ぶ

1 MENU を押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「SHOUTcast」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Preset List」、「0-9」、または A から Z を選び、⊕を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して聞きたいジャンルを選び、⊕を押す。

5 ↑/↓/←/→ を押して聞きたい放送局を選び、⊕を押す。

受信画面が表示され、選んだ放送局が受信されます。

お気に入りの放送局を登録する

1 放送局を受信中に OPTIONS を押す。

2 「Add to Preset List」を選び、⊕を押す。

プリセット番号一覧が表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して登録したいプリセット番号を選び、⊕を押す。

前の表示画面に戻るには

RETURN/EXIT を押します。

お気に入りに登録した放送局を選ぶ

1 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「SHOUTcast」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Preset List」を選び、⊕を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して聞きたい放送局のプリセット番号を選び、⊕を押す。

受信画面が表示され、選んだ放送局が受信されます。

ES Utility でできること

付属のCD-ROMからES Utilityをパソコンにインストールすると、本機で行うのと同様にパソコンからも本機の設定を確認したり調節したりすることができます。

ES Utilityでは以下の設定はできません。
- Auto Calibration
  - Quick Setup
  - Enhanced Setup
  - Front Ref Type
  - SP Pair Match
- Speaker
  - Test Tone
- Multi Zone
  - Power オン／オフ
  - Input 変更
  - Volume 調整

必要なシステム構成

オペレーティングシステム

Windows XP Home Edition/Professional/Media Center Edition 2005（SP3、32 bit）
Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Ultimate（SP1、32 bit/64 bit）

パソコン

CPU: Celeron、Pentium III以上
Clock Speed: 1 GHz以上
RAM: 512 MB以上
HDD: 20 MB以上の空き容量
（.NET Framework 2.0がインストールされていない場合は、280 MB以上の空き容量が必要です。）
Monitor: 1024 × 768、High Color（65536色）
Network: 100Base-TX以上

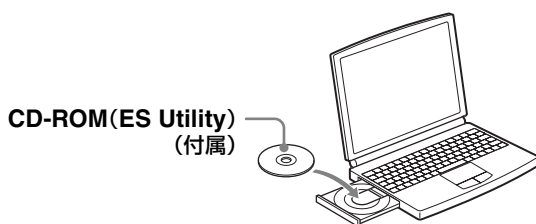
ご注意
- 放送局の数が多い場合、本機は順番に 100 局まで表示します。
- 本機が対応していない音声フォーマットで配信している放送局は、一覧に表示されません。
- メインゾーンと 2nd ゾーンで聞けるのは、同じ放送局 1 局のみです。
いずれかのゾーンで他の放送局が選ばれていても、あとから選ばれた放送局が優先されます。
- 登録済みのプリセット番号を選んだ場合、すでに登録されている放送局はあとから選んだ放送局で上書きされます。

ちょっと一言
1 つの放送局を異なる複数のプリセット番号に登録できます。

ES Utilityをパソコンにインストールする

1 パソコンの電源を入れ、Administrator でログインする。

2 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに挿入する。

インストーラーが自動的に起動し、ソフトウェアセットアップ画面が画面に表示されます。
インストーラーが自動的に起動しない場合は、ディスク内の「SetupLauncher.exe」をダブルクリックしてください。

3 画面の指示にしたがって ES Utility をインストールする。

ES Utilityを使って本機のファームウェアをアップデートする

ES Utilityを使って本機のファームウェアをアップデートすることができます。ES Utilityの操作について詳しくは、ES Utilityのヘルプを参照してください。

1 アップデートプログラムをサポートウェブサイトから ES Utility がインストールされているパソコンにダウンロードする。

2 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「System」を選び、⊕または → を押す。

5 ↑/↓をくり返し押して「System Update」を選び、⊕を押す。

6 ↑/↓ をくり返し押して「PC Update」を選び、⊕を押す。

確認画面が表示されます。

7 「Start」を選び、⊕を押す。

テレビ画面にパソコンからのデータの待機状況が表示されます。

8 パソコンの ES Utility ウィンドウで「System」をクリックする。「Browse...」をクリックしてアップデートプログラムの保存されている場所を指定し、「Start Update」をクリックする。

本機のアップデートが始まります。
アップデートが完了すると、本機は自動的に再起動します。

ヘルプを見るには

ES Utilityのヘルプを見るときは、［スタート］－［すべてのプログラム］－［ES Utility］－［ES Utilityヘルプ］の順番でクリックします。

ご注意

- ファームウェアのアップデート中に本機の電源を切ったり、LAN ケーブルを抜いたりしないでください。故障の原因となります。
- ファームウェアのアップデートは、完了するまで 30 分ほどかかります。

マルチゾーン機能でできること

本機を設置した場所（メインゾーン）とは別の場所で、本機につないだ機器の映像や音声を楽しむことができます。例えば、メインゾーンでDVDを見て、2ndゾーンまたは3rdゾーンではCDを聞くことができます。

IRリピーター（別売）を使うと、2ndゾーンまたは3rdゾーンからメインゾーンにある機器と、2ndゾーンまたは3rdゾーンにあるソニー製のアンプの両方を操作することができます。

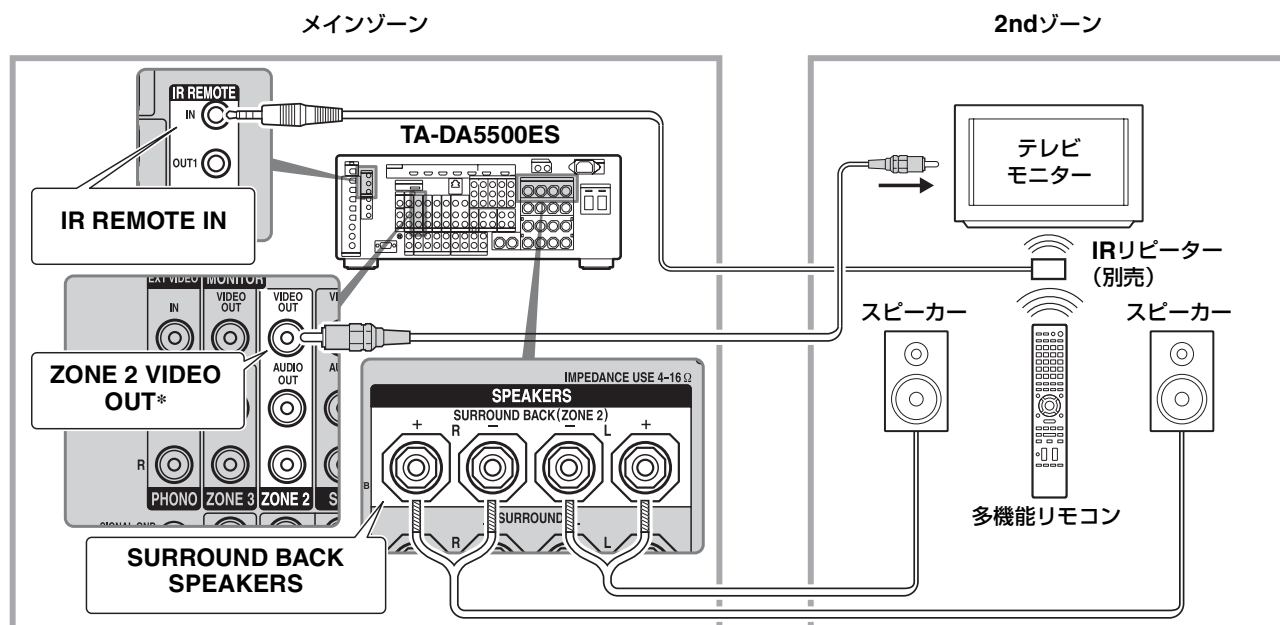
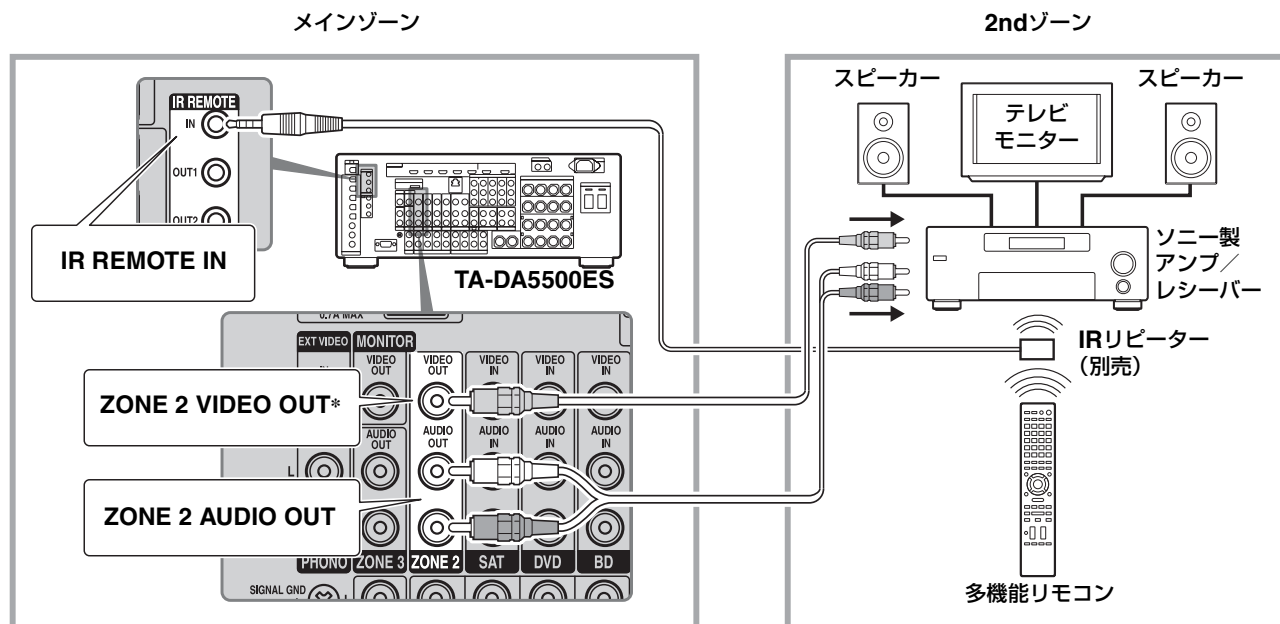
2ndゾーンまたは3rdゾーンでは多機能リモコンをお使いください。簡単リモコンはメインゾーン以外では使用できません。

本機を2ndゾーンまたは3rdゾーンで操作するには

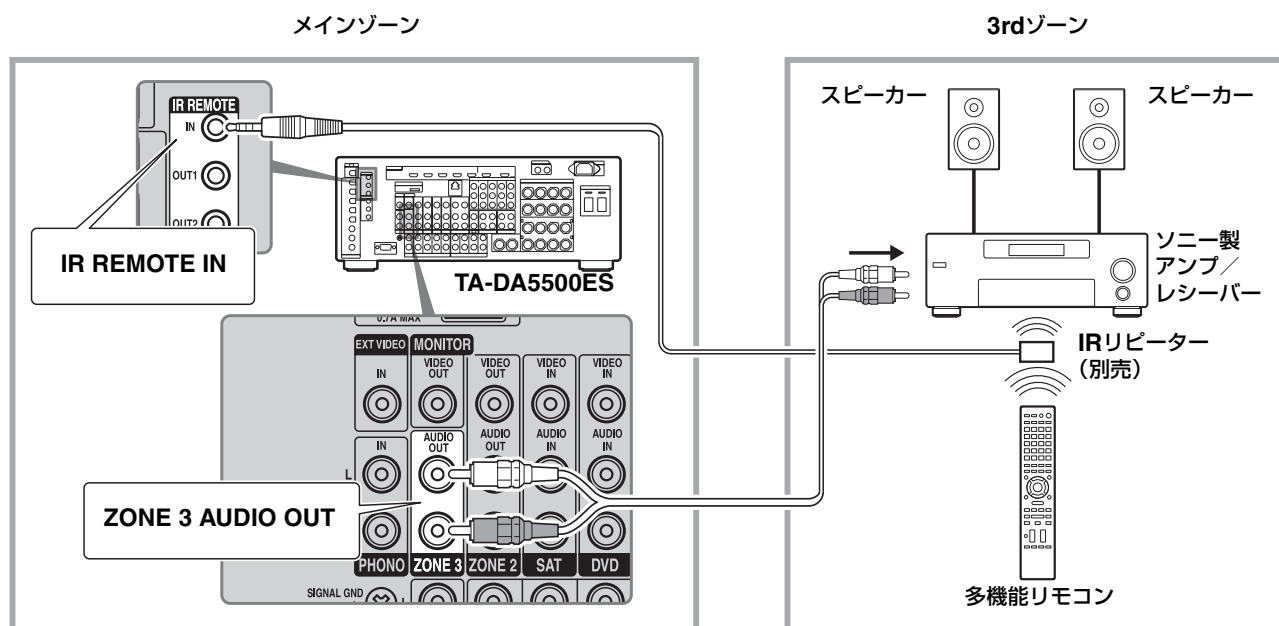
IRリピーター（別売）をIR REMOTE端子につなぐと、本機のリモコン受光部にリモコンを向けなくても本機を操作することができます。
リモコンの信号が届かない場所に本機を設置している場合は、IRリピーターをお使いください。

マルチゾーン接続をする

1：2ndゾーンの接続

①本機のSURROUND BACK SPEAKERS端子を使用して、2ndゾーンにあるスピーカーから音声を出力するには

②本機と、もう1台のアンプを使用して、2ndゾーンにあるスピーカーから音声を出力するには

＊COMPONENT VIDEO ZONE 2 OUT 端子にもつなぐことができます。

2：3rdゾーンの接続

メインゾーン
3rdゾーン
IR REMOTE
IN
OUT1
IR REMOTE IN
TA-DA5500ES
EXT VIDEO
MONITOR
VIDEO OUT
VIDEO IN
AUDIO OUT
AUDIO IN
ZONE 3 AUDIO OUT
PHONO
ZONE 3
ZONE 2
SAT
DVD
SIGNAL GND
スピーカー
スピーカー
ソニー製
アンプ／
レシーバー
IRリピーター
（別売）
多機能リモコン

2nd ゾーンのスピーカーを設定する

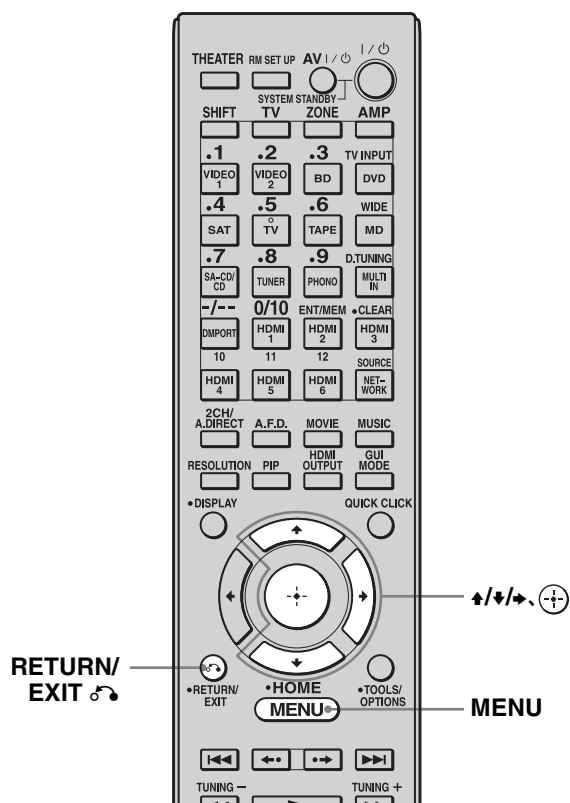
2ndゾーンのスピーカーをSURROUND BACK SPEAKERS端子につないでいるときに（68ページ）、2ndゾーンで選んだ音声がSURROUND BACK SPEAKERS端子につないだスピーカーから出力されるように設定します。

1 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Speaker」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「Speaker Pattern」を選び、サラウンドバックスピーカーのないパターンを選ぶ。

5 RETURN/EXIT を押す。

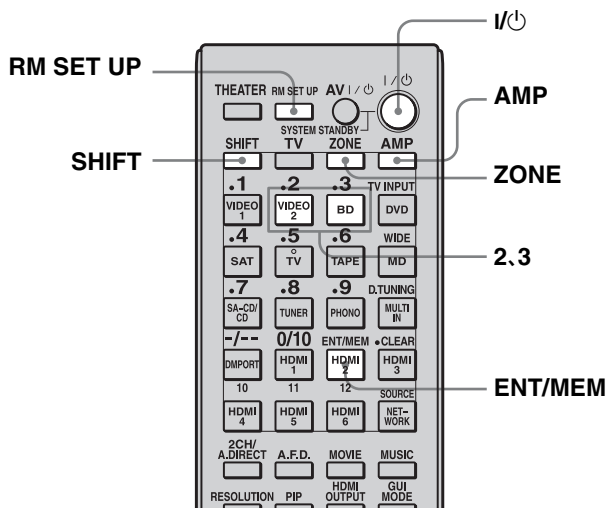
6 ↑/↓ をくり返し押して「Sur Back Assign」を選び、⊕を押す。

7 ↑/↓ を押して「ZONE2」を選び、⊕を押す。

メニューを消すには

MENUを押します。

多機能リモコンのゾーン設定を切り換える

多機能リモコンは、お買い上げ時には2ndゾーンで使えるように設定されています。3rdゾーンで使いたい場合は、多機能リモコンのゾーン設定を切り換えてください。

1 RM SET UP を押したまま、I/⏻ を押す。

AMPとZONEが点滅します。

2 ZONE を押す。

AMPが消灯し、ZONEは点滅したままSHIFTが点灯します。

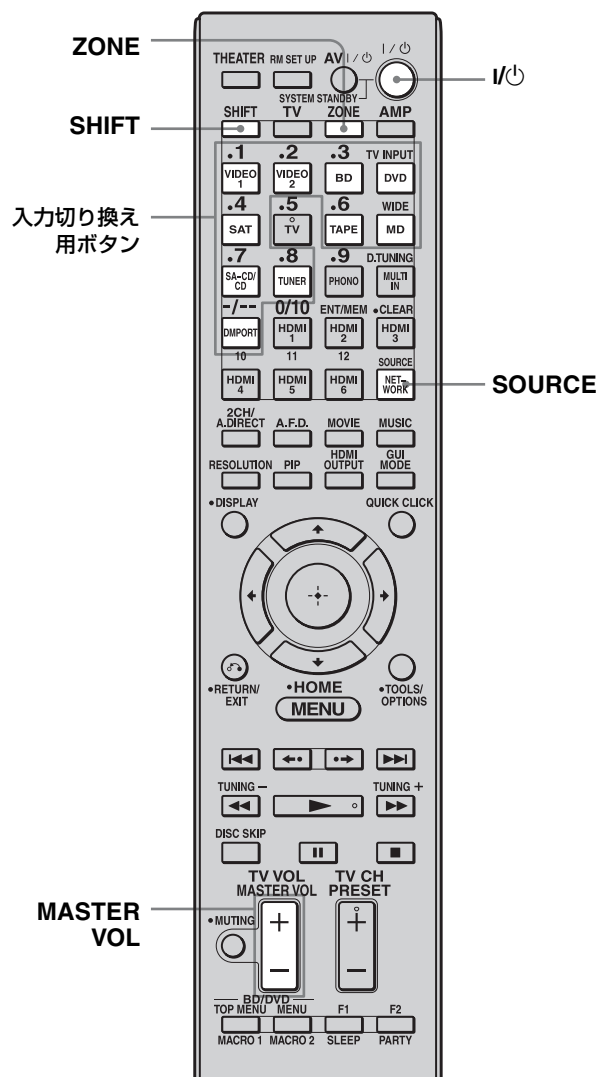
3 ZONE が点滅している間に、2nd ゾーンに切り換えたい場合は数字ボタンの 2 を、3rd ゾーンに切り換えたい場合は数字ボタンの 3 を押す。

ZONEが点灯します。

4 ENT/MEM を押す。

ZONEが2回点滅し、多機能リモコンのゾーン設定が2ndゾーンまたは3rdゾーンに切り換わります。

本機を 2nd ゾーン／ 3rd ゾーンで操作する

以下の手順では、IRリピーターをつないで2ndゾーンまたは3rdゾーンから本機を操作する方法を説明しています。IRリピーターをつないでいない場合は、メインゾーンで本機を操作してください。

1 本機および 2nd ゾーンまたは 3rd ゾーンのアンプの電源を入れる。

2 ZONE を押す。

多機能リモコンが2ndゾーンまたは3rdゾーンに切り換わります。あらかじめゾーン設定を2ndゾーンまたは3rdゾーンに切り換えておいてください。

3 I/⏻ を押す。

マルチゾーン機能が有効になります。

つづく

4 **多機能リモコンの入力切り換え用ボタンのいずれかを押して、出力したいソース信号を選ぶ。**

2ndゾーンにはアナログ映像信号とアナログ音声信号が出力されます。3rdゾーンにはアナログ音声信号のみ出力されます。SOURCEを選ぶと、現在の入力信号が出力されます。

5 **音量を調節する。**

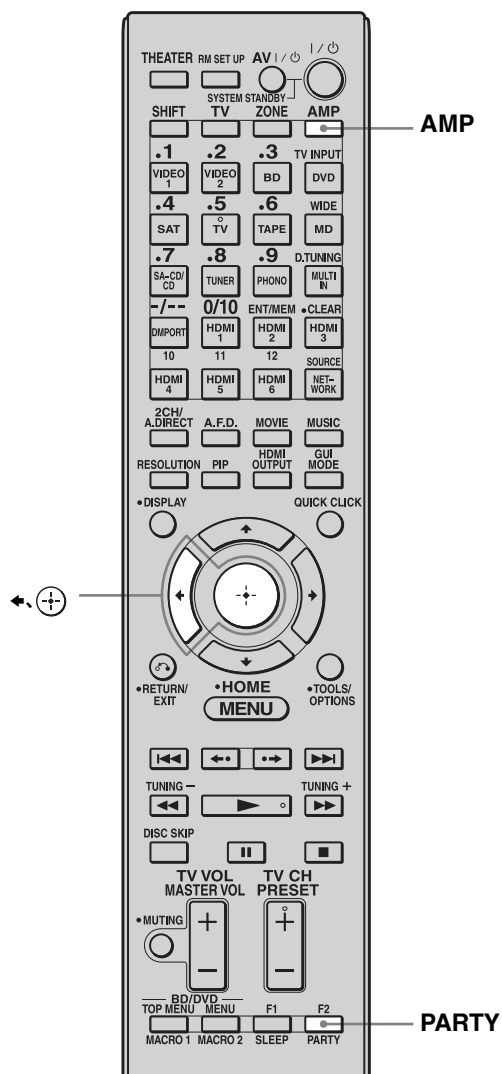
- イラスト1-①の場合（68ページ）、多機能リモコンのMASTER VOL＋/－で音量を調節します。
- イラスト1-②の場合（68ページ）、またはイラスト2の場合（69ページ）、2ndゾーンまたは3rdゾーンのアンプで音量を調節します。

2ndゾーン／3rdゾーンの操作を終了するには

I/⏻を押します。

すべてのゾーンで同じ曲を聞く

（パーティー機能）

メインゾーン聞いている曲を別のゾーンでも同時に楽しむことができます。

1 メインゾーンで再生する。

2 AMP を押す。

ちょっと一言

- 本機がスタンバイ状態であっても（本機の電源を切るには、多機能リモコンの I/⏻ を押します）、2nd ゾーンまたは 3rd ゾーンのアンプの電源は入ったままです。すべてのアンプの電源を切るには、多機能リモコンの I/⏻ と AV I/⏻ を同時に押します（SYSTEM STANDBY）。
- ZONE 2 OUT および ZONE 3 OUT 端子からは、本機のアナログ入力端子につないだ機器の信号のみ出力されます。本機のデジタル入力端子にのみつないだ機器の信号は出力されません。
- SOURCE を選んでいるときにマルチチャンネル入力を選んでも、MULTI CHANNEL INPUT 端子に入力された信号は、ZONE 2 OUT および ZONE 3 OUT 端子からは出力されません。機能中のアナログ音声端子に入力されている信号が出力されます。

3 PARTY を押す。

パーティー機能画面が表示されます。

4 ← を押して「Start」を選び、⊕を押す。

メインゾーンで選んでいる入力と同じ音声が、「Party Setup」で選んだゾーンで出力されます（97ページ）。

パーティー機能から抜けるには

2ndゾーンまたは3rdゾーンで別の入力を選びます。2ndゾーン／3rdゾーンの操作について詳しくは、「本機を2ndゾーンまたは3rdゾーンで操作するには」（67ページ）をご覧ください。

“ブラビアリンク”機能を使う

“ブラビアリンク”機能とは？

“ブラビアリンク”機能はHDMI機器制御機能を搭載したソニーのテレビやDVD／ブルーレイディスクレコーダー、AVアンプなどが対応しています。
“ブラビアリンク”機能に対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、以下の操作ができます。

- ワンタッチで機器を再生する （ワンタッチ再生）（75ページ）
- テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ （システムオーディオコントロール）（76ページ）
- デジタル放送のジャンルに応じてサラウンド効果を切り換える（オートジャンルセレクター）（76ページ）
- テレビと本機の電源を切る （電源オフ連動）（77ページ）
- ワンタッチで映画に適した音場効果に切り換える（77ページ）
- 自動で映画に適した音場効果に切り換える （24pオートセレクター）（77ページ）

HDMI機器制御機能は、HDMI CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

HDMI機器制御機能は､以下の場合働きません。

- HDMI機器制御機能に対応していない機器をつないだ場合
- 本機と各機器をHDMIでつないでいない場合
- HDMI OUT B端子につないだ機器ではHDMI機器制御機能は働きません。

本機は、“ブラビアリンク”機能に対応している機器とつなぐことをおすすめします。

“ブラビアリンク”機能の準備をする

“ブラビアリンク”機能を使うには、本機とつないでいる機器ともにHDMI機器制御機能の設定を有効にする必要があります。本機は、「HDMI機器制御設定連動」に対応しています。

お使いのテレビが「HDMI機器制御設定連動」に対応している場合は

「HDMI機器制御設定連動」に対応しているテレビをお使いの場合は、テレビのHDMI機器制御機能を設定すると、本機の設定内容も連動して設定されます。

1 本機とテレビ､再生機器が HDMI ケーブル（別売）でつながれていることを確認する。（各機器は HDMI 機器制御機能に対応している必要があります。）

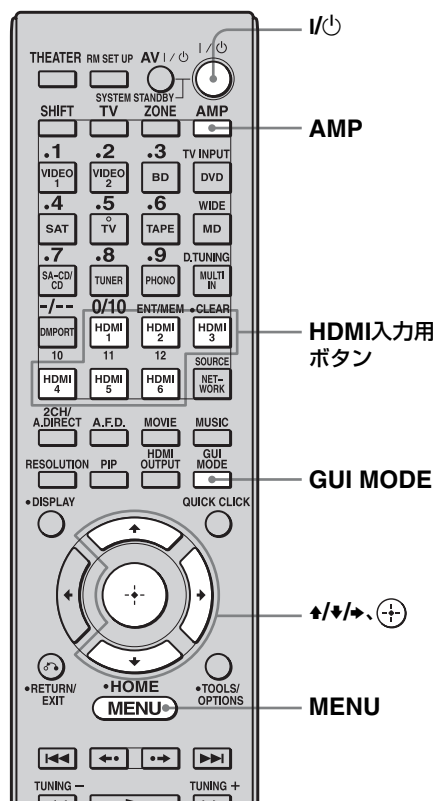
2 本機とテレビ､再生機器の電源を入れる。

3 テレビのHDMI機器制御機能を有効にする。
本機とつないでいる機器のHDMI機器制御機能が連動して設定されます｡設定中は本体の表示窓に「SCANNING」が点滅し､自動的に本機の入力がHDMI入力に切り換わります｡設定が終わると「COMPLETE」と表示されます｡設定が終わるまでしばらくお待ちください。
テレビの設定方法については､テレビの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- つないでいる機器によっては、HDMI 機器制御機能が働かないことがあります。お使いの機器の取扱説明書を参照してください。
- HDMI ケーブルを抜いたり、接続を変えたときは、「お使いのテレビが「HDMI 機器制御設定連動」に対応している場合は」または「お使いのテレビが「HDMI 機器制御設定連動」に対応していない場合は」（75 ページ）の手順を行ってください。ただし、HDMI IN 1、2 および 6 端子につないでいるときは、これらの手順を行う必要はありません。
- Input メニューの「Input Assign」を使ってコンポーネント映像入力端子と HDMI 入力端子を関連付けている場合は、「Control for HDMI」を「ON」に設定できません。
- 「HDMI 機器制御設定連動」の設定中は、ワンタッチ再生やシステムオーディオコントロールの機能は働きません。
- テレビから「HDMI 機器制御設定連動」で設定する場合、事前にテレビと本機、再生機器の電源を入れてください。
- 「HDMI 機器制御設定連動」に対応していない再生機器は、テレビの「HDMI 機器制御設定連動」の設定を有効にする前に HDMI 機器制御機能を有効にしてください。

お使いのテレビが「HDMI機器制御設定連動」に対応していない場合は

本機と接続機器のHDMI機器制御機能を別々に設定します。
この操作には多機能リモコンをお使いください。簡単リモコンでは操作できません。

1 「お使いのテレビが「HDMI 機器制御設定連動」に対応している場合は」(74 ページ)の手順を行う。

2 AMPを押す。
本機の操作ができるようになります。

3 MENUを押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

4 ↑/↓をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または→を押す。

5 ↑/↓をくり返し押して「HDMI」を選び、⊕または→を押す。

6 ↑/↓をくり返し押して「Control for HDMI」を選び、⊕または→を押す。

7 ↑/↓をくり返し押して「ON」を選び、⊕または→を押す。
本機のHDMI機器制御機能が有効になります。

8 GUI MODEを押して、GUIメニューを消す。
GUIメニューが表示されていると、再生機器のHDMI機器制御を正しく設定することができません。

9 HDMI入力用ボタンで、HDMI機器制御を設定する再生機器を表示する。

10 つないでいる機器のHDMI機器制御機能を有効にする。
接続機器の設定方法については、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。

11 続けて他の機器も設定する場合は、手順9と10をくり返す。

ワンタッチで機器を再生する
(ワンタッチ再生)

簡単な操作で、本機にHDMI接続された機器を自動的に起動して視聴できます。

「Pass Through」を「AUTO」または「ON」に設定したときは、本機はスタンバイ状態のままで、音声と映像がテレビから出力されます。

再生機器(DVD プレーヤーなど)を再生する。
本機とテレビの電源も連動して入り、映像と音声が出力されます。

ビデオカメラでワンタッチ再生するには

1 本機とビデオカメラのHDMI機器制御機能を有効にする。

2 ビデオカメラをHDMI IN 1、2または6端子につなぐ(24ページ)。
本機とテレビの電源も連動して入り、映像と音声が出力されます。

ご注意
- ワンタッチ再生では、テレビによって最初の部分が出力されないことがあります。
- ビデオカメラは HDMI IN 1、2 または 6 端子につないでください。HDMI IN 3 ～ 5 端子につないだ場合、ビデオカメラのワンタッチ再生が正しく動作しないことがあります。
- テレビによっては、映像、音声が頭切れすることがあります。

つづく

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ
（システムオーディオコントロール）

簡単な操作で、テレビの音声を本機につないだスピーカーから楽しめます。
システムオーディオコントロール機能が有効になっていると、本機の電源が切になっていても、状況に応じて電源が入り、適切な入力に切り換わります。
また、テレビの音声が本機につないだスピーカーから出力されると、テレビの音量は自動的に消音されます。
その他、以下のように働きます。

- テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、テレビの音声は自動的に本機につないだスピーカーから出力されます。本機の電源を切ると、自動的にテレビのスピーカーから出力されます。
- テレビの音量を調節すると、本機につないだスピーカーの音量を調節できます。

システムオーディオコントロール機能は、テレビのメニューでも操作できます。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書を参照してください。

デジタル放送のジャンルに応じてサラウンド効果を切り換える
（オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（システムオーディオコントロール機能が有効で、かつオートジャンルセレクター対応のテレビなどの機器をお使いの場合のみ）。

1 AMP を押す。
本機の操作ができるようになります。

2 MENU を押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。
Settingsメニューが表示されます。

4 ↑/↓ をくり返し押して「HDMI」を選び、⊕または → を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押して「Sound Field」を選び、⊕または → を押す。

6 ↑/↓をくり返し押して設定を選び、⊕を押す。
- 「AUTO」：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り換わります。
- 「MANUAL」：サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応表

番組情報（EPG情報）	オートジャンルセレクターで切り換わるサウンドフィールド
ニュース／報道	2ch Stereo
スポーツ	Sports
情報／ワイドショー	A.F.D. Auto
ドラマ	A.F.D. Auto
音楽	詳細ジャンルによって異なります。下記の音楽番組詳細ジャンル対応表をご覧ください。
バラエティ	A.F.D. Auto
映画	HD-D.C.S.
アニメ／特撮	A.F.D. Auto
ドキュメンタリー	A.F.D. Auto
劇場／公演	Live Concert
趣味／教育	A.F.D. Auto
福祉	A.F.D. Auto
その他	A.F.D. Auto
スポーツ（CS）	Sports
洋画（CS）	HD-D.C.S.
邦画（CS）	HD-D.C.S.
情報なし	A.F.D. Auto

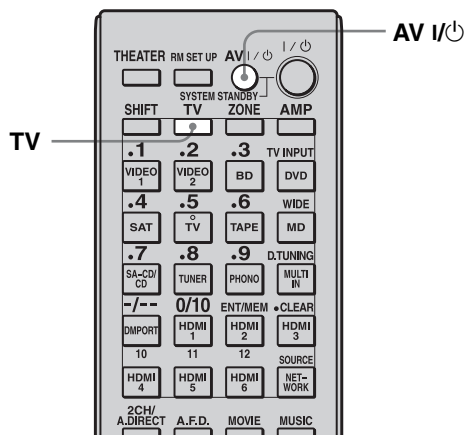
音楽番組詳細ジャンル対応表

詳細ジャンル	サウンドフィールド
国内ロック／ポップス	Live Concert
海外ロック／ポップス	Live Concert
クラシック／オペラ	D.Concert Hall A
ジャズ／フュージョン	Jazz Club
歌謡曲／演歌	Live Concert
ライブ／コンサート	Live Concert
ランキング／リクエスト	Live Concert
カラオケ／のど自慢	Live Concert
民謡／邦楽	Live Concert
童謡／キッズ	Live Concert

ご注意
- 「Control for HDMI」が「ON」のときは、システムオーディオコントロール機能によって、HDMI メニューの「Audio Out」は自動的に設定されます。
- システムオーディオコントロール機能のないテレビをつないだ場合は、システムオーディオコントロール機能は働きません。
- テレビの電源を入れてから本機の電源を入れると、テレビの音声が出力されるまでに多少時間がかかることがあります。
- 番組情報（EPG 情報）に応じてサウンドフィールドが切り換わるとき、音が途切れることがあります。

詳細ジャンル	サウンドフィールド
民族音楽／ワールドミュージック	Live Concert
その他	Live Concert

テレビと本機の電源を切る
（電源オフ連動）

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機と再生機器の電源も連動して切ることができます。
また、本機の多機能リモコンでも電源オフ連動の操作ができます。

TV を押してから、AV I/⏻ を押す。

HDMIでつないだすべての機器の電源が切れます。

ワンタッチで映画に適した音場効果に切り換える

本機やテレビ、またはブルーレイディスクレコーダーのリモコンをテレビに向けて、リモコンの THEATER ボタンを押す。

サウンドフィールドが自動的にHD-D.C.S.に切り換わります。
もとのサウンドフィールドに切り換えるには、もう一度THEATERボタンを押します。

自動で映画に適した音場効果に切り換える
（24pオートセレクター）

ブルーレイディスクレコーダーなどの再生機器から24p信号が入力されると、サウンドフィールドを自動的にHD-D.C.S.に切り換える機能です。

1 **AMP を押す。**
本機の操作ができるようになります。

2 **MENU を押す。**
テレビ画面にメニューが表示されます。

3 **↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。**
Settingsメニューが表示されます。

4 **↑/↓ をくり返し押して「HDMI」を選び、⊕または → を押す。**

5 **↑/↓ をくり返し押して「24p Auto Sound Sync」を選び、⊕または → を押す。**

6 **↑/↓ をくり返し押して「ON」を選び、⊕または → を押す。**

7 **再生機器で 24p 信号を含むコンテンツを再生する。**
サウンドフィールドが自動的にHD-D.C.S.に切り換わります。

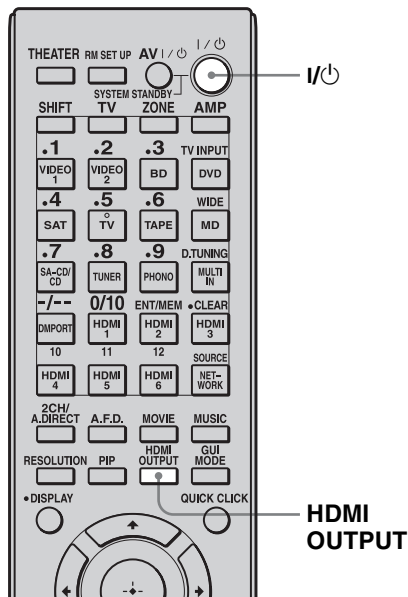
ご注意

- 電源オフ連動機能を使うには、テレビの電源連動機能の設定を有効にしてください。詳しくはテレビの取扱説明書を参照してください。
- 状態によっては、接続機器の電源が切れない場合があります。詳しくは、各機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- テレビによってはサウンドフィールドが切り換わらないことがあります。
- 再生機器が 24p オートセレクター機能に対応していない場合、24p オートセレクター機能は働きません。
- 「Control for HDMI」が「ON」のとき、再生機器によってはサウンドフィールドが HD-D.C.S. に切り換わらない場合があります。
「Control for HDMI」が「ON」のとき、本機は“ブラビアリンク”機能を介して 24p 信号検知します。そのため、“ブラビアリンク”機能に対応していない再生機器が 24p 信号を送信した場合は、本機はサウンドフィールドを HD-D.C.S. に切り換えません。このような場合には、「Control for HDMI」を「OFF」にしてください。「Control for HDMI」が「OFF」のときは、本機自体が 24p 信号を検知します。

ちょっと一言

テレビの入力を切り換えたとき、もとのサウンドフィールドに切り換わることがあります。

HDMI 信号を出力するモニターを切り換える

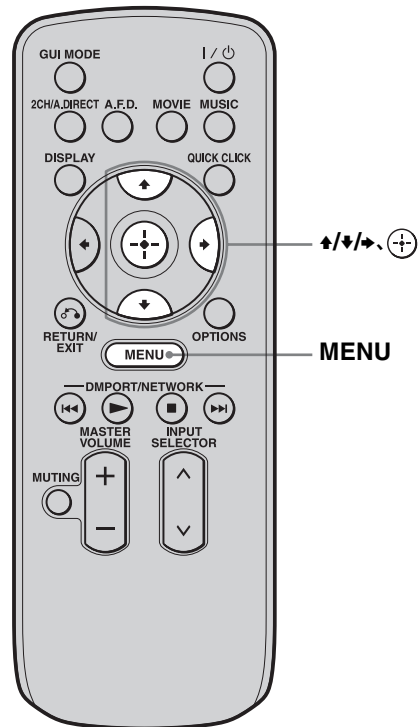
HDMI OUT A端子とHDMI OUT B端子のそれぞれにモニターをつないでいる場合、多機能リモコンのHDMI OUTPUTボタンで出力するモニターを切り換えることができます。

1 本機と 2 つのモニターの電源を入れる。

2 HDMI OUTPUT を押す。

HDMI OUTPUTを押すたびに、出力が以下のように切り換わります。
HDMI A → HDMI B → HDMI A+B → OFF → HDMI A…
本体のHDMI OUTボタンでも切り換えることができます。

本機がスタンバイ中でも再生機器を楽しむ

(パススルー)

本機がスタンバイ状態であっても、HDMI IN端子から入力された映像および音声信号をHDMI OUT端子につないだテレビに出力することができます。
この機能を有効にするときは、以下の手順で「Pass Through」の設定を行ってください。

1 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「HDMI」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「Pass Through」を選び、⊕または → を押す。

ご注意

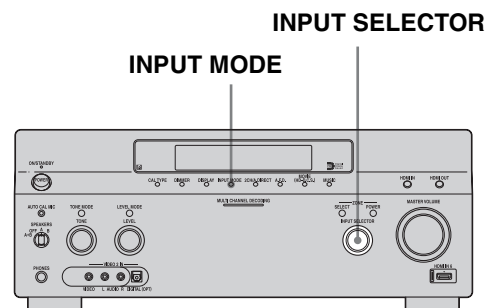
- HDMI OUT A 端子と B 端子につないでいるモニター間で対応している映像フォーマットが異なる場合、「HDMI A + B」が働かないことがあります。
- つないでいる再生機器によっては、「HDMI A + B」が働かないことがあります。

5 ↑/↓ をくり返し押してお好みのパラメーターを選び、⊕または → を押す。

パラメーター	内容
AUTO	本機のスタンバイ状態時に、テレビの電源を入れると本機のHDMI OUT A端子から信号を出力します。“ブラビアリンク”対応のテレビをお使いの場合、この設定をおすすめします。「ON」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を削減できます。
ON	本機のスタンバイ状態時に、HDMI OUT A端子から常に信号を出力します。
OFF	本機のスタンバイ状態時に、HDMI出力端子から信号を出力しません。つないだ機器をテレビで楽しむ場合には、本機の電源を入れてください。「ON」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を削減できます。

デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える

機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、どちらかに固定したり、視聴するソフトの種類によって切り換えることができます。

INPUT SELECTOR

INPUT MODE

1 本体のINPUT SELECTORで入力を選ぶ。

2 本体の INPUT MODE を押す。

テレビ画面に選んだ音声入力モードが表示されます。

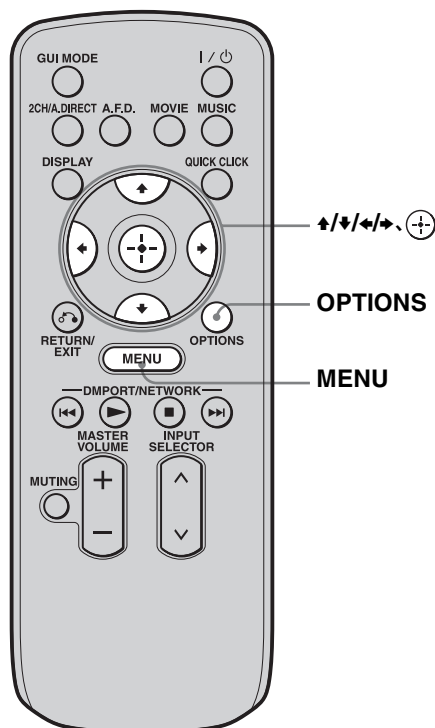
- Auto
  機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、デジタル音声入力が優先されます。
  デジタル音声入力がない場合は、アナログ音声入力が選ばれます。
- Analog
  AUDIO IN L/R端子へのアナログ音声入力が常に選ばれます。

ご注意

- 「Control for HDMI」が「OFF」のとき、パススルー機能は働きません。
- パススルー機能は、HDMI OUT ボタンで「HDMI A」または「HDMI A + B」を選んでいるときのみ働きます。「HDMI B」または「OFF」を選んでいるとき、パススルー機能は働きません。
- 「AUTO」設定時は、「ON」に設定した場合よりも映像と音声が出るまでに時間がかかることがあります。
- 入力によっては、設定できない音声入力モードがあります。
- HDMI 入力、デジタルメディアポート、サーバー、SHOUTcast を選んでいるときは、「------」と表示され、他の項目は選べません。HDMI 入力、デジタルメディアポート、サーバー、SHOUTcast 以外の入力を選んでください。
- アナログダイレクト機能を使っているときやマルチチャンネル入力を選んでいるときは、音声入力モードは「Analog」に設定されます。他のモードは選べません。

他の入力からの音声／映像を楽しむ

（Input Assign）

映像や音声信号を他の入力に割り当てることができます。
例：DVDプレーヤーから光デジタル音声信号のみを入力したいときは、DVDプレーヤーのOPTICAL OUT端子を本機のOPTICAL VIDEO 1 IN端子につなぎます。
DVDプレーヤーから映像信号を入力したいときは、DVDプレーヤーのコンポーネント映像端子を本機のCOMPONENT VIDEO IN 1、COMPONENT VIDEO IN 2、またはCOMPONENT VIDEO IN 3端子につなぎます。
Inputメニューの「Input Assign」を使ってDVD入力端子の入力に映像と音声を割り当てます。

1 MENUを押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓をくり返し押して「Input」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を押して、入力を割り当てたい入力名を選ぶ。

4 OPTIONSを押す。
オプションメニューが表示されます。

5 ↑/↓を押して「Input Assign」を選び、⊕を押す。

6 手順3で選んだ入力に割り当てたい音声、映像信号を↑/↓/←/→を使って選び、⊕を押す。

入力名		VIDEO 1	VIDEO 2	BD	DVD	SAT	TAPE	MD	SA-CD/CD	Tuner	MULTI IN	HDMI1	HDMI2	HDMI3	HDMI4	HDMI5	HDMI6
割り当て可能な映像入力端子	Video1 Composite	○[a]	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	Video2 Composite	–	○[a]	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	BD Composite	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	DVD Composite	–	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	SAT Composite	–	–	–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	Component1	○	○	○[a]	○	○	○	○	○	○	○	○[b]	○[b]	○[b]	○[b]	○[b]	○[b]
	Component2	○	○	○	○[a]	○	○	○	○	○	○	○[b]	○[b]	○[b]	○[b]	○[b]	○[b]
	Component3	○	○	○	○	○[a]	○	○	○	○	○	○[b]	○[b]	○[b]	○[b]	○[b]	○[b]
	HDMI1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○[a]	–	–	–	–	–
	HDMI2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○[a]	–	–	–	–
	HDMI3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	○[a]	–	–	–
	HDMI4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	–	○[a]	–	–
	HDMI5	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	–	–	○[a]	–
	HDMI6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	–	–	–	○[a]
割り当て可能な音声入力端子	Video1 OPT	○[a]	–	○	○	–	–	–	○	○	–	–	–	–	–	–	–
	Video2 OPT	–	○[a]	○	○	–	–	–	○	○	–	–	–	–	–	–	–
	SAT OPT	–	–	○	○	○[a]	–	–	○	○	–	–	–	–	–	–	–
	Tape OPT	–	–	○	○	–	○[a]	–	○	○	–	–	–	–	–	–	–
	MD OPT	–	–	○	○	–	–	○[a]	○	○	–	–	–	–	–	–	–
	BD COAX	○	○	○[a]	–	○	○	○	–	○	–	–	–	–	–	–	–
	DVD COAX	○	○	–	○[a]	○	○	○	–	○	–	–	–	–	–	–	–
	SA-CD/CD COAX	○	○	–	–	○	○	○	○[a]	○	–	–	–	–	–	–	–

a) 初期設定です。
b) HDMI 入力にコンポーネント映像を割り当てても、入力されたコンポーネント映像信号は HDMI 映像信号に変換されず、HDMI OUT 端子から出力されません。
入力されたコンポーネント映像信号は、そのままの解像度で COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されます。また、GUI 出力の解像度は、コンポーネント映像、HDMI 映像ともに 525p（480p）になります。

ご注意

- 初期設定ですでに光デジタル端子（OPT）が割り当てられている入力には、他の光デジタル入力を割り当てることはできません。また、初期設定で同軸デジタル端子（COAX）が割り当てられている入力には、他の同軸デジタル入力を割り当てることはできません。
- デジタル音声入力を割り当てると、INPUT MODE の設定が変わることがあります。
- 同じ入力に複数の HDMI 入力を同時に割り当てることはできません。
- 同じ入力に複数のデジタル音声入力を同時に割り当てることはできません。
- 同じ入力に複数のコンポーネント映像入力を同時に割り当てることはできません。
- HDMI 入力にコンポーネント映像を割り当てる場合は、「Control for HDMI」の設定を「OFF」にしてください。

スリープタイマーを使う

設定した時間がたつと、本機の電源を自動的に切ることができます。
この操作には多機能リモコンをお使いください。簡単リモコンでは操作できません。

1 AMP を押す。

本機の操作ができるようになります。

2 SLEEP をくり返し押す。

SLEEPを押すたびに時間表示が次のように切り換わります。

→0:30:00→1:00:00→1:30:00→2:00:00→OFF

スリープタイマーが働いているあいだは表示窓の「SLEEP」が点灯します。

ちょっと一言

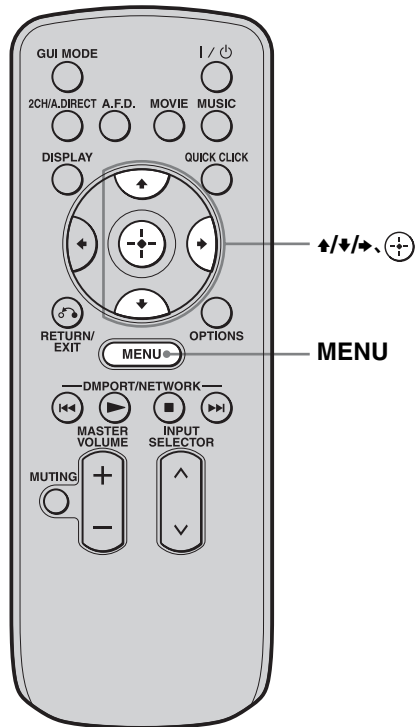
スリープタイマーが働くまでの残り時間を確認するには、SLEEP を押します。表示窓に残り時間が表示されます。
もう一度 SLEEP を押すと、スリープタイマーの設定が変わります。

小音量でサラウンド効果を楽しむ

音量が小さい状態でも、劇場のようなサラウンド効果を楽しめる機能です。サウンドフィールドと同時に働かせることができます。
例えば深夜に映画を見るとき、小音量でもセリフをはっきりと聞き取ることができます。

1 MENU を押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。

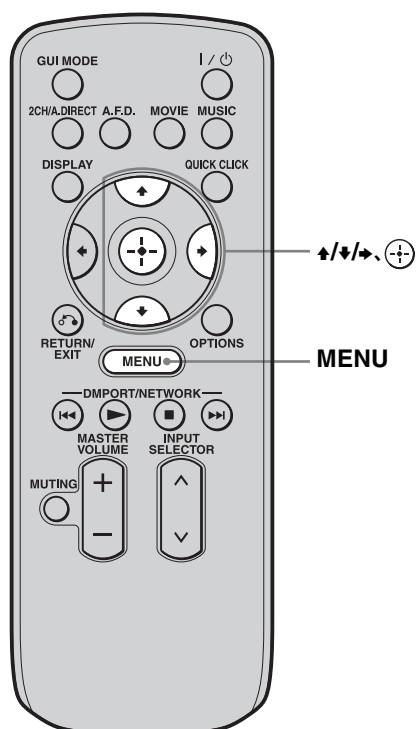
3 ↑/↓ をくり返し押して「Audio」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「Night Mode」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押して「ON」を選び、⊕を押す。

ご注意
- Night Mode 機能は、以下の場合は機能しません。
  – マルチチャンネル入力を選んでいる。
  – アナログダイレクト機能を使用している。
  – サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の Dolby TrueHD 信号を受信している。
- サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の信号を受信中に Night Mode 機能が働いていると、もとの周波数にかかわらず 44.1 kHz または 48 kHz で再生されます。

ちょっと一言
Night Mode 機能が働いていると、Bass、Treble が上がり、「D.Range.Comp」が「MAX」になります。

他機を使って録音／録画する

本機を使ってオーディオ／映像機器から録音／録画ができます。お持ちの録音／録画機器の取扱説明書も参照してください。

ミニディスクやカセットテープに録音する

本機を使ってミニディスクまたはカセットテープに録音できます。お持ちのMDデッキまたはカセットデッキの取扱説明書も参照してください。

1 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Input」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ を押して再生機器を選び、⊕を押す。

4 再生機器を準備する。

例：CDプレーヤーにディスクを入れる。

5 録音機器を準備する。

ミニディスクまたはカセットテープを入れ、録音レベルを調節する。

6 録音機器側で録音を開始し、再生機器側で再生する。

デジタル音声を録音するには

再生機器をデジタル音声入力（OPTICAL IN）端子につなぎ、録音機器をOPTICAL MD OUT端子につないでください。

録画する

1 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Input」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ を押して再生機器を選び、⊕を押す。

4 再生機器の準備をする。

例：ビデオデッキにビデオテープを入れる。

5 録画機器の準備をする。

（VIDEO 1につないだ）録画機器に録画用のビデオテープなどを入れる。

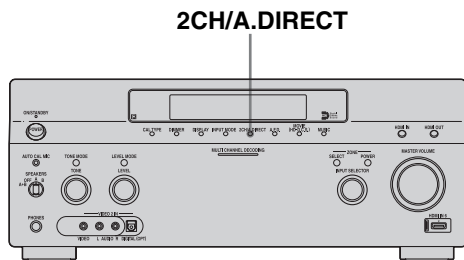
6 録画機器側で録画を開始し、再生機器側で再生する。

ご注意

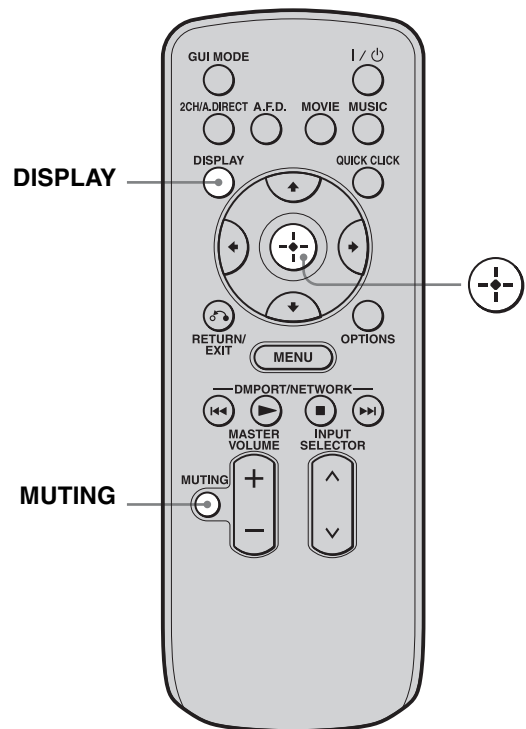
- MD OUT 端子から出力された信号には、音質の調整は働きません。
- 録画防止機能のあるソースは録画できません。
- MULTI CHANNEL INPUT 端子から入力された音声信号は出力されません。
- アナログ出力端子（録音用）からは、アナログ入力信号のみ出力されます。
- デジタル出力端子（録音用）からはデジタル入力信号のみ出力されます。
- HDMI 音声は録音できません。

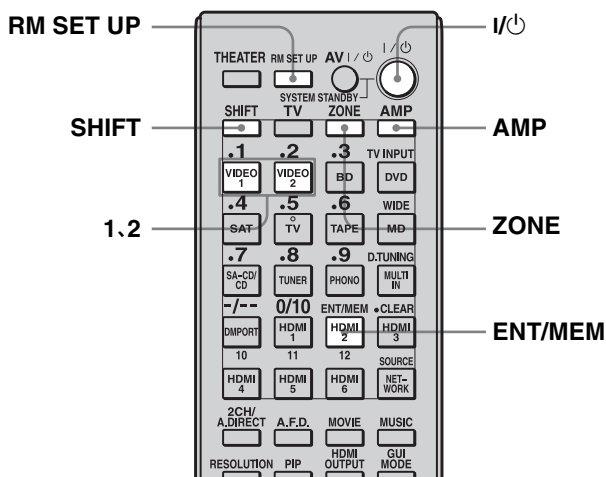
本体とリモコンのコマンドモードを切り換える

本機（アンプ）と付属のリモコンのコマンドモード（COMMAND MODE AV1またはCOMMAND MODE AV2）を切り換えることができます。付属のリモコン操作で他にお使いのソニー製機器が誤動作する場合は、コマンドモードを初期設定から適切な設定に切り換えてください。
本機と付属のリモコンともに、初期設定のコマンドモードはCOMMAND MODE AV2です。
本機と付属のリモコンはどちらも同じコマンドモードに設定する必要があります。コマンドモードが一致していない場合は、付属のリモコンで本機の操作ができません。

本体のコマンドモードを切り換える

2CH/A.DIRECT を押しながら電源を入れる。

コマンドモードが「AV2」に設定されると、表示窓に「COMMAND MODE [AV2]」と表示されます。
コマンドモードが「AV1」に設定されると、表示窓に「COMMAND MODE [AV1]」と表示されます。

簡単リモコンのコマンドモードを切り換える

DISPLAY を押しながら MUTING を押し、そのまま⊕を押す。

多機能リモコンのコマンドモードを切り換える

1 RM SET UP を押しながら、I/⏻ を押す。

AMPとZONEが点滅します。

2 AMP を押す。

ZONEが消灯し、AMPは点滅したまま、SHIFTが点灯します。

3 AMPが点滅している間に1または2を押す。

1を押すと、コマンドモードは「AV SYSTEM1」に設定され、2を押すと「AV SYSTEM2」に設定されます。
AMPが点灯します。

4 ENT/MEM を押す。

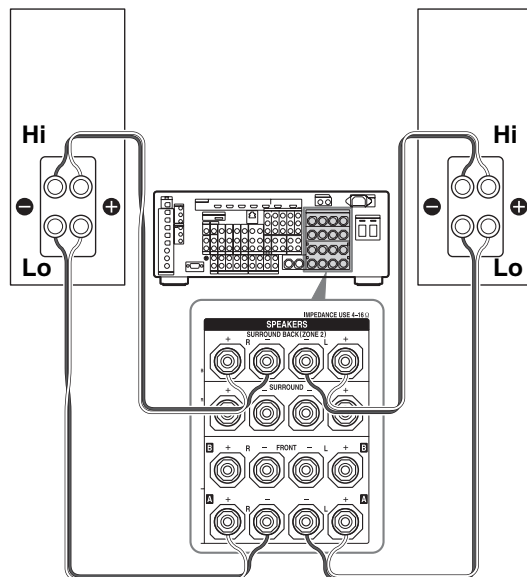
AMPが2回点滅し、設定が完了します。

バイアンプ接続する

サラウンドバックスピーカーを使用しない場合、SURROUND BACK SPEAKERS端子をフロントスピーカーのバイアンプ接続用に使用することができます。

接続する

フロントスピーカー（R）　フロントスピーカー（L）

Hi　Hi
⊖ ⊕　⊖ ⊕
Lo　Lo

フロントスピーカーのLo（またはHi）側を本機のFRONT SPEAKERS A端子に、フロントスピーカーのHi（またはLo）側を本機のSURROUND BACK SPEAKERS端子につなぎます。
このとき、スピーカーに付属されているHi/Loのショート金具は必ず外してください。本機の故障の原因となります。

設定する

1 MENU を押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓をくり返し押して「Speaker」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓をくり返し押して「Speaker Pattern」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓を押して、サラウンドバックスピーカーなしのスピーカーパターンを選ぶ。

6 RETURN/EXITを押す。

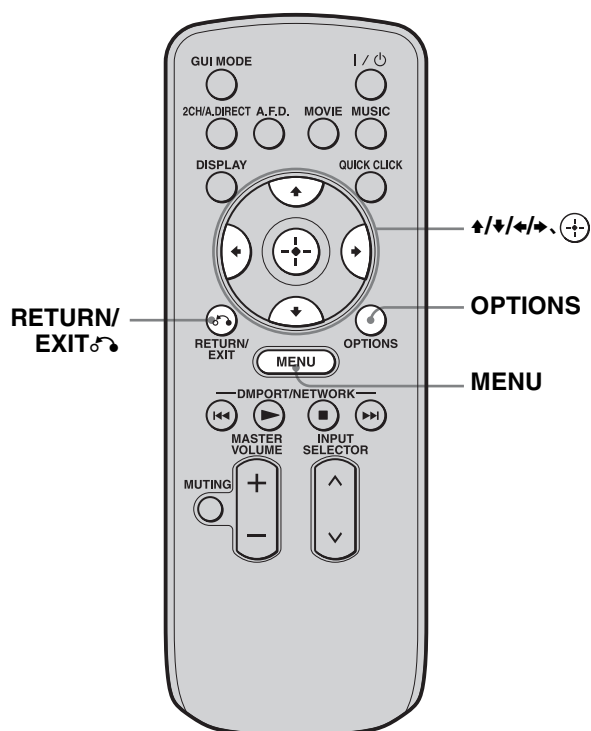
7 ↑/↓を押して「Sur Back Assign」を選び、⊕を押す。

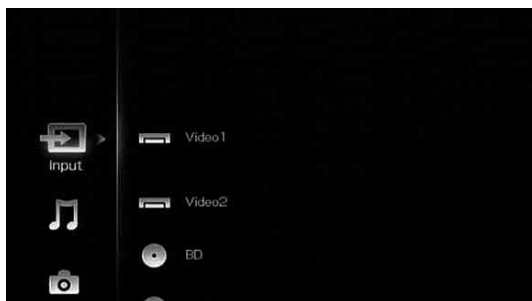
8 ↑/↓を押して「BI-AMP」を選び、⊕を押す。
SURROUND BACK SPEAKERS端子から FRONT SPEAKERS A端子と同じ信号が出力されます。

ご注意

- FRONT SPEAKERS B 端子を使ってバイアンプ接続することはできません。
- 自動音場補正機能を使う場合は、その前にバイアンプの設定をしてください。
- バイアンプの設定後は、サラウンドバックスピーカーのレベル、バランス、イコライザーなどの設定は無効となり、フロントスピーカーの設定が反映されます。
- PRE OUT 端子から出力される信号は SPEAKERS 端子と同じ設定になります。
- 「Speaker Pattern」でサラウンドバックスピーカーありの設定にした場合、「Sur Back Assign」を「BI-AMP」に設定できません。

Settings メニューの使いかた

Settingsメニューを使って、スピーカーやサラウンド効果などさまざまな設定ができます。
Settingsメニューをテレビ画面に表示するには、「「GUI MODE」のオン／オフを切り換えるには」(48ページ) の手順にしたがって、本機が「GUI MODE」になっていることを確認してください。

1 MENU を押します。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押してメニューモードに入る。

Settingsメニューが表示されます。

3 ↑/↓ をくり返し押してお好みのメニュー項目を選び、⊕または → を押す。

例：**Auto Calibrationの場合**

4 ↑/↓ をくり返し押して設定を選び、⊕を押して確定する。

前の表示画面に戻るには

RETURN/EXIT を押します。

メニューを消すには

MENUを押します。

Settingsメニュー一覧

メニューアイコン	内容
Auto Calibration	スピーカーレベルや距離などを自動で設定します。
Speaker	スピーカーの位置やインピーダンスを手動で設定します。（91ページ）。
Surround	お好みに合わせてサウンドフィールド（サラウンド効果）を選びます（94ページ）。
EQ	イコライザー（低域／高域のレベル）を調整します（96ページ）。
Multi Zone	マルチゾーンの設定をします（96ページ）。
Audio	音声の設定をします（98ページ）。
Video	アナログ映像信号の解像度を調節します（99ページ）。
HDMI	HDMI端子につないでいる機器の設定をします（101ページ）。
Network	ネットワークの設定をします（102ページ）。
Quick Click	本機につないだ機器を画面リモコン（クイッククリック）で操作するための設定をします（103ページ）。
System	本体の設定をします（104ページ）。

自動音場補正機能設定

（Auto Calibration）

Quick Setup

自動音場補正機能を実行します。詳しくは「準備7：自動でスピーカーを設定する （自動音場補正機能）」（39ページ）をご覧ください。

Enhanced Setup

測定位置や視聴環境、測定条件ごとにリスニングポジションとして3つのパターンを登録できます。
また、それぞれのスピーカーの補正タイプも選べます。

複数のリスニングポジションを登録するには

お好みのリスニングポジションを選び、測定結果を登録できます。

1 Enhanced Setup画面で↑/↓をくり返し押して、測定結果を登録する「Seating Position」を選ぶ。
- Pos.（Position）1
- Pos.（Position）2
- Pos.（Position）3

2 →を押して、測定を実行する。

スピーカーの補正タイプを設定するには

リスニングポジションごとにスピーカーの補正タイプを選べます。

1 ↑/↓をくり返し押してスピーカーの補正タイプを設定する「Seating Position」を選び、⊕を押す。

2 ↑/↓をくり返し押して「Calibration Type」を選び、⊕を押す。
- Full Flat
  各スピーカーの周波数特性を平らにします。
- Engineer
  ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。
- Front Reference
  すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
- OFF
  自動音場補正のイコライザーをオフにします。

ご注意
- 「Quick Setup」を実行すると、測定結果が上書きされ、Enhanced Setup メニューのポジション 1 に記録されます。
- 測定結果が登録されていない「Seating Position」に「Calibration Type」は設定できません。

つづく

リスニングポジションのイコライザー設定を確認するには

1 ↑/↓ をくり返し押して、イコライザー設定を確認する「Seating Position」を選ぶ。

2 OPTIONSを押す。
オプションメニューが表示されます。

3 ↑/↓をくり返し押して「EQ Curve」を選び、⊕を押す。

4 ←/→をくり返し押して、イコライザー設定を確認するスピーカーを選ぶ。
- FRONT
- CENTER
- SURROUND
- SURROUND BACK

リスニングポジションに名前を付けるには

1 ↑/↓ をくり返し押して、名前を付ける「Seating Position」を選ぶ。

2 OPTIONSを押す。
オプションメニューが表示されます。

3 ↑/↓をくり返し押して「Name Input」を選び、⊕を押す。
ソフトキーボードが表示されます。

4 ↑/↓/←/→を押して文字を1つずつ選び、⊕を押す。

5 ↑/↓/←/→を押して「Finish」を選び、⊕を押す。

Front Ref Type

自動音場補正の補正タイプで「Front Reference」を選んだ場合、リファレンス値を選べます。

■R

Rchのデータをリファレンス値とします。

■L/R

RchとLchをリファレンス値とします。

■L

Lchのデータをリファレンス値とします。

SP Pair Match

自動音場補正のイコライザーパターンのペアマッチ方法を選びます。

■OFF

各chで独立した補正を行います。

■ALL

フロント／サラウンド／サラウンドバックスピーカーをそれぞれLch/Rchのペアマッチ処理で補正を行います。

■SUR

サラウンド／サラウンドバックスピーカーをそれぞれLch/Rchのペアマッチ処理で補正を行います。

ご注意
- 「Front Ref Type」は自動音場補正の補正タイプで「Front Reference」を選んだときのみ機能します。
- 「Front Ref Type」を設定してから、測定を行ってください。
- 「SP Pair Match」は、自動音場補正を行っていないときは機能しません。
- 「SP Pair Match」の「ALL」は、自動音場補正の補正タイプで「Front Reference」を選んだときは設定できません。

スピーカー設定

（Speaker）

それぞれのスピーカーを手動で設定できます。自動音場補正完了後にもスピーカーレベルを調節できます。

Impedance

スピーカーインピーダンスを設定できます。詳しくは「準備6：スピーカーを設定する」（37ページ）をご覧ください。

■4 Ω

■8 Ω

Speaker Pattern

お使いのシステムによって「Speaker Pattern」を選びます。自動音場補正後はスピーカーパターンを選ぶ必要はありません。

スピーカーパターンを選ぶには

1 ↑/↓ をくり返し押して「Speaker Pattern」を選び、⊕を押す。
スピーカーパターン画面が表示されます。

2 ↑/↓をくり返し押してお好みのスピーカーパターンを選び、⊕を押す。

3 RETURN/EXIT↩を押す。

Center Mix

アナログダウンミックス機能をオン／オフに設定します。

■OFF

センタースピーカーをつないでいるときは、自動的に「OFF」に設定されます。

■ON

センタースピーカーがないときに、デジタル音声を高音質で聞きたいときは、「ON」をおすすめします。「ON」に設定されると、アナログダウンミックス機能が働きます。この設定はMULTI CHANNEL INPUT端子からの入力信号にも働きます。

Sur Back Assign

サラウンドバックスピーカーについての設定をします。

■OFF

サラウンドバックスピーカーをアサインしない場合に選びます。

■BI-AMP

フロントスピーカーのバイアンプ接続をするときに選びます。

■ZONE2

サラウンドバックスピーカーを2ndゾーンで使う場合は、「ZONE2」を選びます。「ZONE2」を選ぶと、MULTI CHANNEL INPUTのSUR BACK端子への入力は無効になります（70ページ）。

ご注意

- スピーカー設定は選択中の「Seating Position」にのみ有効です。
- バイアンプ接続または 2nd ゾーン接続からサラウンドバックスピーカー接続に切り換えたいときは、「Sur Back Assign」を「OFF」に設定してからサラウンドバックスピーカーをつないでください。サラウンドバックスピーカーをつないでから、スピーカーの設定をやりなおします。「自動音場補正機能」（39 ページ）または「Manual Setup」（92 ページ）をご覧ください。

つづく

Manual Setup

Manual Setup画面で各スピーカーを手動で設定できます。自動音場補正完了後もスピーカーレベルを調節できます。

スピーカーのレベルを調節するには

各スピーカー（センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、アクティブサブウーファー）のレベルを調節できます。

1 ↑/↓/←/→ をくり返し押してレベルを調節するスピーカーを選び、⊕を押す。

2 ←/→をくり返し押して「Level:」を選び、⊕を押す。

3 ↑/↓で選んだスピーカーのレベルを設定して、⊕を押す。
−20 dBから＋10 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。
フロント右／左スピーカーの場合、左右のバランスを調節できます。フロント左のレベルをFL−10 dBからFL＋10 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。フロント右のレベルをFR−10 dBからFR＋10 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。

リスニングポジションからスピーカーまでの距離を調節するには

リスニングポジションから各スピーカー（フロント右／左、センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、アクティブサブウーファー）までの距離を調節できます。

1 ↑/↓/←/→ をくり返し押してリスニングポジションからの距離を調節するスピーカーを選び、⊕を押す。

2 ←/→をくり返し押して「Distance:」を選び、⊕を押す。

3 ↑/↓で選んだスピーカーの距離を設定して、⊕を押す。
1.0～10.0 mの範囲で、1 cm単位で設定できます。

スピーカーのサイズを調節するには

各スピーカー（フロント右／左、センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、アクティブサブウーファー）のサイズを調節できます。

1 ↑/↓/←/→ をくり返し押してサイズを調節するスピーカーを選び、⊕を押す。

2 ←/→をくり返し押して「Size:」を選び、⊕を押す。

3 ↑/↓で選んだスピーカーのサイズを設定して、⊕を押す。
- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだときに選びます。通常は「LARGE」を選びます。
- SMALL
  マルチチャンネルサラウンドの音声が歪んだり、サラウンド効果が不充分なときに選びます。サラウンドスピーカーの低域部分は、アクティブサブウーファーまたは「LARGE」に設定した他のスピーカーから再生されます。

ご注意

音楽用サウンドフィールドのいずれかを選んでいるときは、Speaker メニューですべてのスピーカーが「LARGE」に設定されていても、アクティブサブウーファーからは音が出ません。ただし、入力されたデジタル信号に L.F.E. 信号が含まれているときや、フロントとサラウンドのいずれかが「SMALL」に設定されているとき、映画用サウンドフィールドを選んでいるとき、「Portable Audio」を選んでいるときは、アクティブサブウーファーから音が出ます。

ちょっと一言

- 各スピーカーの「LARGE」、「SMALL」の違いは、「そのスピーカーの低音をカットするかしないか」です。「SMALL」でカットされた低音は、「LARGE」に設定した他のスピーカーまたはアクティブサブウーファーの低域に回されます。
  しかし、低域は一定の指向性を持っているため、できればカットしたくないものです。したがって、どんなに小型のスピーカーでも、低音を再生させたい場合は「LARGE」に設定します。逆に大型のスピーカーでも、低音を再生させたくない場合は「SMALL」に設定します。
  全体の音量が小さい場合はすべてのスピーカーを「LARGE」に設定し、低音感が足りない場合は、イコライザーで低域を上げることをおすすめします。
- サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。
- フロントスピーカーの設定を「SMALL」にすると、センター、サラウンド、サラウンドバックスピーカーも自動的に「SMALL」に設定されます。
- アクティブサブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に「LARGE」に設定されます。

Crossover Freq

Speakerメニューで「SMALL」に設定されているスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。自動音場測定後は、測定されたスピーカーのクロスオーバー周波数が各スピーカーに設定されます。

1 ←/→ を押して設定するスピーカーを選ぶ。

2 ↑/↓ を押して設定値を選び、→ または RETURN/EXIT を押す。

Test Tone

Test Tone画面でテストトーンの種類を選べます。

各スピーカーからテストトーンを出力するには

各スピーカーから順番に、テストトーンを出力します。

1 ←/→ を押して「Test Tone」を選び、⊕を押す。
Test Tone画面が表示されます。

2 ↑/↓を押して設定を選び、⊕を押す。
- OFF
- AUTO
テストトーンが出るスピーカーが自動的に切り換わります。
- L、C、R、SR、SBR、SBL、SL、SW
テストトーンを出力するスピーカーを選ぶことができます。

3 ↑/↓を押して「Level:」を選び、⊕を押す。

隣り合うスピーカーからテストトーンを出力するには

隣り合うスピーカーからテストトーンを出力することで、スピーカー間のバランスを調節できます。

1 ←/→ を押して「Phase Noise」を選び、⊕を押す。
Phase Noise画面が表示されます。

2 ↑/↓を押して設定を選び、⊕を押す。
- OFF
- L/R、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SBR/SBL、SR/SB、SBL/SL、SB/SL、SL/L、L/SR
隣り合う2つのスピーカーから順番に、テストトーンを出力します。
スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

3 ↑/↓を押して「Level:」を選び、⊕を押す。

隣り合うスピーカーから音源を出力するには

隣り合うスピーカーから音源を出力して、スピーカー間のバランスを調節できます。

1 ←/→ を押して「Phase Audio」を選び、⊕を押す。
Phase Audio画面が表示されます。

2 ↑/↓を押して設定を選び、⊕を押す。
- OFF
- L/R、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SBR/SBL、SR/SB、SBL/SL、SB/SL、SL/L、L/SR
隣り合う2つのスピーカーから順番に、テストトーンではなくフロント2チャンネルの音源を出力します。
スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

3 ↑/↓を押して「Level:」を選び、⊕を押す。

テストトーンが何も聞こえないときは

- スピーカーコードが確実につながれていない場合があります。コードを軽く引っ張ってみて、抜けたりしないように確実につないでください。
- スピーカーコードがショートしている恐れがあります。

画面に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが出力されるときは

つないだスピーカーと設定したスピーカーパターンが間違っています。スピーカーの接続とスピーカーパターンをもう一度確認してください。

ちょっと一言
- すべてのスピーカーの音量を一度に調節したいときは、MASTER VOLUME ＋ / －で調節します。
- 「Test Tone」の設定値は調節している間、表示窓に表示されます。

つづく

D.Range Comp

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

■OFF

ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

■AUTO

ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。

■STD

レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。

■MAX

ダイナミックレンジを極端に狭くします。

Distance Unit

スピーカーまでの距離を表示する単位を切り換えます。

■meter

メートル表示に切り換えます。

■feet

フィート表示に切り換えます。

サラウンド設定

(Surround)

Sound Field Setup画面でサラウンド効果を設定できます。

Sound Field Setup

Sound Field Setup画面でサウンドフィールド（サラウンド効果）を選び、エフェクトレベルを調節できます。
詳しくは「サラウンド効果を楽しむ」（53ページ）をご覧ください。

サウンドフィールドを選ぶには

1 ↑/↓ をくり返し押して「Sound Field Setup」を選び、⊕を押す。

2 ↑/↓をくり返し押してお好みのサウンドフィールドを選ぶ。

3 RETURN/EXIT ↶を押す。

HD-D.C.S.のエフェクトタイプを選ぶには

1 ↑/↓ をくり返し押して「Sound Field Setup」を選び、⊕を押す。

2 ↑/↓をくり返し押して「HD-D.C.S.」を選び、→を押す。

3 ↑/↓を押してお好みのEffect Typeを選び、←を押す。
HD-D.C.S.には異なる3種類のタイプ（「Theater」、「Dynamic」、「Studio」）があります。各タイプは反響音と残響音の異なるミックスレベルが設定されており、鑑賞者の部屋の特性や好み、雰囲気に合わせて最適な調節をすることができます。

ちょっと一言

- 「D.Range Comp」では、ダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。
- 「D.Range Comp」では「STD」が本来の圧縮値ですが、控えめに感じるときは、「MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜のビデオ鑑賞などに便利です。アナログのリミッターと異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

- Theater
  お買い上げ時の設定です。反射音と残響音をミックスし、マスタリングスタジオの特性を再現します。さらに、多くのプロのスタジオや映画館が持つ周波数特性をミックスします。残響の少ないリスニングルームでの映画鑑賞に最適なタイプです。
- Dynamic
  反射音を強調するタイプで、映画館で耳にするような効果音を存分に楽しめます。多くの部屋では音は鳴り響きがちであっても、広々とした音場感は乏しくなります。そのような部屋の特性を音響的に拡張し、マスタリングスタジオと同等の広大でダイナミックな音場感をもたらします。
- Studio
  劇場の素晴らしい音響体験はそのままに、効果を最小限のレベルで維持します。

4 RETURN/EXIT ↩を押す。

Enhanced Sur Mode

サウンドフィールドのデコーディングモードを選べます。
設定可能なデコーディングモードについては、「好みのマルチチャンネルサラウンド効果を設定する」（55ページ）をご覧ください。

■Pro Logic II

ドルビープロロジックIIのデコード処理を行います。ステレオ2チャンネルの音源を5.1チャンネルにデコードします。

■Pro Logic IIx

ドルビープロロジックIIxのデコード処理を行います。ステレオ2チャンネルまたは5.1チャンネルの音源を7.1チャンネルにデコードします。

■Neo:6 Cinema

DTS Neo:6のシネマモードのデコード処理を行います。2チャンネルの音源を7チャンネルにデコードします。

■Neo:6 Music

DTS Neo:6のミュージックモードのデコード処理を行います。2チャンネルの音源を7チャンネルにデコードします。CDなど通常のステレオ録音の再生に適しています。

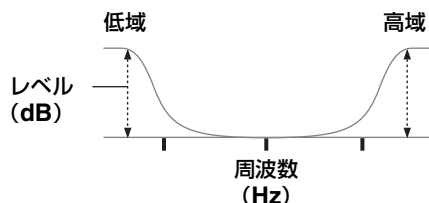
■Neural-THX

次世代のNeural-THX®サラウンドです。ステレオ処理や純粋な5.1チャンネル処理に加え、Neural-THX®サラウンド処理された映画や音楽の360度、7.1チャンネルのサラウンド再生が可能です。

ご注意
- サウンドフィールドによって、メニューごとに設定できる項目が異なります。
- 「Speaker Pattern」でサラウンドバックスピーカーがない設定を選んでいるときは「Pro Logic II」、サラウンドバックスピーカーがある設定を選んでいるときは「Pro Logic IIx」が選ばれ、同時に両方を設定することはできません。

イコライザー設定

（EQ）

下記のパラメーターを使って、すべてのスピーカーの音質（低域／高域のレベル）を調節できます。

EQ画面でイコライザーを調節するには

1 ←/→ を押して調節したいスピーカーを選び、⊕を押す。

2 ←/→を押して「Bass」または「Treble」を選ぶ。

3 ↑/↓を押してパラメーターを調節し、⊕を押す。

マルチゾーン設定

（Multi Zone）

メインゾーン、2ndゾーン、3rdゾーンの設定ができます。

Multi Zone Setup

2ndゾーン／3rdゾーンのオン／オフを切り換えるには

2ndゾーンまたは3rdゾーンの操作のオン／オフを切り換えることができます。「Main」（本機）は常に選ばれています。オフに切り換えることはできません。

1 ↑/↓ を押してオン／オフを切り換えたいゾーンを選び、⊕を押す。

2 ↑/↓を押して「ON」または「OFF」を選び、⊕を押す。
- ON
- OFF

各ゾーンのソースを選ぶには

ゾーンに出力するソースを選ぶことができます。
2ndゾーンには映像信号と音声信号が出力されます。
3rdゾーンには音声信号のみ出力されます。

1 ↑/↓ を押して映像／音声信号を出力したいゾーンを選び、⊕を押す。

2 ←/→を押して「Input」を選び、⊕を押す。

3 ↑/↓を押して入力を選び、⊕を押す。

2ndゾーンの音量を調節するには

メインゾーンで音量を調節することができます。スピーカー設定の「Sur Back Assign」を「ZONE2」に設定している場合は、2ndゾーンの音量も調節することができます。

1 ↑/↓ を押して音量を調節したいゾーンを選び、⊕を押す。

2 ←/→を押して「Volume」を選び、⊕を押す。

ご注意
- イコライザー機能は以下の場合、機能しません。
  – マルチチャンネル入力が選ばれている。
  – アナログダイレクト機能を使用している。
  – サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の Dolby TrueHD 信号を受信している。
- サンプリング周波数が 176.4 kHz 以上の信号を受信中にイコライザーを調節すると、もとの周波数にかかわらず 44.1 kHz または 48 kHz で再生されます。

3 ↑/↓を押して音量を調節し、⊕を押す。

各ゾーンの制御信号の出力方法を設定するには

他のゾーンから本機の電源を入／切したり、12Vトリガ機能を使うためのさまざまなオプションを選んだりすることができます。

1 ↑/↓ を押してお好みのゾーンを選び、⊕を押す。

2 ←/→を押して「12V Trigger」を選ぶ。

3 ↑/↓を押してパラメーターを選び、⊕を押す。

- OFF
  本機の電源が入っていても、12Vトリガの出力を常にオフにします。
- CTRL
  外部制御機器のCISコマンドを使って、12Vトリガの出力のオン／オフを手動で切り換えます。
- ZONE
  選んだゾーンのオン／オフに連動して、12Vトリガの出力のオン／オフを切り換えます。
- INPUT（「Main」のみ）
  あらかじめ設定した入力が選ばれたとき、12Vトリガの出力をオンに切り換えます。
  「INPUT」を選ぶと、各入力トリガのオン／オフを設定する設定画面が表示されます。↑/↓を押して入力を選び、⊕を押してボックスをチェックします。
- HDMI A（「Main」のみ）
  HDMI OUT A端子の出力設定に連動して、12Vトリガの出力のオン／オフを切り換えます。
- HDMI B（「Main」のみ）
  HDMI OUT B端子の出力設定に連動して、12Vトリガの出力のオン／オフを切り換えます。
- MAIN（「Zone2」および「Zone3」のみ）
  2ndゾーンまたは3rdゾーンのトリガ操作を本機に連動させます。

Party Setup

PARTYボタンを押してパーティー機能を起動したとき、メインゾーンと同じ曲を再生させるゾーンを選びます。

■**ZONE2+ZONE3**

■**ZONE2**

■**ZONE3**

ちょっと一言

- 本機がスタンバイ状態であっても（本機の電源を切るには、リモコンの I/⏻ を押します）、2nd ゾーンまたは 3rd ゾーンのアンプの電源は入ったままです。すべてのアンプの電源を切るには、多機能リモコンの I/⏻ と AV I/⏻ を同時に押します（SYSTEM STANDBY）。
- ZONE 2 OUT および ZONE 3 OUT 端子からは、本機のアナログ入力端子につないだ機器の信号のみ出力されます。本機のデジタル入力端子にのみつないだ機器の信号は出力されません。
- SOURCE を選んでいるときマルチチャンネル入力を選んでも、MULTI CHANNEL INPUT 端子に入力された信号は、ZONE 2 OUT および ZONE 3 OUT 端子からは出力されません。機能中のアナログ音声端子に入力されている信号が出力されます。

♪音声設定

（Audio）

お好みに合わせて、音声を設定できます。

Digital Legato Linear（D.L.L.）

「AUTO」に設定すると、非可逆圧縮で録音された音声を高音質で再生できます。リニアPCMで記録されているCDの音声なら、さらに音質が向上します。

■OFF

■AUTO

A/V Sync

入力された音声を遅らせて、映像と音声のずれを調節することができます。

■HDMI AUTO

HDMI接続のときはテレビ側の情報をもとに、映像と音声のずれを自動的に調節します。ただし、A/V Syncに対応したテレビのときしか機能しません。

■0 ms － 300 ms

0 ms～300 msの範囲で10 msごとに調節できます。

Dual Mono

MPEG-2 AACやドルビーデジタルなどの二重音声を聞くとき、再生モードを設定します。

■MAIN/SUB

フロント左スピーカーから主音声、フロント右スピーカーから副音声を同時に出力します。

■MAIN

主音声のみを出力します。

■SUB

副音声のみを出力します。

Decode Priority

HDMI端子またはDIGITAL IN端子に入力されるデジタル音声の入力モードを設定できます。

■PCM

DIGITAL IN端子からの信号を選んでいるときに、PCM信号を優先して処理します（頭切れを防ぎます）。なお、PCM以外の信号が入力された場合、信号フォーマットによっては音が出なくなることがあります。この場合は「AUTO」に設定してください。
HDMI IN端子からの信号を選んでいるときは、つないだ機器からはPCM信号のみ出力されるようになります。
その他のフォーマットを受信する場合は「AUTO」に設定してください。

■AUTO

ドルビーデジタル、DTS、DSD、MPEG-2 AAC、PCMの音声入力を自動的に切り換えます。

Night Mode

音量が小さい状態でも、劇場のようなサラウンド効果を楽しめる機能です。サウンドフィールドと同時に働かせることができます。例えば深夜に映画を見るとき、小音量でもセリフをはっきりと聞き取ることができます。詳しくは「小音量でサラウンド効果を楽しむ」（83ページ）をご覧ください。

■ON

■OFF

ご注意

- D.L.L. は、リニア PCM 44.1 kHz、Dolby Digital、DTS、MPEG-2 AAC、アナログ信号に対して有効です。
- A/V Sync 機能は、大きな液晶ディスプレイやプラズマモニター、プロジェクターなどを使用しているときに便利です。
- A/V Sync 機能は、以下の場合は機能しません。
  － マルチチャンネル入力を選んでいる。
  － アナログダイレクト機能を使用している。
- 「Decode Priority」を「PCM」に設定した場合でも、再生するディスクの信号によっては頭切れすることがあります。

映像設定

（Video）

映像を設定できます。

Resolution

アナログ映像入力の解像度を変換できます。
「Resolution」の設定による映像信号の入出力の関係について詳しくは、100ページの表をご覧ください。

■AUTO

■DIRECT

アナログの映像信号を変換しないで出力します。

■480i/576i

■480p/576p

■720p

■1080i

■1080p

つづく

「Resolution」の設定	出力信号 / 入力信号	HDMI OUT端子	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子	MONITOR VIDEO OUT端子
DIRECT	コンポーネント映像	－	○	－
	コンポジット映像	－	－	○
AUTO（初期設定）	コンポーネント映像	●[a]	●[b]	●[b]
	コンポジット映像	●[a]	●[b]	●[b]
480i/576i	コンポーネント映像	●[c]	●	●
	コンポジット映像	●[c]	●	●
480p/576p	コンポーネント映像	●	●	－
	コンポジット映像	●	●	○
720p、1080i	コンポーネント映像	●	●[d]	－
	コンポジット映像	●	●[d]	○
1080p	コンポーネント映像	●	○[e]	－
	コンポジット映像	●	－	○

●：映像は変換されて、ビデオコンバーターを通して出力されます。
○：映像は変換されず、入力と同じ種類の信号のみ出力されます。
－：映像を出力しません。

a) つないでいるモニターによって、解像度は自動的に設定されます。
b) HDMI OUT 端子にテレビがつながれていないときに「Resolution」が「AUTO」に設定されている場合、525i（480i）/625i（576i）の信号が出力されます。
c) 525i（480i）/625i（576i）に設定しても、525p（480p）/625p（576p）の信号が出力されます。
d) 著作権保護されていない映像は、メニューの設定のとおりに出力されます。著作権保護された映像は、525p（480p）/625p（576p）まで出力されます。
e) 「GUI MODE」がオンの状態で MENU を押すと、テレビ画面に何も表示されなくなります。
1080p に設定する場合は「GUI MODE」をオフにして、「DISPLAY MODE」で本機を操作してください（105 ページ）。

ご注意

- モニターなどを HDMI OUT 端子につないだときは、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子、MONITOR VIDEO OUT 端子から、映像信号は出力されません。
- つないだテレビが「Resolution」で選んだ解像度に対応していないときは、映像は正しく出力されません。
- 変換された HDMI 映像出力信号は「x.v.Color」には対応していません。
- 変換された HDMI 映像出力信号は Deep Color には対応していません。

HDMI 設定

（HDMI）

HDMI端子につないだ機器の設定ができます。

Control for HDMI

HDMI接続した機器のHDMI機器制御機能を有効にします。

■OFF

■ON

「Control for HDMI」を「ON」に設定すると、連動してH.A.T.S.（High quality digital Audio Transmission System）機能も有効になります。H.A.T.S.機能はデジタル音声信号の伝送時にジッター（信号読み込み時に生じる時間軸のずれ）を排除し、音質を向上させます。

H.A.T.S.機能が有効なストリーム

入力する音声信号	サンプリング周波数
2chリニアPCM	44.1 kHz、48 kHz、 88.2 kHz、96 kHz、 176.4 kHz、192 kHz
マルチチャンネルリニアPCM	44.1 kHz、48 kHz、 88.2 kHz、96 kHz、 176.4 kHz、192 kHz
DSD	2.8224 MHz

Pass Through

本機がスタンバイ状態でもHDMI信号をテレビに出力できるようにします。詳しくは、「本機がスタンバイ中でも再生機器を楽しむ （パススルー）」（78ページ）をご覧ください。

■OFF

■AUTO

■ON

Audio Out

本機とHDMI接続した再生機からの音声の出力先を設定します。

■TV+AMP

再生機の音声を本機につないだスピーカーと、本機にHDMI接続されたテレビのスピーカーの両方から再生します。

■AMP

再生機の音声を本機につないだスピーカーから出力します。マルチチャンネルの音声をそのまま再生可能です。

24p Auto Sound Sync

24pオートセレクター機能を有効にします。ブルーレイディスクレコーダーなどの再生機器から24p信号が入力されると、自動的に最適なサウンドフィールドであるHD-D.C.S.に切り換えることができます。

■ON

■OFF

ご注意

- 「Control for HDMI」が「ON」のとき、「Audio Out」は自動的に変わる場合があります。
- H.A.T.S. 機能が有効になっているとき、接続機器の再生や停止、一時停止ボタンなどを押して再生を始めても、システムの制限により音が出るまでに時間がかかります。このときのタイムラグは音源により異なります。H.A.T.S. 機能が有効でも、接続機器や音源によっては効果が少ない場合があります。
- 「Audio Out」が「TV+AMP」のときは、接続機器の種類や状態によって H.A.T.S. 機能が働かないことがあります。その場合は、「Audio Out」を「AMP」に設定してださい。
- H.A.T.S. 機能は本機とソニー製スーパーオーディオ CD プレーヤー SCD-XA5400ES をつないだ場合に働きます。
- 「Control for HDMI」が「OFF」のとき、「Pass Through」の設定はできません。
- 「Audio Out」が「TV+AMP」に設定されていると、再生機の音質はチャンネル数、サンプリング周波数など、テレビの性能に影響されます。テレビがステレオ（2ch）スピーカーの場合は、マルチチャンネルのソフトを再生しても、本機の音声出力はテレビと同じステレオ（2ch）になります。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出ない場合があります。この場合は、「Audio Out」を「AMP」に設定してください。
- Input メニューの「Input Assign」を使って HDMI 入力を割り当てた端子の場合は、テレビから音声は出ません。
- 「Audio Out」が「AMP」に設定されているときは、テレビのスピーカーから音は出ません。
- 「Control for HDMI」が「ON」のとき、再生機器によってはサウンドフィールドが HD-D.C.S. に切り換わらない場合があります。
「Control for HDMI」が「ON」のとき、本機は“ブラビアリンク”機能を介して 24p 信号検知します。そのため、“ブラビアリンク”機能に対応していない再生機器が 24p 信号を送信した場合は、本機はサウンドフィールドを HD-D.C.S. に切り換えません。このような場合には、「Control for HDMI」を「OFF」にしてください。「Control for HDMI」が「OFF」のときは、本機自体が 24p 信号を検知します。

つづく

Sound Field

デジタル放送の番組を視聴するときに、オートジャンルセレクター機能を使うかどうかを設定します。
詳しくは、「デジタル放送のジャンルに応じてサラウンド効果を切り換える （オートジャンルセレクター）」（76ページ）をご覧ください。

Subwoofer Level

HDMI接続を通してマルチチャンネルPCM信号が入力されているとき、アクティブサブウーファーのレベルを0 dB～+10 dBの範囲で調節できます。HDMI入力ごとにレベルの設定ができます。

■0 dB

■AUTO

入力ソースのサンプリング周波数によって自動的に+10 dBか0 dBに設定します。

■+10 dB

Subwoofer LPF

HDMI接続でPCM信号が入力されているときに、アクティブサブウーファー出力のローパスフィルターを設定します。お持ちのアクティブサブウーファーにクロスオーバー周波数調整などのローパスフィルターがない場合に設定してください。

■OFF

ローパスフィルターは機能しません。

■ON

常にカットオフ周波数120 Hzのローパスフィルターが働きます。

Video Direct

入力された映像信号をHDMI IN端子からHDMI OUT端子に直接出力します。

■OFF

HDMI IN端子からの入力信号がビデオプロセッサーを通して出力されます。

■ON

HDMI IN端子からの入力信号が直接出力されます。

ネットワーク設定

（Network）

ネットワークの設定をすることができます。

Network Setup

各種ネットワークの設定を行います。

ネットワーク設定を確認するには

1. 「Network Setup」を選び、⊕を押す。
2. ↑/↓をくり返し押して「Network Information」を選び、⊕を押す。
   本機のネットワーク設定情報が表示されます。

ネットワーク設定を自動で変更するには

1. 「Network Setup」を選び、⊕を押す。
2. ↑/↓をくり返し押して「Internet Setup」を選び、⊕を押す。
3. ↑/↓をくり返し押して「Connect Automatically (DHCP)」を選び、⊕を押す。
   「本機がネットワークに接続しました。」と表示されます。
4. 「Finish」を選び、⊕を押す。

IPアドレスを手動で設定するには

1. ↑/↓ をくり返し押して「Network Setup」を選び、⊕を押す。
2. 「Internet Setup」を選び、⊕を押す。
3. ↑/↓をくり返し押して「Manual Configuration」を選び、⊕を押す。
   IPアドレスの設定画面が表示されます。
4. IPアドレス·ボックスを選び、⊕を押す。
   ソフトキーボードが表示されます。
5. ↑/↓/←/→を押して数字を1 つずつ選び、⊕を押す。
6. ↑/↓/←/→を押して「Finish」選び、⊕を押す。
7. →を押して、次の画面を表示する。

8 手順4から7をくり返して、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバー(優先)、DNSサーバー(代替)を入力する。

9 ↑/↓を押して「Test Connection」を選び、⊕を押す。
「本機がネットワークに接続しました。」と表示されます。

10「Finish」を選び、⊕を押す。

Proxyサーバーを手動で設定するには

1 「Network Setup」を選び、⊕を押す。

2 ↑/↓をくり返し押して「Proxy Setup」を選び、⊕を押す。

3 ↑/↓をくり返し押して「Enable」を選び、⊕を押す。

4 プロキシアドレス・ボックスを選択し、⊕を押す。
ソフトキーボードが表示されます。

5 ↑/↓/←/→を押して文字を1 つずつ選び、⊕を押す。

6 ↑/↓/←/→で「Finish」選び、⊕を押す。

7 →を押してプロキシポート・ボックスを選び、⊕を押す。
ソフトキーボードが表示されます。

8 ↑/↓/←/→を押して数字を1 つずつ選び、⊕を押す。

9 ↑/↓/←/→を押して「Finish」選び、⊕を押す。

10 →を押す。

11「Finish」を選び、⊕を押す。

画面リモコン設定

(Quick Click)

本機につないだ機器を画面リモコン（クイッククリック）で操作するための設定をします。

Source Component

操作するソース機器を選びます。

■Preset Mode

本機につないだソース機器に合わせてクイッククリックをカスタマイズします。

■Learn Mode

クイッククリックにコードを学習させます。

■Reset

クイッククリックにプログラムしたコード、学習させたコードをどちらもリセットします。

Common Component

操作するテレビ、プロジェクター、照明などの共通機器を選びます。

■Preset Mode

本機につないだテレビ、プロジェクター、照明などの共通機器に合わせてクイッククリックをカスタマイズします。

■Learn Mode

クイッククリックにコードを学習させます。

■Reset

クイッククリックにプログラムしたコード、学習させたコードをどちらもリセットします。

Macro Setup

いくつかのリモコンコマンドを登録し、1つにまとめて連続送信できるようにします。

システム設定

（System）

本機の各種設定を変えることができます。

Screen Saver

本機につないだテレビにGUIメニューを表示したとき、スクリーンセーバー機能を有効にします。

■OFF

スクリーンセーバー機能は働きません。

■ON

15分間操作しないとスクリーンセーバー機能が働きます。

Installer Mode

保守・サービスのためのコントロールモードを選びます。

■OFF

■RS232C

■Network

System Update

本機システムのファームウェアのバージョンを確認したり、ファームウェアをアップデートしたりできます。ファームウェアは、付属のCD-ROMで提供しているES Utilityを使ってアップデートすることもできます。詳しくは「ES Utilityを使って本機のファームウェアをアップデートする」（66ページ）をご覧ください。

システム情報を見るには

1 ↑/↓ をくり返し押して「System Update」を選び、⊕を押す。

2 ↑/↓をくり返し押して「Internet Update」を選び、⊕を押す。
本機のシステム情報が表示されます。

3 ←/→を押して「Cancel」を選び、⊕を押す。

本機のファームウェアをアップデートするには

1 ↑/↓ をくり返し押して「System Update」を選び、⊕を押す。

2 ↑/↓をくり返し押して「Internet Update」を選び、⊕を押す。
現在のシステムバージョンおよび最新のシステムバージョンが表示されます。

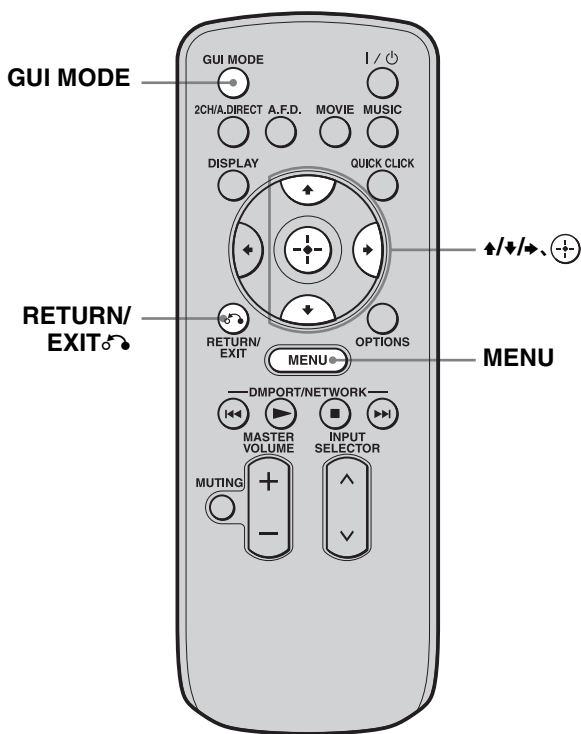
3 「Update」を選び、⊕を押す。
確認画面が表示されます。

4 ↑/↓をくり返し押して「開始」を選び、⊕を押す。
本機のアップデートが始まります。
アップデート中は、本体前面のMULTI CHANNEL DECODINGランプが点滅します。
アップデートが完了すると、本機は自動的に再起動します。

ご注意

- 以下の場合、本機のアップデートは実行されません。
  – すべて最新のバージョンの場合
  – ネットワークの設定がされていない、サーバーがダウンしているなどの理由によって、本機がデータを取得できない場合
- ファームウェアのアップデート中に本機の電源を切ったり、LAN ケーブルを抜いたりしないでください。故障の原因となります。
- ファームウェアのアップデートは、完了するまで 30 分ほどかかります。

テレビをつながずに本機を操作する

本機をテレビにつないでいない場合、GUIを使わずに本体の表示窓の表示で操作を確認することができます。

表示窓のメニューを使う

MENU、DISPLAYまたは↑/↓を押したときに、表示窓に「GUI MODE」と表示される場合は、GUI MODEを押してメニューの表示モードを「DISPLAY MODE」に切り換えてください。（表示窓に「GUI MODE OFF」と表示されたあと、「DISPLAY MODE」に切り換わります。）

1 本機の電源を入れる。

2 MENU を押す。

本体の表示窓にメニューが表示されます。

例：「Speaker Settings」の場合

<Speaker Settings >
SW L R INPUT ANALOG VOLUME dB
-40.0

3 ↑/↓ をくり返し押してメニューを選び、⊕か→ 押す。

4 ↑/↓ をくり返し押してメニュー項目を選び、⊕を押す。

項目のパラメーターが現れます。

FRONT SIZE [LARGE]
SW L R INPUT ANALOG VOLUME dB
-40.0

5 ↑/↓ をくり返し押してお好みのパラメーターを選び、⊕を押す。

パラメーターが確定し、画面から項目が消えます。

ちょっと一言

1つ前の手順に戻るには RETURN/EXIT を押します。

つづく

メニュー一覧（表示窓）

各メニューから以下のオプションが設定できます。
「■■」はそれぞれの項目の設定値が入ります。

メニュー	項目	設定値	初期値
Auto Calibration	AUTO CAL START?		
	5 4 3 2 1		
	MESURING: TONE		
	MESURING: T.S.P.		
	MESURING: WOOFER		
	COMPLETE [■■■■■■■■■■■]	RETRY、SAVE EXIT、WRN CHECK、PHASE INFO、DIST. INFO、LEVEL INFO、EXIT	SAVE EXIT
	WARNING CODE [■■■:4■]	FL、FR、C、SLA、SRA、SLB、SRB、SBL、SBR：0、1、2、3、4	
	NO WARNING		
	ERROR CODE [■■■:3■]	F、SR、SB：0、1、2、3、4	
	RETRY?[■■■■]	YES、EXIT	YES
	CANCEL		
	CAL TYPE [■■■■■■■■■■]	ENGINEER、FULL FLAT、FRONT REF、OFF	FULL FLAT
	FRONT REF TYPE [■■■]	L/R、L、R	L/R
	SP PAIR MATCH [■■■]	ALL、SUR、OFF	ALL
	POSITION [■■■■■■■■■]	POS.1、POS.2、POS.3	POS.1
	NAME IN ? [■■■■■■■■■]		
Level Settings	TEST TONE [■■■■■■■■■]	OFF、L～SW（AUTO）、L～SW（FIX）	OFF
	PHASE NOISE [■■■■■■■]	OFF、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SBR/SBL、SBL/SL、SL/L、L/SR	OFF
	PHASE AUDIO [■■■■■■■]	OFF、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SR/SBR、SBR/SBL、SBL/SL、SL/L、L/SR	OFF
	FRONT L [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	FRONT R [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	CENTER [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	SURROUND L [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	SURROUND R [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	SUR BACK [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	SUR BACK L [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	SUR BACK R [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	SUBWOOFER [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）	0dB
	D. RANGE COMP. [■■■]	OFF、AUTO、STD、MAX	AUTO

メニュー	項目	設定値	初期値
Speaker Settings	SP PATTERN [■■■■■]	2/0～3/4.1（16パターン）	3/4.1
	FRONT SIZE [■■■■■]	SMALL、LARGE	LARGE
	CENTER SIZE [■■■■■]	SMALL、LARGE	LARGE
	SURROUND SIZE [■■■■■]	SMALL、LARGE	LARGE
	SB ASSIGN [■■■■■]	OFF、BI-AMP、ZONE2	OFF
	FRONT L [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	FRONT R [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	CENTER [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	SURROUND L [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	SURROUND R [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	SUR BACK [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	SUR BACK L [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	SUR BACK R [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	SUBWOOFER [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）	3.0m
	DISTANCE UNIT [■■■■■]	meter、feet	meter
	FR CROSSOVER* [■■■ Hz]	40 Hz～200 Hz（10 Hz単位）	120 Hz
	CNT CROSSOVER* [■■■ Hz]	40 Hz～200 Hz（10 Hz単位）	120 Hz
	SUR CROSSOVER* [■■■ Hz]	40 Hz～200 Hz（10 Hz単位）	120 Hz
	CNT A.DOWN MIX [■■■]	OFF、ON	OFF
	SP IMPEDANCE [■ ohm]	4 ohm、8 ohm	8 ohm
Sur Settings	SOUND FIELD SELECT ? [■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■]	Sound Field	AFD AUTO
	ENHANCED SUR SELECT ? [■■■■■■■■■■■■■■■■ ■■■]	PLII、PLIIx、Neo:6 Cinema、Neo:6 Music、 NEURAL-THX	PLIIx
	EFFECT TYPE [■■■■■■■]	DYNAMIC、THEATER、STUDIO	THEATER
EQ Settings	FRONT BASS [■■■ dB]	–10dB～+10dB（1dB単位）	0dB
	FRONT TREBLE [■■■ dB]	–10dB～+10dB（1dB単位）	0dB
	CENTER BASS [■■■ dB]	–10dB～+10dB（1dB単位）	0dB
	CENTER TREBLE [■■■ dB]	–10dB～+10dB（1dB単位）	0dB
	SUR/SB BASS [■■■ dB]	–10dB～+10dB（1dB単位）	0dB
	SUR/SB TREBLE [■■■ dB]	–10dB～+10dB（1dB単位）	0dB
Audio Settings	D.L.L. [■■■■]	OFF、AUTO	OFF
	A/V SYNC [■■■■■■■■■■]	HDMI AUTO、0ms～300ms（10ms単位）	0ms
	DUAL MONO [■■■■■■■■■]	MAIN/SUB、MAIN、SUB	MAIN
	DEC. PRIORITY [■■■■]	PCM、AUTO	AUTO
	NIGHT MODE [■■■]	ON、OFF	OFF
	AUDIO ASSIGN ?		
Video Settings	RESOLUTION [■■■■■■■■■]	DIRECT、AUTO、480/576i、480/576p、720p、 1080i、1080p	AUTO
	VIDEO ASSIGN ?		

＊スピーカーが「LARGE」に設定されているときは、この項目は選べません。

つづく

メニュー	項目	設定値	初期値
HDMI Settings	CTRL FOR HDMI [■■■]	OFF、ON	OFF
	PASS THROUGH [■■■■]	OFF、AUTO、ON	OFF
	AUDIO OUT [■■■■■■]	TV+AMP、AMP	AMP
	24p SOUND SYNC [■■■]	OFF、ON	OFF
	SOUND FIELD [■■■■■■]	MANUAL、AUTO	MANUAL
	SW LEVEL [■■■dB]	AUTO、+10dB、0dB	AUTO
	SW LPF [■■■]	OFF、ON	OFF
	VIDEO DIRECT [■■■]	OFF、ON	OFF
System Settings	NAME IN ? [■■■■■■■■]		
	PARTY SETUP [■■■■■■■]	ZONE2/3、ZONE2、ZONE3	ZONE2/3
	12V TRIG. MAIN [■■■■■]	OFF、CTRL、ZONE、INPUT、HDMI A、HDMI B	OFF
	12V TRIG. ZONE2 [■■■■■]	OFF、CTRL、ZONE、MAIN	OFF
	12V TRIG. ZONE3 [■■■■■]	OFF、CTRL、ZONE、MAIN	OFF
	INSTALLER MODE [■■■■]	OFF、232C、NET	OFF
	VERSION [■.■■■]	–	–

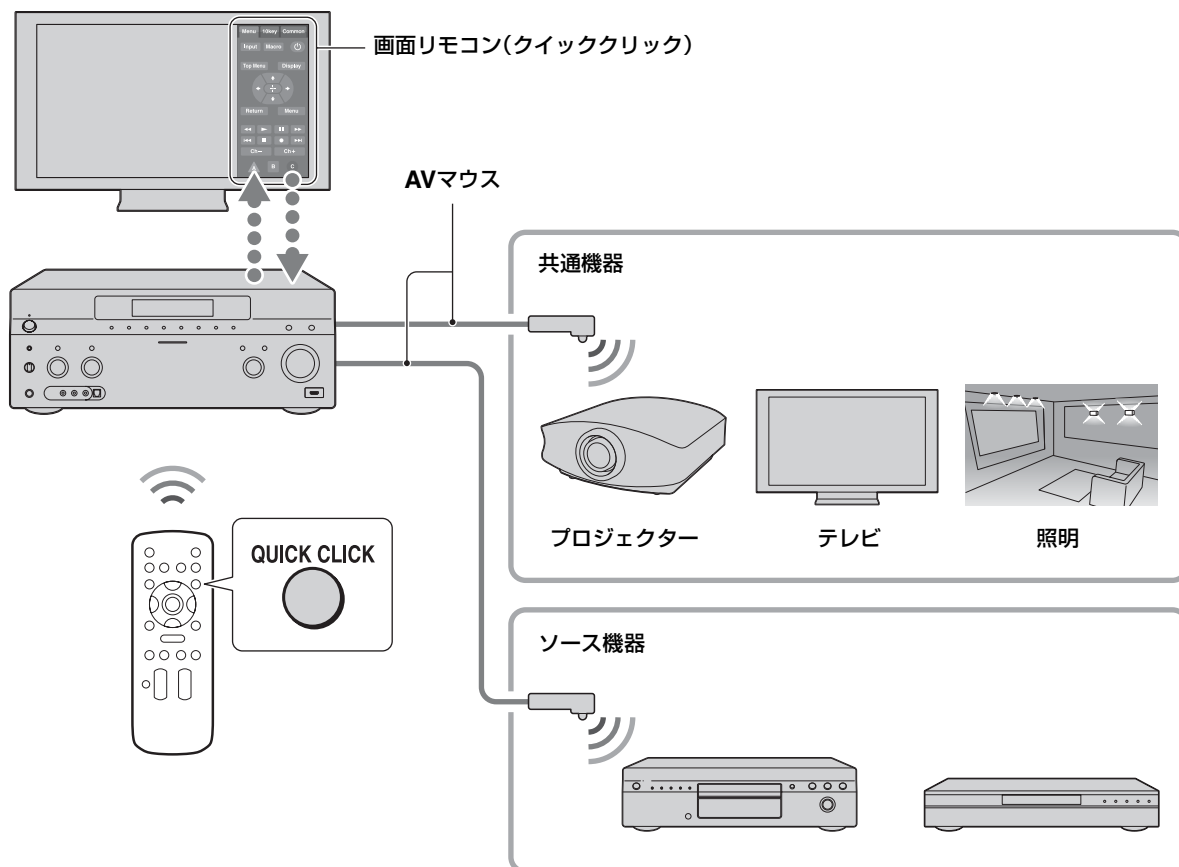
表示を切り換えるには

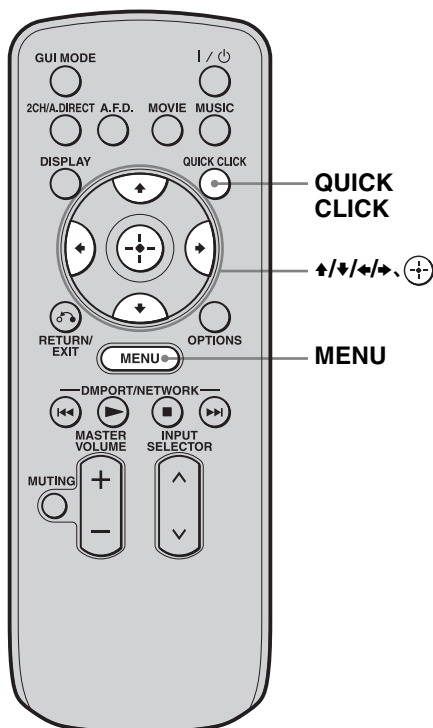
表示を切り換えて、サウンドフィールドなどの設定を確認できます。

1 情報を確認したい入力を選ぶ。

2 DISPLAYをくり返し押す。
DISPLAYを押すたびに、入力→サウンドフィールド→入力名の順に表示が切り換わります。

画面リモコン(クイッククリック)で接続した機器や照明を操作する

本機につないだ機器やプロジェクター、照明制御装置をテレビ画面に表示した画面リモコン（クイッククリック）を使って操作することができます。

クイッククリックを使う

本機につないだ機器やテレビ、プロジェクター、照明をテレビ画面に表示した画面リモコン（クイッククリック）を使って操作することができます。

1 MENUを押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓をくり返し押して「Input」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓をくり返し押して操作したい機器をつないだ入力を選び、⊕を押す。

4 QUICK CLICKを押す。

5 ↑/↓/←/→をくり返し押して、次ページの表に示した機能に対応した適切なクイッククリックのボタンを選び、⊕を押す。

ご注意

お使いの機器によっては、一部の機能が操作できないことがあります。

接続機器を操作できるクイッククリックのボタン

クイッククリックについて詳しくは、「接続した機器を操作する」（112ページ）をご覧ください。

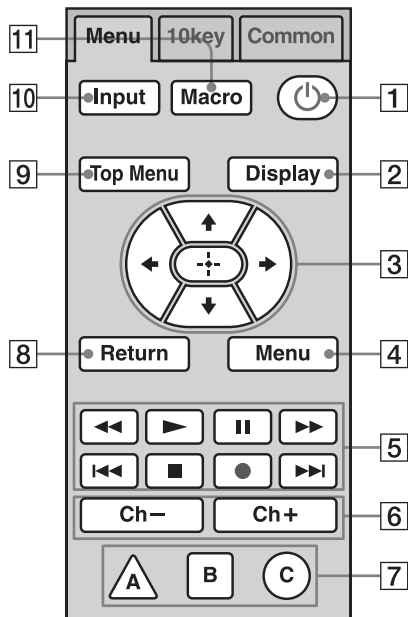
ボタン ＼ 選ばれている機器	テレビ	ビデオデッキ	プロジェクター	ブルーレイディスクレコーダー／DVDプレーヤー	LDプレーヤー	CDプレーヤー	MDデッキ	ケーブルテレビ（セットトップボックス）	BSデジタル／デジタルCSチューナー	カセットデッキ	DVDレコーダー	照明
⏻	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
10 key	●	●	–	●	●	●	●	●	●	●	●	
+10（•）	●	–	–	●	●	●	●	●	●	–	●	
Ent	●	●	–	●	●	●	●	●	●	●	●	
Input	●	●	●	●	–	–	–	●	●	–	●	
Display（Info）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
Top Menu（Guide）	●	–	–	●	–	–	–	●	●	–	●	
◀◀/▶/▶▶/■/❚❚	–	●	–	●	●	●	●	●	●	●	●	
●	–	●	–	●	–	–	●	●	●	●	●	
❙◀◀/▶▶❙	–	–	–	●	●	●	●	●	●	●	●	
↑/↓/←/→/Menu/(⊕)/Exit/Return	●	●	●	●	–	–	–	●	●	–	●	
Ch +/–	●	●	–	–	–	–	–	●	●	–	●	–
A/B/C	–	–	–	–	–	–	–	●	–	–	–	–
Scene 1-16												●
All On/Off												●
On/Off												●
Raise/Lower												●
Light Off												●
Toggle												●

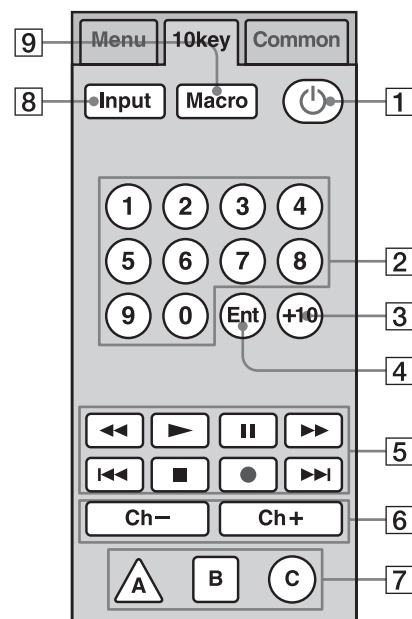
つづく

接続した機器を操作する

クイッククリックの「Menu」機能、「10 key」機能を使って、本機につないだ機器を操作することができます。

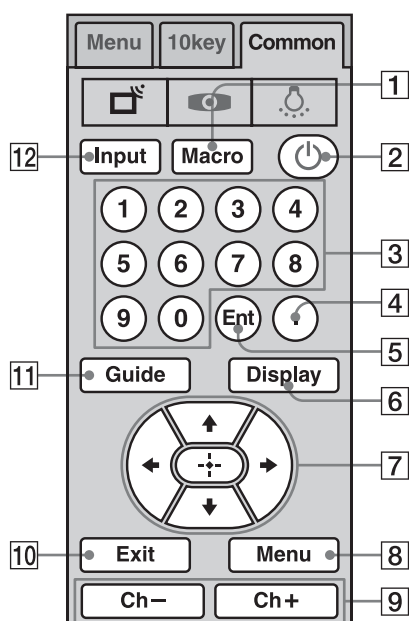
以下の説明は通常の操作例です。機器によっては異なった働きをすることや、まったく働かないことがあります。

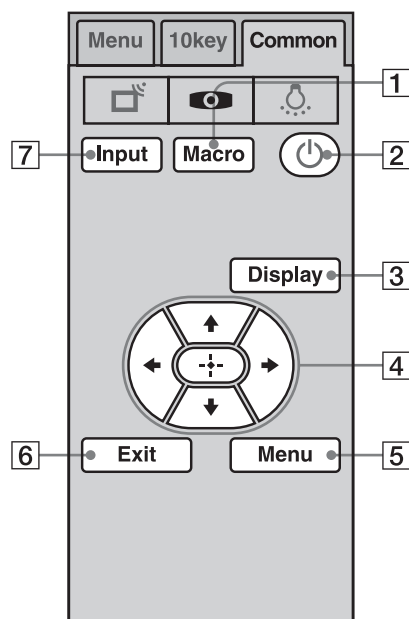
Menuタブ

ボタン	働き
1 ⏻	本機につないだ機器の電源をオン／オフします。
2 Display (Info)	本機につないだ機器の現在の状態や情報を表示します。
3 ↑/↓/←/→、決定	↑/↓/←/→で項目を選びます。続いて 決定 を押して、選択を決定します。
4 Menu	本機につないだ機器のメニューを表示します。
5 ►、●	再生、録画をします。
■、II	再生を停止、一時停止します。
◄◄/►►	早送り、早戻しをします。
I◄◄/►►I	トラックをスキップします。
6 Ch+/Ch–	テレビ、BSデジタルチューナー、ビデオデッキなどのチャンネルを切り換えます。
7 A/B/C	ケーブルテレビ（セットトップボックス）を操作するときに押します。
8 Return (Exit)	前のメニューに戻るときやメニューを消すときに押します。
9 Top Menu (Guide)	ブルーレイディスクレコーダーやDVDプレーヤーのトップメニュー、テレビやBSデジタルチューナー、ハードディスクレコーダーなどの番組ガイドをテレビ画面に表示させるときに押します。
10 Input	本機につないだ機器の入力ソースを選びます。
11 Macro	クイッククリックで登録したマクロ操作を実行します。マクロ操作が登録されていないときは、このボタンは表示されません。

10 keyタブ

ボタン	働き
1 ⏻	本機につないだ機器の電源をオン／オフします。
2 10 key	次の場合に押します。 –ブルーレイディスクレコーダーやDVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDデッキのトラック番号を選ぶとき –テレビ、BSデジタルチューナー、ビデオデッキなどのチャンネル番号を選ぶとき
3 +10（.）	次の場合に押します。 –ブルーレイディスクレコーダーやDVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDデッキの10を超えるトラック番号を選ぶとき –テレビ、BSデジタルチューナー、ビデオデッキなどの10を超えるチャンネル番号を選ぶとき
4 Ent	10 keyボタンでチャンネルやディスク、トラックを選んだあと、決定するときに押します。

ボタン	働き
5 ►、●	再生、録画をします。
■、II	再生を停止、一時停止します。
◄◄/►►	早送り、早戻しをします。
I◄◄/►►I	トラックをスキップします。
6 Ch+/Ch–	テレビ、BSデジタルチューナー、ビデオデッキなどのチャンネルを切り換えます。
7 A/B/C	ケーブルテレビ（セットトップボックス）を操作するときに押します。
8 Input	本機につないだ機器の入力ソースを選びます。
9 Macro	クイッククリックで登録したマクロ操作を実行します。マクロ操作が登録されていないときは、このボタンは表示されません。

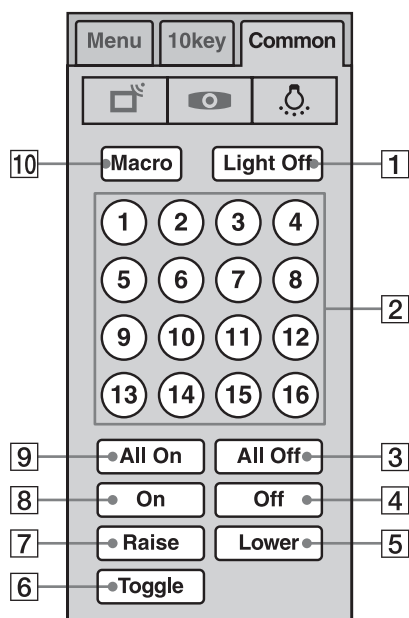
テレビやプロジェクター、照明を操作する

テレビを操作するには、Commonタブの( )を選択してください。

ボタン	働き
1 Macro	クイッククリックで登録したマクロ操作を実行します。マクロ操作が登録されていないときは、このボタンは表示されません。
2 ⏻	本機につないだ機器の電源をオン／オフします。
3 10 key	テレビ、BSデジタルチューナー、ビデオデッキなどのチャンネル番号を選ぶときに押します。
4 .（+10）	テレビ、BSデジタルチューナー、ビデオデッキなどの10を超えるチャンネル番号を選ぶときに押します。
5 Ent	10 keyボタンでチャンネルやディスク、トラックを選んだあと、決定するときに押します。
6 Display (Info)	本機につないだ機器の現在の状態や情報を表示します。
7 ↑/↓/←/→、	↑/↓/←/→で項目を選びます。続いて を押して、選択を決定します。
8 Menu	本機につないだ機器のメニューを表示します。
9 Ch+/Ch–	テレビ、BSデジタルチューナー、ビデオデッキなどのチャンネルを切り換えます。
10 Exit	メニューを消すときに押します。
11 Guide	テレビやBSデジタルチューナー、ハードディスクレコーダーなどの番組ガイドをテレビ画面に表示させるときに押します。
12 Input	本機につないだ機器の入力ソースを選びます。

プロジェクターを操作するには、Commonタブの( )を選択してください。

ボタン	働き
1 Macro	クイッククリックで登録したマクロ操作を実行します。マクロ操作が登録されていないときは、このボタンは表示されません。
2 ⏻	本機につないだ機器の電源をオン／オフします。
3 Display (Info)	本機につないだ機器の現在の状態や情報を表示します。
4 ↑/↓/←/→、	↑/↓/←/→で項目を選びます。続いて を押して、選択を決定します。

つづく

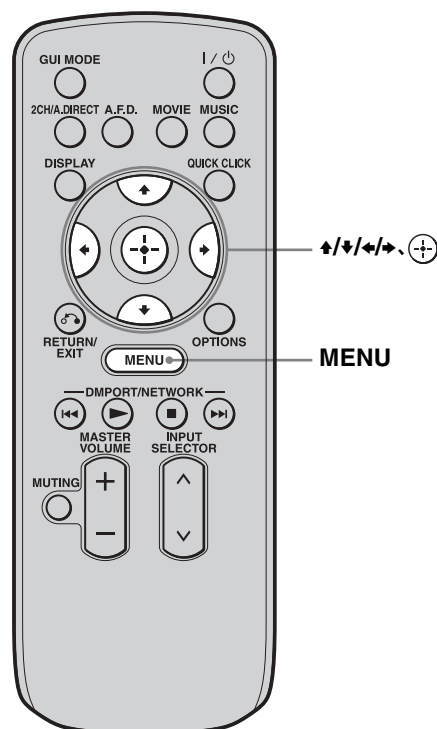
ボタン	働き
5 Menu	本機につないだ機器のメニューを表示します。
6 Exit	メニューを消すときに押します。
7 Input	本機につないだ機器の入力ソースを選びます。

照明を操作するには、Commonタブの( )を選択してください。

ボタン	働き
1 Light Off	照明制御装置の電源を切ります。*
2 Scene 1~16	あらかじめ設定した照明パターンを選びます。
3 All Off	すべての照明を消灯します。
4 Off	1つの照明を消灯します。
5 Lower	すべての照明を同時に暗くします。
6 Toggle	あらかじめ設定した照明パターンを切り換えます。
7 Raise	すべての照明を同時に明るくします。
8 On	1つの照明を点灯します。
9 All On	すべての照明を最大の明るさにします。
10 Macro	クイッククリックで登録したマクロ操作を実行します。マクロ操作が登録されていないときは、このボタンは表示されません。

* 照明制御装置は、2つ以上の照明の明るさをワンタッチ操作で調節できる機器です。照明制御装置については、施工業者にお尋ねください。

クイッククリックを消すには

QUICK CLICKまたはRETURN/EXIT を押します。

クイッククリックで操作する機器を設定する

ソース機器を設定するには

1 MENUを押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓をくり返し押して「Quick Click」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓をくり返し押して「Source Component」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓をくり返し押して設定したい機器が接続されている入力(テレビを含む)を選び、⊕を押す。

6 ↑/↓をくり返し押して「Preset Mode」を選び、⊕を押す。

7 ↑/↓をくり返し押して設定したい機器の種類を選び、⊕を押す。

8 ↑/↓をくり返し押してメーカー名を選び、⊕を押す。

9 ↑/↓をくり返し押してコードを選び、⊕を押す。

テストをしたい場合は、テレビ画面上の「Play」を選びます。

10 ↑/↓/←/→をくり返し押して「完了」を選び、⊕を押す。

共通機器を設定するには

1 MENUを押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓をくり返し押して「Quick Click」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓をくり返し押して「Common Component」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓をくり返し押して設定したい機器の種類を選び、⊕を押す。

6 ↑/↓をくり返し押して「Preset Mode」を選び、⊕を押す。

7 ↑/↓をくり返し押して設定したい機器を選び、⊕を押す。

8 ↑/↓をくり返し押してメーカー名を選び、⊕を押す。

9 ↑/↓をくり返し押してコードを選び、⊕を押す。
テストをしたい場合は、テレビ画面上の「Play」を選びます。

10 ↑/↓/←/→をくり返し押して「完了」を選び、⊕を押す。

対応機器別のメーカーリスト

テレビ

SONY	HITACHI
MITSUBISHI	PANASONIC
PIONEER	SANYO
SHARP	TOSHIBA
JVC	

プロジェクター

SONY	EPSON
MITSUBISHI	OLYMPUS
SHARP	

ビデオデッキ

SONY	AIWA
FUJITSU	FUNAI
HITACHI	JVC
LG	MITSUBISHI
NEC	PANASONIC
PHILIPS	PIONEER
SAMSUNG	SANYO
SHARP	TOSHIBA

ブルーレイディスク／DVDプレーヤー

SONY	AIWA
DENON	HITACHI
JVC	MITSUBISHI
ONKYO	PANASONIC
PIONEER	SAMSUNG
SHARP	SYLVANIA, FUNAI
TOSHIBA	YAMAHA

ブルーレイディスクレコーダー

SONY	PANASONIC
SHARP	

DVDレコーダー

SONY	HITACHI
JVC	MITSUBISHI
NEC	PANASONIC
PIONEER	SHARP
TOSHIBA	

CDプレーヤー

SONY	AIWA
AKAI	B&O
DAEWOO	DENON
HITACHI	JVC
KENWOOD	LG
MARANTZ	NAKAMICHI
ONKYO	PANASONIC
PHILIPS	PIONEER
SAMSUNG	SANSUI
SANYO	SHARP
SHERWOOD	TECHNICS
TOSHIBA	UNIVERSUM
YAMAHA	

MDデッキ

SONY	AIWA
AKAI	DENON
JVC	KENWOOD

つづく

MARANTZ	ONKYO
PANASONIC	PIONEER
SANSUI	SHARP
TEAC	YAMAHA

ケーブルテレビ（セットトップボックス）

SONY	DX ANTENNA
FUJITSU	HITACHI
NEC	PANASONIC
PIONEER	SCIENTIFIC ATLANTA
SUMITOMO	SYNCLAYER
TOSHIBA	WINERSAT

BSデジタルチューナー／デジタルCSチューナー

SONY	AIWA
DX ANTENNA	HITACHI
HUMAX	JVC
MASPRO	NEC
PANASONIC	SHARP
SKY PERFECT TV	TOSHIBA
UNIDEN	

照明制御

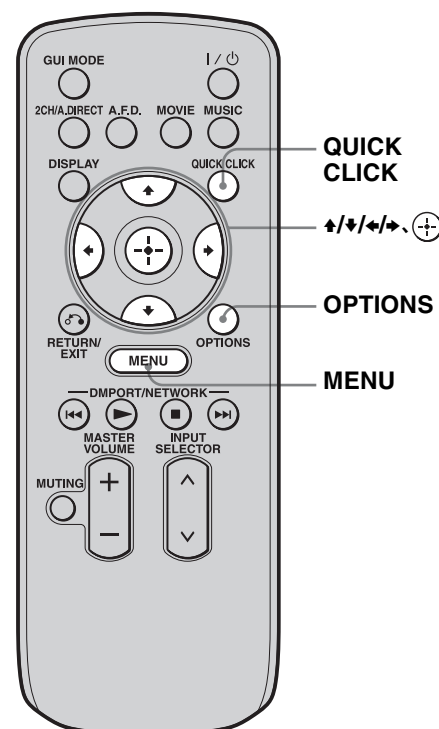
DAIKO	KOIZUMI
LUTRON（GRAFIK EYE）	LUTRON（HOMEWORKS）
LUTRON（RADIORA）	LUTRON（SIVOIA SHADES）
LUTRON（SPACER SYSTEM）	NEC
TAKIZUMI	X10

チューナー

SONY

いくつかの操作を続けて実行させる

（マクロ操作）

クイッククリックで簡単にマクロ操作を使うことができます。

1 MENUを押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓をくり返し押して「Quick Click」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓をくり返し押して「Macro Setup」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓をくり返し押して連続した操作を登録させたいマクロ番号を選び、⊕を押す。

6 ↑/↓をくり返し押して設定したいステップ番号を選び、⊕を押す。

7 ↑/↓ をくり返し押してお好みの機器を選び、⊕を押す。

8 ↑/↓ をくり返し押してキーを選び、⊕を押す。

9 ↑/↓ をくり返し押して Duration（操作の継続時間）を選び、⊕を押す。

10 他の機器に対する操作も登録したいときは、手順 6 から 9 をくり返す。

11 ↑/↓/→ を押して Step Interval（操作の実行間隔）を選び、⊕を押す。

12 ↑/↓ をくり返し押してお好みの時間間隔を選び、⊕を押す。

13 ↑/↓/→ をくり返し押して「完了」を選び、⊕を押す。
設定が完了します。

マクロ操作の登録を途中でやめるには

↑/↓/←/→を押して「Cancel」を選び、⊕を押します。

マクロ操作を実行する

1 QUICK CLICK を押す。
テレビ画面にクイッククリックが表示されます。

2 ↑/↓/←/→ を押して、クイッククリックの MACRO を選び、⊕を押す。

3 ↑/↓ を押して実行したいマクロ番号を選び、⊕を押す。

マクロ操作に名前を付けるには

1 MENU を押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓をくり返し押して「Quick Click」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓をくり返し押して「Macro Setup」を選び、⊕を押す。

5 OPTIONSを押す。
オプションメニューが表示されます。

6 「Name Input」選び、⊕を押す。
ソフトキーボードが表示されます。

7 ↑/↓/←/→を押して文字を1 つずつ選び、⊕を押す。

8 ↑/↓/←/→を押して「完了」を選び、⊕を押す。
入力した名前が登録されます。

名前を付けるのを途中でやめるには

↑/↓/←/→を押して「Cancel」を選び、⊕を押します。

登録したマクロ操作を消すには

1 MENU を押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓をくり返し押して「Quick Click」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓をくり返し押して「Macro Setup」を選び、⊕を押す。

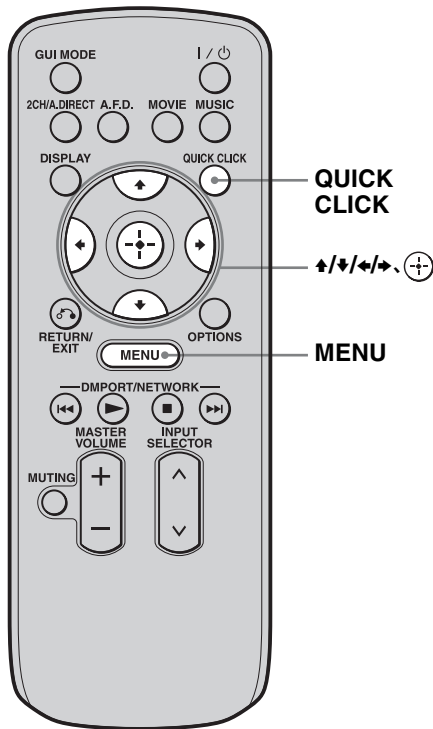
5 ↑/↓をくり返し押して消したいマクロ番号を選び、⊕を押す。

6 ↑/↓をくり返し押してステップ番号を選び、⊕を押す。

7 ↑/↓をくり返し押して機器名に「-」を選び、⊕を押す。

8 手順6および7をくり返して、登録されている操作を消す。

9 ↑/↓を押して「完了」を選び、⊕を押す。
登録したマクロ操作が消去されます。

クイッククリックにないリモコンコードを学習させる

1 MENU を押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。

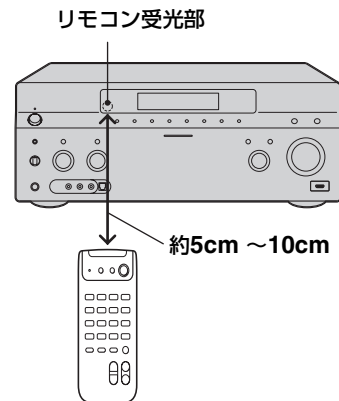
3 ↑/↓ をくり返し押して「Quick Click」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「Source Component」または「Common Component」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押してお好みの機器を選び、⊕を押す。

6 ↑/↓ をくり返し押して「Learn Mode」を選び、⊕を押す。

7 ↑/↓ をくり返し押して新しいコマンドとして登録したいコード番号を選び、⊕を押す。

8 学習させたい機器のリモコンを本機のリモコン受光部に向けて、テレビ画面に「Complete」と表示されるまでリモコンの対応するボタンを押し続ける。

新しいコードの登録が完了すると、数秒後に「Test」が自動的に選ばれます。

9 ⊕を押す。
登録したコードの操作テストが始まります。
操作テストを実行しない場合は、手順10に進みます。

10 ↑/↓/←/→ をくり返し押して「完了」を選び、⊕を押す。

学習させたリモコンコードを使う

1 MENU を押す。
テレビ画面にメニューが表示されます。

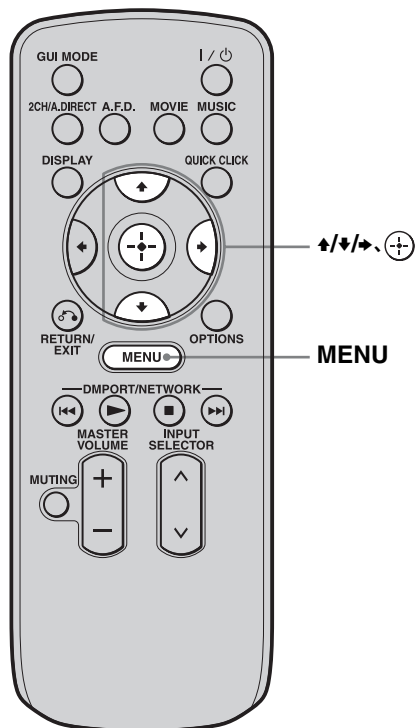
2 ↑/↓をくり返し押して「Input」を選び、⊕または→を押す。

3 ↑/↓をくり返し押してお好みの機器を選び、⊕を押す。

4 QUICK CLICKを押す。

5 ↑/↓/←/→を押して機能を学習させたクイッククリックのボタンを選び、⊕を押す。

ご注意
本機が新しいコードを登録している間は、表示窓の表示が消えます。

クイッククリックのリモコンコードを初期設定に戻す

1 MENU を押す。

テレビ画面にメニューが表示されます。

2 ↑/↓ をくり返し押して「Settings」を選び、⊕または → を押す。

3 ↑/↓ をくり返し押して「Quick Click」を選び、⊕または → を押す。

4 ↑/↓ をくり返し押して「Source Component」または「Common Component」を選び、⊕を押す。

5 ↑/↓ をくり返し押してお好みの機器を選び、⊕を押す。

6 ↑/↓ をくり返し押して「Reset」を選び、⊕を押す。

確認メッセージが表示されます。

7 ↑/↓ をくり返し押して「Yes」を選び、⊕を押す。

選択した入力のすべての設定（登録したデータなど）が消去されます。

8 手順5から7をくり返して、登録したすべてのデータを消去する。

ご注意

マクロ操作自体は消去されません。マクロ操作のステップでプリセットコードまたは学習コードを設定していたときは、初期設定のコードが出力されます。

多機能リモコンで他機を操作する

付属の多機能リモコンを使って、他にお使いの機器を操作することができます。
初期設定では、ソニー製の機器が操作できるように設定されています。
お使いの機器に合わせて設定を変更すると、初期設定では操作できないソニー製機器や他社製の機器を操作することができます（122ページ）。

接続した機器を操作する

1 操作したい接続機器の入力切り換え用ボタンを押す。

2 次ページの表で●の付いたボタンを使って､それぞれの機器を操作する。

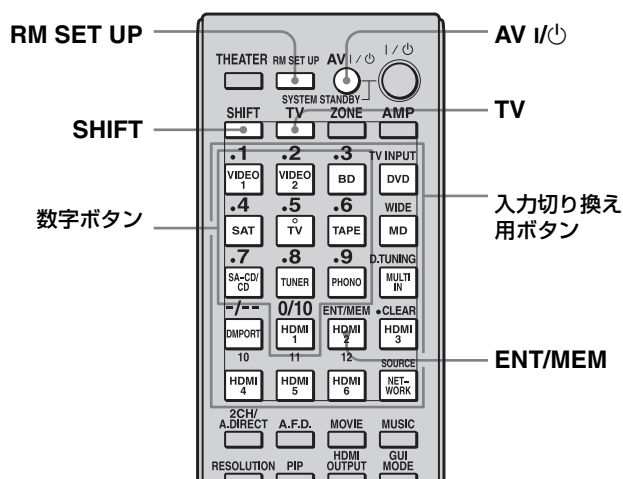
ご注意
お使いの機器によっては、一部の機能が操作できないことがあります。

接続機器を操作できる本機のリモコンのボタン

ボタン ＼ 選ばれている機器	テレビ	ビデオデッキ	DVDレコーダー／プレーヤー	ブルーレイディスクレコーダー	HDDレコーダー	PSX	ビデオCDプレーヤー／LDプレーヤー	BSデジタル／デジタルCSチューナー	カセットデッキ（AとB）	DATデッキ	CDプレーヤー／MDデッキ	チューナー	デジタルメディアポート機器
AV I/⏻	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		
数字ボタン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
TV INPUT、WIDE	●												
D.TUNING												●	
-/--	●	●	●	●	●	●	●		●		●		
ENT/MEM	●	●	●	●	●	●	●[a]	●	●	●	●		
CLEAR			●	●	●	●		●			●		
TOOLS/OPTIONS	●		●	●	●	●							
DISPLAY	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	
RETURN/EXIT	●		●	●	●	●	●	●					●
↑/↓/←/→、⊕、MENU、HOME	●	●	●	●	●	●		●					●
⏮/⏭	●	●	●	●	●	●	●		●[b]	●	●		●
←·/·→	●		●	●	●	●							●
◀◀/TUNING –、▶▶/TUNING +	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●
DISK SKIP			●[c]				●[d]				●		
▶、❚❚、■	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●		●
MUTING、MASTER VOL +/–、TV VOL +/–	●												
PRESET +/–、TV CH +/–	●	●	●	●	●		●[a]	●				●	
BD/DVD TOP MENU、BD/DVD MENU			●	●		●							
F1、F2			●	●									

a) LD プレーヤーのみ操作できます。
b) デッキ B のみ操作できます。
c) DVD プレーヤーのみ操作できます。
d) ビデオ CD のみ操作できます。

お使いの機器に合わせてリモコンコードを設定する

本機につないだ機器を操作できるように本リモコンを設定できます。また、初期設定のままでは操作できないソニー製の機器や他社製の機器も設定できます。
例：本体後面のVIDEO 1 IN端子につないだ他社製のビデオデッキを、このリモコンで操作できるように設定するとき

1 **RM SET UPを押しながら、AV I/⏻を押す。**
RM SET UPが点滅します。

2 **RM SET UP が点滅している間に、入力切り換え用ボタン（TV ボタンを含む）を押して設定したい入力を選ぶ。**
例えば、VIDEO 1 IN端子につないだビデオデッキを操作したいときは、VIDEO 1を選びます。
RM SET UPと入力切り換え用ボタンが点灯します。
TUNERやPHONO、DMPORT、NETWORK、SOURCEなどプログラムできない入力を選んだ場合は、RM SET UPが点滅を続けます。

3 **数字ボタンを押して、機器とメーカー別の対応コードを入力する（コードが複数ある場合は、そのうちの 1 つ を入力する）。**
入力切り換え用ボタンが点灯します。

4 **ENT/MEM を押す。**
有効な対応コードが入力されると、RM SET UPが2回点滅し、設定モードが終了します。
入力切り換え用ボタンも消灯します。

設定操作を途中でやめるときは
手順の途中で、RM SET UPを押します。

機器・メーカー別の対応コード

以下の対応コードを使って他社製の機器や、初期設定のままでは操作できないソニー製機器を操作できるように設定します。それぞれの機器が受け付けるリモコン信号はモデルや年式によっても異なりますので、1つの機器に複数のコードが割り当てられている場合もあります。ある1つのコードを使っても設定できない場合は、別のコードを使って設定してみてください。

CDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	101、102、103
DENON	104、123
JVC	105、106、107
KENWOOD	108、109、110
MAGNAVOX	111、116
MARANTZ	116
ONKYO	112、113、114
PANASONIC	115
PHILIPS	116
PIONEER	117
TECHNICS	115、118、119
YAMAHA	120、121、122

DATデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	203
PIONEER	219

カセットデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	201、202
DENON	204、205
KENWOOD	206、207、208、209
NAKAMICHI	210

ご注意
- TV ボタンに登録できるのは、500 番台のコードのみです。
- 対応コードは、各メーカーの最新情報に基づいて決められています。ただし、機器によっては一部またはすべての対応コードに反応しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- お使いの機器によっては、どの入力切り換え用ボタンも機能しないことがあります。

メーカー	コード
PANASONIC	216
PHILIPS	211、212
PIONEER	213、214
TECHNICS	215、216
YAMAHA	217、218

MDデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	301
DENON	302
JVC	303
KENWOOD	304

HDDレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	307、308、309

ブルーレイディスクレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	310、311、312
PANASONIC	331、332、333
PIONEER	334
SHARP	459、460、461

PSXの対応コード

メーカー	コード
SONY	313、314、315

DVDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403
BROKSONIC	424
DENON	405
HITACHI	416
JVC	415、423
MITSUBISHI	419
ORITRON	417
PANASONIC	406、408、425
PHILIPS	407
PIONEER	409、410
RCA	414
SAMSUNG	416、422
TOSHIBA	404、421
ZENITH	418、420

DVDレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403

メーカー	コード
SHARP	459、460、461
HITACHI	441、442、443
JVC	444、445、446、447、459、460、461
MITSUBISHI	448、449
PANASONIC	450、451、452
PIONEER	453、454、455、456、457、458
TOSHIBA	462、463、464

テレビの対応コード

メーカー	コード
SONY	501、502
AIWA	501、536、539
AKAI	503
AOC	503
CENTURION	566
CORONADO	517
CURTIS-MATHES	503、551、566、567
DAYTRON	517、566
DAEWOO	504、505、506、507、515、544
FISHER	508、545
FUNAI	548
FUJITSU	528
GOLDSTAR/LG	503、512、515、517、534、544、556、568、576、578
GRUNDIG	511、533、534
HITACHI	503、513、514、515、517、519、544、557、571
ITT/NOKIA	521、522
J.C.PENNY	503、510、566
JVC	516、552
KMC	517
MAGNVOX	503、515、517、518、544、566
MARANTZ	527
MITSUBISHI/MGA	503、519、527、544、566、568
NEC	503、517、520、540、544、554、566
NORDMENDE	530、558
NOKIA	521、522、573、575
PANASONIC	509、524、553、559、572
PHILIPS	515、518、557、570、571
PHILCO	503、504、514、517、518
PIONEER	509、525、526、540、551、555、579
PORTLAND	503
QUASAR	509、535
RADIO SHACK	503、510、527、565、567
RCA/PROSCAN	503、510、523、529、544

つづく

メーカー	コード
SAMSUNG	503、515、517、531、532、534、544、556、557、562、563、566、569
SAMPO	566
SABA	530、537、547、549、558
SANYO	508、545、546、560、567
SCOTT	503、566
SEARS	503、508、510、517、518、551
SHARP	517、535、550、561、565、577、580、581
SYLVANIA	503、518、566
THOMSON	530、537、547、549
TOSHIBA	535、539、540、541、551
TELEFUNKEN	530、537、538、547、549、558
TEKNIKA	517、518、567
WARDS	503、517、566
YORK	566
ZENITH	542、543、567
GE	503、509、510、544
LOEWE	515、534、556

LDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	601、602、603
PIONEER	606

ビデオCDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	605

ビデオデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	701、702、703、704、705、706
AIWA*	710、750、757、758
AKAI	707、708、709、759
BLAUPUNKT	740
EMERSON	711、712、713、714、715、716、750
FISHER	717、718、719、720
GENERAL ELECTRIC（GE）	721、722、730
GOLDSTAR/LG	723、753
GRUNDIG	724
HITACHI	722、725、729、741
ITT/NOKIA	717
JVC	726、727、728、736
MAGNAVOX	730、731、738
MITSUBISHI/MGA	732、733、734、735
NEC	736
PANASONIC	729、730、737、738、739、740
PHILIPS	729、730、731
PIONEER	729
RCA/PROSCAN	722、729、730、731、741、747
SAMSUNG	742、743、744、745
SANYO	717、720、746
SHARP	748、749
TELEFUNKEN	751、752
TOSHIBA	747、756
ZENITH	754

＊アイワのコードを設定してもアイワ製のビデオデッキを操作できない場合は、ソニーのコードを入力してください。

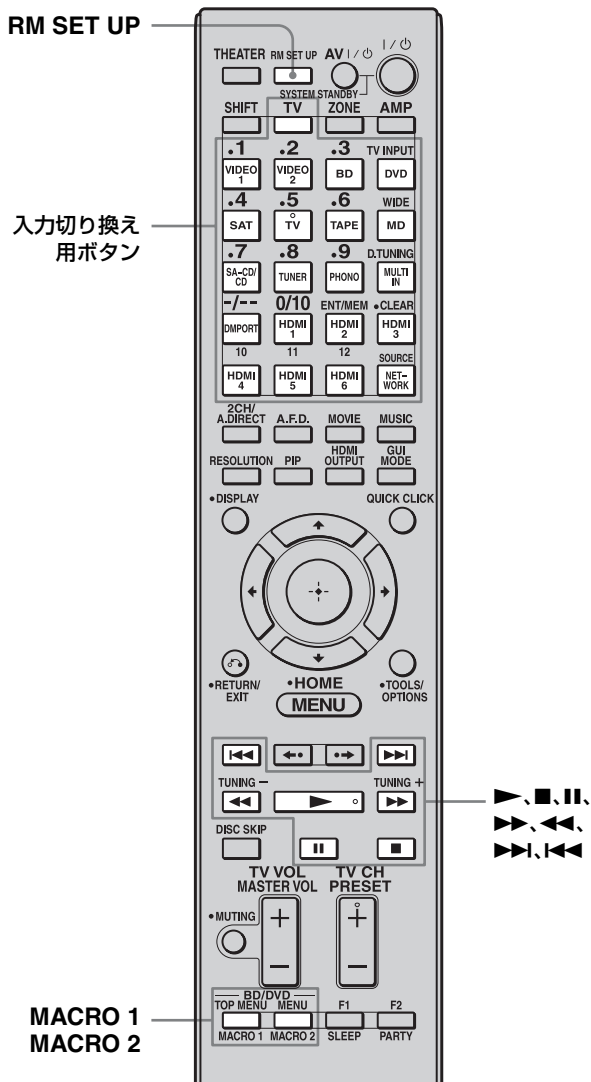
BSデジタルチューナー／デジタルCSチューナーの対応コード

メーカー	コード
SONY	801、802、803、804、824、825、865
AMSTRAD	845、846
BskyB	862
GENERAL ELECTRIC（GE）	866
GRUNDING	859、860
HUMAX	846、847
THOMSON	857、861、864、876
PACE	848、849、850、852、862、863、864
PANASONIC	818、855
PHILIPS	856、857、858、859、860、864、874
NOKIA	851、853、854、864
RCA/PROSCAN	866、871
HITACHI/BITA	868
HUGHES	867
JVC/Echostar/ Dish Network	873
MITSUBISHI	872
SAMSUNG	875
TOSHIBA	869、870

いくつかの操作を続けて実行させる

（マクロ操作）

マクロ操作を使って、いくつかのリモコンコマンドを1つにまとめて連続送信できます。
マクロ操作は、2つ登録することができます（MACRO 1、2）。1つのマクロ操作には、20個までリモコンコマンドを登録することができます。

操作の実行順を登録する

1 RM SET UP を押しながら、MACRO 1 または MACRO 2 を 1 秒以上押す。

RM SET UPが点滅し、入力切り換え用ボタンの1つが点灯します。
（初期設定ではVIDEO 1が点灯します。）

2 入力切り換え用ボタンを押して、連続した操作を割り当てたい機器を選ぶ。

3 実行させたい操作のボタンを順番に押して、連続した操作を登録する。

押すボタン	登録される操作
►、■、❚❚、►►、◄◄、►►❚、❚◄◄	ボタンの操作を行います。
入力切り換え用ボタンを1秒以上押す	入力を切り換えます。
MACRO 1または MACRO 2	1秒の待機時間を設定します。 より長い待機時間を設定するには、MACRO 1またはMACRO 2をくり返し押します。

手順2で選んだ入力のボタンが2回点滅し、再び点灯します。

4 他の入力に連続した操作を割り当てたいときは、手順 2 と 3 をくり返す。

5 RM SET UP を押して、登録を終了する。

マクロ操作の登録を途中でやめるには

手順の途中で60秒間何もボタンを押さないと、設定がキャンセルされます。前回登録した設定がそのまま有効です。

ご注意
マクロ操作を登録するときは、リモコンの電池を新しいものに交換してください。

ちょっと一言
手順 1 で RM SET UP が 5 回点滅して設定モードに入れない場合は、リモコンの電池を新しいものに交換してください。

つづく

マクロ操作を実行する

1 AMP を押す。

AMPが点灯し、消灯します。

2 MACRO 1またはMACRO 2を押してマクロ操作を実行する。

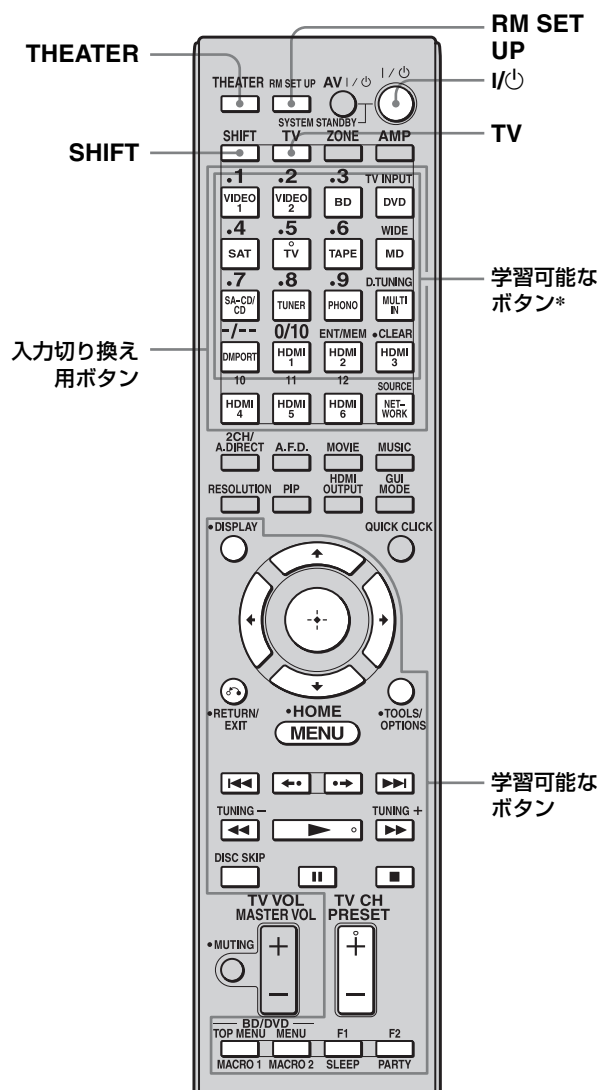
マクロ操作が開始され、登録した順にコマンドが実行されます。
コマンドが送信されている間は、AMPが点滅し、RM SET UPが点灯します。送信が終了すると、RM SET UPとAMPは消灯します。

登録したマクロ操作を消すには

1 RM SET UP を押しながら、MACRO 1 または MACRO 2 を 1 秒以上押す。
RM SET UP がくり返し点滅します。

2 RM SET UPを押す。
登録したマクロ操作が消去されます。

本機のリモコンにないリモコンコードを学習させる

学習機能を使って、付属のリモコンに初期設定では登録されていないコードを学習させることができます。

＊これらのボタンに新しいコマンドを登録するには、先に SHIFT を押してから選びます。

1 RM SET UP を押しながら、THEATER を押す。

RM SET UPが点灯します。

ご注意

学習機能を設定するときは、リモコンの電池を新しいものに交換してください。

ちょっと一言

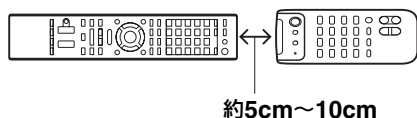
- 容量が一杯になったときは、RM SET UP が 10 回点滅したあとに学習モードから抜けます。
- 手順 1 で RM SET UP が 5 回点滅して設定モードに入れない場合は、リモコンの電池を新しいものと交換してください。

2 入力切り換え用ボタン(TV ボタンを含む)を押して、新しいコマンドで操作したい機器を選ぶ。

選んだ入力のボタンが点滅します。
(RM SET UPは点灯したままです。)
PHONO、DMPORT、NETWORK、SOURCEなど学習できない入力を選んだ場合は、その入力のボタンは点灯しません。(RM SET UPは点灯したままです。)

3 新しいコマンドを割り当てたいボタンを押す。イラストで示した＊印の付いたボタンの場合は、SHIFT を押してから押す。

手順2で選んだ入力のボタンが点灯します。
(RM SET UPは点灯したままです。)

4 本機のリモコンコード受光部と、学習させたい機器のリモコンの送信部とを向かい合わせる。

5 学習させたい機器のリモコンのボタンを押して、リモコンコードを送信する。

本機のリモコンがコードを受信すると、手順2で選んだ入力ボタンが消灯します。
RM SET UPが2回点滅して、学習が完了します。
学習に失敗したときは、RM SET UPが5回点滅します。
手順2からもう一度行ってください。

6 RM SET UP を押して、学習機能を終了する。

学習を途中でやめるには

手順の途中でRM SET UPを押すか、60秒間何もボタンを押さないと、設定がキャンセルされます。

学習させたリモコンコードを使う

入力切り換え用ボタン(TV ボタンを含む)を押して、操作したい機器を選び、学習させたボタンを押す。

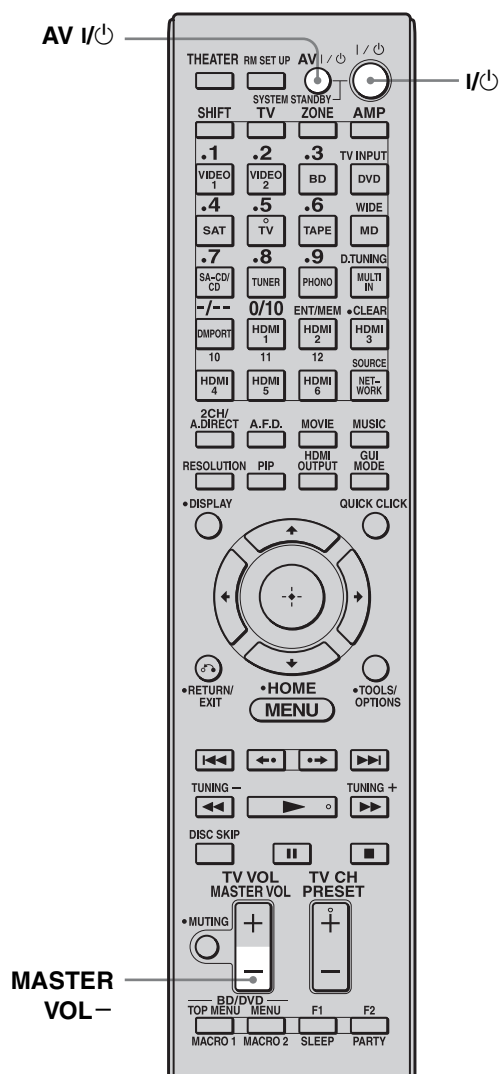
学習したリモコンコードを消すには

1 RM SET UP を押しながら、THEATER を押す。

2 入力切り換え用ボタンを押して、設定を消去したい入力を選ぶ。
選んだ入力のボタンが点滅します。
(RM SET UPは点灯したままです。)

3 I/⏻を1秒以上押す。
選んだ入力のボタンが2回の点滅をくり返します。

4 学習させたボタンを押し、登録した設定を消去する。
RM SET UPが2回点滅して、消去が完了します。
消去に失敗したときは、RM SET UPが5回点滅します。
手順2からもう一度行ってください。

リモコンをお買い上げ時の設定に戻す

1 **MASTER VOL −を押したまま、I/⏻、AV I/⏻ の順に押す。**

RM SET UPが3回点滅します。

2 **すべてのボタンを離す。**

リモコンのすべての設定（登録したデータなど）が消去されます。

用語集

■AAC(MPEG-2 AAC)

デジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式です。Advanced Audio Coding（アドバンスド・オーディオ・コーディング）の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現できます。

■Component(コンポーネント)映像

映像信号を輝度Yと色差 Pb、Pr の3系統に分けて伝送する映像端子です。DVDビデオやハイビジョン映像などの高画質をより忠実に伝送します。3つの端子はそれぞれ緑、青、赤で色分けされています。

■Composite(コンポジット)映像

映像信号を伝送する最も一般的な映像信号です。輝度Yと色Cを1つにまとめて伝送します。

■Deep Color

HDMI端子内を通る信号の色深度を高めたビデオ信号です。
従来のHDMI端子では、1ピクセル（画素）で表現可能な色数は24ビット（16,777,216色）でしたが、Deep Colorに対応した場合、より高い36ビットなどに対応することが可能になります。
多ビット化により色の濃さの階調をより細かく表現できるため、連続した色の変化をなめらかに表すことができます。

■DHCP

Dynamic Host Configuration Protocolの略称です。ネットワーク通信に必要な設定を自動的に割り当てるためのルールをまとめたものです。

■D.L.L.(Digital Legato Linear)

低音質の音声を高音質で再生するソニーの独自技術です。古い音源や圧縮された音声では波形にノイズや倍音など帯域外で歪みが生じるため、テンポの乱れや耳障りな音が発生し、音質低下をもたらします。D.L.L.はこのような問題を解消し、映画や音楽の音声品質を向上させます。

■DLNA

Digital Living Network Allianceの略称です。
ホームネットワーク環境のPCや他のデジタル機器間における音声／写真／映像の配信規格やフォーマット自体の策定を目的とした協会です。
DLNA認定機器は相互運用が可能で、ネットワーク上で簡単に通信することができます。

■DNS

Domain Name Systemの略称です。ドメイン名をIPアドレス（またはその逆）に変換します。DNSはIPアドレスによって認識され、「DNSサーバー」とも呼ばれます。

■Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声デジタル圧縮技術です。フロント（L/R）、センター、サラウンド（L/R）、サブウーファーの5.1chで構成され、DVDビデオの標準音声フォーマットにも採用されています。

■Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plusは従来のドルビーデジタルをさらに高音質・高機能に進化させた音声フォーマットで、HDクオリティの映像にリッチなサラウンドサウンドを提供する柔軟性と効率性を備えています。Dolby Digital Plusの優れたコーディング効率により、映像やその他のサービスのために割り当てるビットレートに影響を与えることなく、最大7.1chの高品質なサラウンド音声を実現することが可能になります。

■Dolby Digital Surround EX

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音響技術です。Dolby Digitalの5.1ch信号のサラウンド（L/R）に後方のサラウンドバック（SB）を合成し、再生時に6.1chで出力されます。特に動きのあるシーンを、よりダイナミックでリアルな音場で再現します。

■Dolby Pro Logic II

2chステレオで記録された音声を5.1chに変換して再生します。従来のステレオで録音された古い映画も、5.1chの迫力で再現します。

■Dolby Pro Logic IIx

7.1ch（または6.1ch）スピーカー環境のための再生システムです。ドルビーデジタルサラウンドEX作品に加え、通常の5.1chドルビーデジタル作品を7.1ch（または6.1ch）で再生できます。さらに通常のステレオ収録のコンテンツも7.1ch（または6.1ch）で再生できます。

■Dolby Surround(Dolby Pro Logic)

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声処理技術です。ステレオ2chの中にセンター、サラウンドの音が合成されています。再生時にデコーダーでフロント（L/R）とともに4chサラウンドで出力します。

つづく

■Dolby TrueHD

Dolby TrueHDはドルビーラボラトリーズによって開発された次世代光ディスク向けのロスレス（可逆型）オーディオテクノロジーです。Dolby TrueHDはスタジオマスターの高品質な音声データをビット単位の精度まで完全に再現し、96 kHz/24ビットでは最大8ch、192 kHz/24ビットでは最大6chのサラウンド音声をサポートしています。HD映像との組み合わせにより、Dolby TrueHDはこれまで想像できなかったほどのハイクオリティなホームシアター体験を提供します。

■DSD

スーパーオーディオCDに採用されているフォーマットです。
DSDは現行のCDの64倍の2.8224 MHzサンプリングの1ビットパルス信号を用います。これによりアナログローパスフィルターを通すだけのシンプルなシステムで再生できます。加工段階での情報欠落がなく、原音に近い高音質の録音・再生を実現します。

■DTS 96/24

高音質再生フォーマットです。DVDビデオでは最高の、サンプリング周波数96 kHz／量子化ビット数24ビットで音を記録します。
再生時のチャンネル数は、ソフトにより変動します。

■DTS-ES

サラウンドバックを加えた6.1ch方式で再生します。全チャンネルを独立して記録する「ディスクリート6.1」と、ドルビーサラウンドEXと同様、サラウンドバック音声をリアチャンネルに重ねて記録する「マトリックス6.1」の2種類があります。映画のサウンドトラックを再生するのに適しています。

■DTS-HD

従来のDTSデジタルサラウンドを拡張したオーディオフォーマットです。
コアとエクステンションで構成され、コア部はDTSデジタルサラウンドと互換性を持っています。
DTS-HDには、DTS-HD High Resolution AudioとDTS-HD Master Audioの2種類があります。
DTS-HD High Resolution Audioは、最大転送レートが6 Mbpsの非可逆圧縮（Lossy）で、最大96 kHzのサンプリング周波数と最大7.1chに対応します。
DTS-HD Master Audioは、最大転送レートが24.5 Mbpsの可逆圧縮（Lossless）で、48 kHzまたは96 kHzのサンプリング周波数で最大7.1ch、192 kHzのサンプリング周波数で最大5.1chに対応します。

■DTS Neo:6

2chステレオで記録された音声を7chに変換して再生します。映画用のCINEMAモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードがあり、再生するソースや好みに応じて選べます。

■DTSデジタルサラウンド

DTS社が開発した、映画館向けの音声デジタル圧縮技術です。約4分の1の比較的低い圧縮率で記録し、より高音質で再生します。

■H.A.T.S.（High quality digital Audio Transmission System）for HDMI

H.A.T.S. for HDMIはHDMI伝送の音質を向上させる技術で、対応したスーパーオーディオCDプレーヤーでCDやスーパーオーディオCDを再生するときに動作します。AVアンプのD/Aコンバータが必要とするマスタークロックは、通常はスーパーオーディオCDプレーヤー側の発振器で生成され、AVアンプにHDMI伝送されますが、H.A.T.S. for HDMIが有効になると、AVアンプに内蔵した水晶発振器で生成されます。このためD/A変換後の音楽波形に時間方向の揺らぎが発生せず、みずみずしく音場感豊かな音質が得られます。

■HD-D.C.S.（HD Digital Cinema Sound）

HD Digital Cinema Sound（HD-D.C.S.）は、マスタリングスタジオの緻密な計測データに基づき、ソニーが最新の音響およびデジタル信号処理技術を用いて新たに開発した劇場音響再現技術です。
HD-D.C.S.によって、ご自宅でブルーレイディスクやDVDの映画ソフトの高音質に加えて、マスタリング時にエンジニアが意図した最良の音場も楽しむことができます。

■HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

テレビ接続機器のデジタル映像／音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI端子とテレビを1本のケーブルでつなぐことで、高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCPにも対応しています。

■High Bitrate Audio

High Bitrateフォーマットで主にブルーレイディスクなどに録音される音声フォーマットの圧縮音声フォーマット（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHDなど）です。

■L.F.E.(Low Frequency Effect)
ドルビーデジタルやDTSなどで、サブウーファーから出力される低域効果音のことです。帯域内が20 Hz～120 Hzの重低音を補助的に出力することで、音響に迫力が加わります。

■LAN
Local Area Networkの略称で、オフィスやビルなど比較的小規模なエリアでパソコンやプリンター、ファックスといった機器間の通信を行うネットワークの総称です。

■Neural-THX
Neural-THXサラウンドは5.1チャンネルやステレオ処理された音声を360度、7.1チャンネルに拡張する次世代サラウンド技術です。これまでのサラウンド技術に比べて、さらにオリジナル音声に忠実で臨場感のある音響を再現します。
Neural-THXサラウンドは、狭い帯域で高音質のマルチチャンネルサラウンド音声の放送を可能にします。
また、Neural-THXサラウンドでは、他の再生方式では通常失われてしまう部分の音声も細部まで再現するので、映画や音楽、ゲームの深い味わいや繊細な雰囲気まで実感できます。
音響デザイナーがNeural-THXサラウンド技術を使って作ったソースは、Neural-THXサラウンドを搭載した再生機器でオリジナルに忠実に再生されます。

■PCM
アナログ音声をデジタル音声に変換する方式です。Pulse Code Modulation（パルス・コード・モジュレーション）の略で、手軽にデジタル音声を楽しめます。

■TSP(Time Stretched Pulse)信号
TSP信号は、短い時間の中に低域から高域までの広い帯域にわたる高密度のエネルギーを含む測定信号です。一般的な室内環境で測定精度を確保するためには、測定信号のエネルギー量が重要であり、TSPを使うことで、効果的に測定を行うことができます。

■x.v.Color
動画色空間「xvYCC」国際規格に対応し、従来より広い色域を再現でき、花の色や複雑に変化する美しい海の色など、自然界の色を鮮やかに再現します。

■インターネット
世界中のコンピューターを結ぶ通信ネットワークで、電子メールや検索エンジンなど、多くのサービスを支えています。

■インターレース
テレビやモニターの管面にある走査線のうち、まず奇数番目の走査線を1/60秒かけて描き、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線を描いて画面を映し、合わせて1枚の完全な画面を作っていく飛び越し走査のことです。

■クロスオーバー周波数
各スピーカーユニットがカバーする周波数帯域が交差するポイントの周波数です。

■ゲートウェイ
パソコンやルーターなどの機器に割り当てられるIPアドレスで、本機がインターネットや外部のネットワークに接続するときに必要です。

■サーバー
音楽、写真などのコンテンツをホームネットワーク上の機器に配信する機器です。

■サブネットマスク
サブネット（ネットワーク上のより小さなグループ）を認識するIPアドレスのポートです。

■ブロードバンド
大容量の映像や音声データを高速に送受信できる広帯域幅を用いた通信回線の総称です。現在ブロードバンドとして認められている技術には、ADSL、CATV、FTTHなどがあります。

■ブロードバンドルーター
ADSLやケーブルテレビ回線によるインターネット接続には、ADSLモデムやケーブルモデムと呼ばれる機器が使われますが、一度に複数の端末からインターネットに接続する場合には、ブロードバンドルーターが使われます。

■デジタルコンサートホール
「デジタルコンサートホール（D.Concert Hall）モード」は、CDなどの2chステレオソースをより豊かな音で楽しめるモードです。5.1chまたは7.1chスピーカーとバーチャルスピーカー技術を利用した立体的な残響や反射音の再現により、音楽ソフトをより臨場感豊かな音で楽しめます。コンサートホールの音場の再現は、実測データを元に、ホールを幾何学的に解析し、反射音や残響音を精密にモデリング。音の強さや周波数特性といった音色的な要素も取り込み、DSP上での演算により残響を再現します。あたかも、コンサートホールの席で音楽を楽しんでいるような、自然で心地よい響きとともに音楽を楽しめます。

つづく

■ プログレッシブ

インターレース（インターレースの項目を参照）方式ではなく、すべての走査線を順番通りに描いていく順次走査のことです。

■ ルーター

ネットワーク間のデータの流れを中継する機器です。通常インターネットとホームネットワークの間に設置されます。複数の機器をインターネットへ接続できるルーターもあります。

使用上のご注意

設置場所について

電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。（テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。
特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。
また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。
それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）へお問い合わせください。

音声

症状	原因と対応のしかた
どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない	→ スピーカーコードが正しく接続されているか確認する。 → スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。 → MASTER VOLUMEのレベルが–∞dBになっていないか確認する。目安として、–40dBくらいの音量に調節してみてください。 → 本機前面のSPEAKERS（OFF/A/B/A+B）が「OFF」になっていないか確認する（39ページ）。 → リモコンのMUTINGを押して、消音機能を解除する。 → 入力切り換え用ボタンで正しい入力が選ばれているか確認する。 → ヘッドホンがつながれていないか確認する。 → 小音量でしか聞こえないときはNIGHT MODE機能が働いていないか確認する（83ページ）。 → 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう一度電源を入れる。
選んだ機器から音が出ない	→ 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。 → 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。
片方のフロントスピーカーから音が出ない	→ ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しくつながっていません。正しくつながっているか確認してください。両方のチャンネルが聞こえる場合は、フロントスピーカーが正しくつながっていません。正しくつながっているか確認してください。 → モノラル機器をつないでいるときは、L/Rの片方の端子のみにつないでいないか確認する。この場合は、モノラルーステレオ変換ケーブル（別売）を使ってL/R両方の端子につないでください。ただし、サウンドフィールド（PRO LOGICなど）を選ぶとセンタースピーカーからは音が出ません。センタースピーカーをつないでいないときは、フロントスピーカー L/Rからのみ音が出ます。
アナログ2チャンネル入力の音が出ない	→ 選んだ（デジタル）音声入力を、Inputメニューの「Input Assign」を使って他の入力に割り当てていないか確認する（80ページ）。
デジタル入力（COAXIAL、OPTICAL）の音が出ない	→ INPUT MODE機能を使って「Analog」を選んでいないか確認する（79ページ）。 → アナログダイレクト機能を使っていないか確認する。 → 選んだ（デジタル）音声入力を、Inputメニューの「Input Assign」を使って他の入力に割り当てていないか確認する（80ページ）。
HDMIに入力しているソースの音が本機または本機につないだテレビから出ない	→ HDMI接続を確認してください。 → HDMI Licensing LLCで認証されたHDMIロゴ付きのケーブルでつないでいるか確認してください。 → 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書も参照してください。 → 解像度が1080pの映像やDeep Colorの映像を視聴するときは、HIGH SPEED対応HDMI端子用の接続ケーブル（HDMI Version 1.3aカテゴリー 2ケーブル）でつないでいるか確認してください。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → Auto Calibrationメニューにあるバランスパラメーターを調節する。

つづく

症状	原因と対応のしかた
ハム音またはノイズがひどい	→ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 → 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。 → テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。 → ⏚ SIGNAL GNDが正しくつながっているか確認する（レコードプレーヤーをつないでいる場合のみ）。 → プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
センター／サラウンド／サラウンドバックスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない	→ Auto CalibrationメニューまたはSpeakerメニューの「Speaker Pattern」を使ってスピーカーの設定が適切か確認する。その後、Speakerメニューの「Test Tone」を使って各スピーカーから正しく音が出力されているか確認する。 → HD-D.C.S.モードを選ぶ（58ページ）。 → スピーカーの音量を調節する（91ページ）。 → センタースピーカーが「SMALL」または「LARGE」に正しく設定されているか確認する（91ページ）。
サラウンドバックスピーカーの音が出ない	→ パッケージにドルビーデジタルサラウンドEXのロゴが記載されていても、ドルビーデジタルサラウンドEXのフラグが書かれていないディスクがあります。
アクティブサブウーファーの音が出ない	→ アクティブサブウーファーが正しく接続されているか確認する。 → スピーカーの電源が入っているか確認する。 → すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているとき、「Neo:6 Cinema」または「Neo:6 Music」が選ばれているとアクティブサブウーファーからは音が出ません。
サラウンド効果が得られない	→ サウンドフィールドが働いているか確認する（MOVIEまたはMUSICを押す）。 → サンプリング周波数が88.2 kHz以上のDTS-HD信号では、サウンドフィールドは働きません。 → サンプリング周波数が176.4 kHz以上のDolby TrueHD信号では、サウンドフィールドは働きません。
ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない	→ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTS形式で録音されているか確認する。 → DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子につないでいるときは、つないだ機器の音声の出力設定を確認する。
録音ができない	→ 各機器が正しくつながっているか確認する（19ページ）。 → 入力切り換え用ボタンで録音したい機器を選ぶ（50ページ）。
MULTI CHANNEL DECODINGランプが青色に点灯しない	→ 再生機器をデジタル接続し、本機側でその入力を選んでいるか確認する。 → 再生しているソフトなどの入力ソースがマルチチャンネルに対応しているか確認する。 → 再生機器側の設定がマルチチャンネル音声に設定されているか確認する。 → 選んだ（デジタル）音声入力を、Inputメニューの「Input Assign」を使って他の入力に割り当てていないか確認する（80ページ）。
デジタルメディアポートアダプターにつないだ機器から音が出ない	→ 本機の音量を確認してください。 → デジタルメディアポートアダプターとプレーヤーが正しく接続されていません。本機の電源を切り、デジタルメディアポートアダプターとプレーヤーをつなぎなおしてください。 → 本機がデジタルメディアポートアダプターとプレーヤーのデバイスに対応しているか確認してください。

映像

症状	原因と対応のしかた
テレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない	→ 適切な入力を選ぶ（50ページ）。 → テレビの入力モードを確認する。 → テレビをオーディオ機器から離す。 → 映像入力の割り当てを正しく設定する。 → 入力信号を本機でアップコンバートしている場合、入力と同じ信号にする（31ページ）。
COMPONENT VIDEO OUTに出力している映像が乱れる	→ 480p以上のコンポーネント信号は受け付けません。480iコンポーネント映像信号を入力してください。 → 480p以上のコンポーネント信号を出力するときは、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子を使い、「Resolution」を「DIRECT」に設定してください。

症状	原因と対応のしかた
HDMIに入力しているソースの映像が本機につないだテレビから出ない、乱れる、または途切れる	➔ HDMI信号の出力が「OFF」に設定されている。その場合、HDMI OUTPUTを使って「HDMI A」または「HDMI B」を選んでください。 ➔ HDMI OUT A端子とB端子につないでいるモニター間で対応している映像フォーマットが異なる場合、「HDMI A+B」が働かないことがあります。 ➔ つないでいる再生機器によっては、「HDMI A+B」が働かないことがあります。 ➔ ケーブルの接続を確認してください。 ➔ 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書も参照してください。 ➔ 解像度が1080pの映像やDeep Colorの映像を視聴するときは、HIGH SPEED対応HDMI端子用の接続ケーブル（HDMI Version 1.3aカテゴリー 2ケーブル）でつないでいるか確認してください。 ➔ HDMI端子につないだ機器の映像が乱れることがあります。その場合は、HDMI設定の「Video Direct」を「ON」にしてご使用ください。 ➔ 映像信号が切り換わるときに、HDMI端子につないだ機器の映像や音声が途切れることがあります。その場合は、HDMI設定の「Video Direct」を「ON」にしてご使用ください。
録画ができない	➔ 各機器が正しくつながっているか確認する（24ページ）。 ➔ 入力切り換え用ボタンで録画したい機器を選ぶ（50ページ）。
GUIが表示されない	➔「GUI MODE」がオフになっている。GUI MODEを押して、「GUI MODE」をオンにしてください。 ➔ テレビと正しく接続されているか確認する。
HDMI入力を選んでいるときに、映像が音声より遅れる	➔ HDMI端子につないだ機器や再生するソースによっては、映像が音声より遅れることがあります。その場合は、HDMI設定の「Video Direct」を「ON」にしてご使用ください。

HDMI機器制御

症状	原因と対応のしかた
HDMI機器制御機能が働かない	➔ HDMI接続を確認する（24ページ）。 ➔ HDMIメニューで「Control for HDMI」が「ON」に設定されていることを確認する。 ➔ 接続機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認する。 ➔ 接続機器のHDMI機器制御設定を確認する。お使いの機器に付属の取扱説明書を参照してください。 ➔ HDMI接続を変更したり、電源コードの抜き差しをしたり、電源に不具合があるときは、「"ブラビアリンク" 機能を使う」（74ページ）の手順をくり返す。 ➔「HDMI B」または「OFF」を選んだあとに「HDMI A」または「HDMI A+B」を選ぶと、しばらくの間HDMI機器制御機能が正しく働かないことがあります。これはHDMI OUT A端子につないだ機器側で本機がHDMI機器制御機能を備えていることを確認しているためです。しばらく待っても、HDMI機器制御機能が正しく働かない場合は、「"ブラビアリンク" 機能を使う」（74ページ）の手順をくり返してください。 ➔「HDMI B」または「OFF」が選ばれているときは、HDMI機器制御機能が正しく働きません。

症状	原因と対応のしかた
システムオーディオコントロール機能を使っているときに本機とテレビの両方から音が出ない	➔ テレビがシステムオーディオコントロール機能に対応していることを確認する。 ➔ テレビにシステムオーディオコントロール機能がないときは、HDMIメニューの「Audio Out」を下記のように設定する。 – テレビと本機につないだスピーカーから音を聞くときは、「TV+AMP」に設定する。 – 本機につないだスピーカーからのみ音を聞くときは、「AMP」に設定する。 ➔ 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出ない場合があります。この場合は、「Audio Out」を「AMP」に設定してください。 ➔ 本機につないだ機器の音声が聞こえない場合 – 本機にHDMI接続した機器を視聴するときは、本機の入力をHDMIに切り換える。 – テレビ放送を視聴するときは、テレビのチャンネルを切り換える。 – テレビにつないだ他の機器を視聴したい場合は、テレビを操作して、視聴したい機器または入力を選ぶ。テレビの操作について詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。 ➔ HDMI機器制御機能で、テレビのリモコンを使って接続機器を操作できない場合 – テレビや接続機器によっては、HDMI機器制御の設定が必要な場合があります。お使いの機器に付属の取扱説明書を参照してください。 – 本機の入力をHDMI接続しているものに変えてください。 ➔ 番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが切り換わらない場合 – つないだテレビがオートジャンルセレクターに対応しているか確認する。 – システムオーディオコントロール機能が有効になっているか確認する。 – いったん本機の電源を切ってから、もう一度電源を入れる。

リモコン

症状	原因と対応のしかた
リモコンで操作できない	➔ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。 ➔ リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。 ➔ リモコンの乾電池を新しいものに交換する。 ➔ 本体とリモコンのコマンドモードが一致しているか確認する（85ページ）。本体とリモコンのコマンドモードが違うと操作できません。 ➔ リモコンで正しい入力を選んだか確認する。 ➔ 他社製の機器を操作できるようにリモコンを設定したときは、その機器のメーカーや年式によっては正しく操作できない場合があります。

ネットワーク

症状	原因と対応のしかた
サーバーが見つからない	➔ 下記を確認する。 – ルーターの電源が入っているか – 本機とルーターの間に別の機器がつながっている場合、その機器の電源が入っているか – すべてのケーブルが正しく確実につながっているか – ルーターの設定（DHCPまたは固定IPアドレス）に合わせて設定されているか ➔ パソコンを使っているとき、下記を確認する。 – パソコンのオペレーティングシステムに組み込まれているファイアーウォールの設定 – セキュリティーソフトのファイアーウォールの設定 お使いのセキュリティーソフトのファイアーウォール設定については、セキュリティーソフトのヘルプを参照してください。 ➔ 本機をサーバーに登録する。詳しくは、サーバーの取扱説明書を参照してください。 ➔ しばらく待ってから、もう一度サーバーへの接続を試す。

上記以外の症状で、しばらく待っても症状が改善しない場合は、リモコンのI/⏻または本体のPOWERを押して、本機の電源を入れなおしてください。

エラーメッセージ

本機が正しく動作していないとき、表示窓にメッセージとチェックコードが表示されます。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。以下をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

メッセージ	原因と対応のしかた
PROTECTOR	スピーカー出力に異常な電流が流れています。または天板の上がふさがれています。2、3秒後に本機の電源が自動的に切れます。スピーカーの接続を確認し、もう一度電源を入れてください。

その他のメッセージについては、「自動音場補正の測定後に表示されるメッセージの一覧」（44ページ）、「デジタルメディアポートメッセージ一覧」（52ページ）をご覧ください。

本機の設定をリセットする

参照ページ

リセットするもの	参照ページ
すべての設定	36ページ
多機能リモコン	128ページ

簡単リモコンをお買い上げ時の設定に戻すには

リモコンから電池を抜いて、数分間放置してください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：TA-DA5500ES
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード：
（8 Ω、JEITA）
150 W ＋ 150 W
（4 Ω、JEITA）
150 W ＋ 150 W
サラウンドモード：
（8 Ω、JEITA）
フロント部：150 W ＋ 150 W
センター部：150 W
サラウンド部：150 W ＋ 150 W
サラウンドバック部：150 W ＋ 150 W
（4 Ω、JEITA）
フロント部：150 W ＋ 150 W
センター部：150 W
サラウンド部：150 W ＋ 150 W
サラウンドバック部：150 W ＋ 150 W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、サラウンド、センター、サラウンドバック部：
4 Ωまたはそれ以上

高調波ひずみ率

0.09 %以下
20 Hz～20 kHz
（8 Ω負荷）
120 W＋120 W

周波数特性

10 Hz～100 kHz ±3 dB（8 Ω時）

入力（アナログ）

MULTI CHANNEL INPUT、SA-CD/CD、MD、DVD、BD、TV、SAT、TAPE、VIDEO 1、2、TUNER：
入力感度：150 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：96 dB
（Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク）
PHONO：
入力感度：2.5 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：86 dB
（Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク）

入力（デジタル）

DVD、BD、
SA-CD/CD（Coaxial）：
入力インピーダンス：75 Ω
S/N比：96 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）
VIDEO 1、2、TV、SAT、TAPE、
MD（OPTICAL）：
S/N比：96 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）

出力 MD（REC OUT）、
TAPE（REC OUT）、
VIDEO 1（AUDIO OUT）、
ZONE 2、ZONE 3（AUDIO OUT）：
出力電圧：150 mV
出力インピーダンス：1 kΩ
FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、
SURROUND BACK L/R、SUBWOOFER：
出力電圧：2 V
出力インピーダンス：1 kΩ

ビデオ部

入力／出力

VIDEO：1 Vp-p 75Ω
COMPONENT VIDEO：ルミナンス（Y）
入力感度／出力電圧：1 Vp-p
入力／出力インピーダンス：75 Ω
P_B/C_B、P_R/C_R
入力感度／出力電圧：0.7 Vp-p
入力／出力インピーダンス：75 Ω

HDMI部

入力／出力（HDMI Repeater block）

640×480p@60 Hz
720×480p@59.94/60 Hz
1280×720p@59.94/60 Hz
1920×1080i@59.94/60 Hz
1920×1080p@59.94/60 Hz
720×576p@50 Hz
1280×720p@50 Hz
1920×1080i@50 Hz
1920×1080p@50 Hz
1920×1080p@24 Hz

再生対応フォーマット

ホームネットワーク上の機器から配信されるコンテンツを本機で再生するには、コンテンツが以下のフォーマットに対応している必要があります。

コンテンツの種類	フォーマット	その他の条件
音楽	リニアPCM	DLNAガイドライン1.0定義のLPCM
	MPEG-1 Layer3（MP3）	DLNAガイドライン1.0準拠
	Windows Media Audio（WMA）	DLNAガイドライン1.0準拠 Windows Media Audio professionalの全プロファイルを除く
	AAC	DLNAガイドライン1.0定義のAAC_ISO
写真	JPEG	DLNAガイドライン1.0準拠 ピクセル数4096 × 4096（縦×横）以下
	BMP*	
	PNG*	

* BMP および PNG は DLNA ガイドライン 1.0 で定義されていないため、サーバーやファイルによっては、これらのフォーマットの画像は正しく再生されないことがあります。

電源、その他

電源 AC100 V、50/60 Hz
消費電力 300 W
消費電力（スタンバイ状態時）
0.9 W（「Control for HDMI」および「RS-232C Control」を「OFF」に設定、および2nd／3rdゾーンの電源切時）
最大外形寸法
430 × 175 × 430 mm
（幅／高さ／奥行き、最大突起部を含む）
質量 約 17.5 kg
付属品 キャリブレーションマイクロフォン：
ECM-AC1（1）
電源コード（1）
リモートコマンダー：RM-AAL024（1）
リモートコマンダー：RM-AAU061（1）
単3形マンガン乾電池（4）
AVマウス（1）
ES Utility CD-ROM（1）
VAIO Media plus CD-ROM（1）
取扱説明書（本書）（1）
接続・設定ガイド（1）
GUIメニューリスト（1）
ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内（1）
保証書（1）
安全のために（1）

つづく

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

本製品に含まれるソニー製ソフトウェアの使用許諾契約書

本製品をご使用になる前に以下の契約内容をよくお読みください。
お客様による本製品の使用開始をもって、当該契約内容にご同意いただいたものとさせていただきます。

重要なお知らせ：この使用許諾契約書（以下、「本契約」といいます）は、お客様と本件ソニーハードウェア製品（以下、「本製品」といいます）の製造者であるソニー株式会社（以下、「ソニー」といいます）との間の法的拘束力のある契約です。本製品に含まれる、若しくは、アップデート・アップグレード版として提供或いはウェブサイトからダウンロードされる、すべてのソフトウェア及び第三者ソフトウェア（ソニーがお客様にその旨を通知する、別途独自のソフトウェア使用許諾契約を要するものを除きます）を以下、「許諾ソフトウェア」とします。本契約は、許諾ソフトウェアにのみ適用されるものです。許諾ソフトウェアには、本製品に含まれるソフトウェア、関連媒体、書類並びにオンライン文書及び電子文書（ソニーが提供するこれらの正式なアップデート・アップグレード版を含みます）が含まれます。お客様は、許諾ソフトウェアを本製品の使用に関してのみ使用することができるものとします。お客様の本製品の使用開始をもって、本使用許諾にかかる諸条件に従うに同意したものとさせていただきます。本使用許諾の諸条件にご同意いただけない場合、お客様は、本製品の購入代金返金のため、許諾ソフトウェアを本製品と共にご返送いただく際の手続をソニーに速やかにお問い合わせいただくものとします。

ソフトウェア使用許諾

許諾ソフトウェアは、著作権法並びに著作権に関する国際条約その他知的財産権に関する法律及び条約によって保護されています。許諾ソフトウェアは、使用権を許諾されるものであり、お客様に譲渡されるものではありません。

使用権の許諾

本契約は、以下に定める非独占的、譲渡不能（別途本契約で許諾されている場合を除きます）、且つ限定的な権利をお客様に許諾するものです。

- 許諾ソフトウェア：お客様は、本製品上においてのみ、許諾ソフトウェアを使用できます。
- 私的使用：お客様は、許諾ソフトウェアを私的目的でのみ使用できます。

- 保管/ネットワーク使用：お客様は、許諾ソフトウェアと共に頒布される文書で特に定める場合を除き、許諾ソフトウェアをネットワークを通じて使用したり、許諾ソフトウェアを頒布してはなりません。
- バックアップコピー：お客様はリカバリー目的でのみ許諾ソフトウェアのバックアップコピーを一部作成することができます。

制限事項

リバースエンジニアリング、逆コンパイル及び逆アセンブルの制限：お客様は、許諾ソフトウェアの全部又は一部を改変、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルその他の許諾ソフトウェアのソースコードを生成させる行為をしてはなりません。

許諾ソフトウェアの一部の分離：許諾ソフトウェアは、単一製品として使用許諾されるものです。ソニーより明示的に許諾されない限り、お客様は、許諾ソフトウェアの一部を分離してはなりません。

データファイル：許諾ソフトウェアは、その使用時に自動的にデータファイルを生成することがあります。かかるデータファイルは、許諾ソフトウェアの一部とみなされます。

単一製品：許諾ソフトウェアは本製品と一体の単一製品として、本製品と共に使用許諾されるものです。お客様は、許諾ソフトウェアを、許諾ソフトウェアと共に提供される文書で特に定める場合を除き、本製品と共に使用しなければなりません。

貸与：お客様は、許諾ソフトウェアを貸与又は賃貸してはなりません。

許諾ソフトウェアの譲渡：お客様は、本製品の販売或いは移転に伴う場合にのみ、本契約に基づくお客様の権利の全てを永久に譲渡することができます。但し、この場合、お客様に許諾ソフトウェアの全て（全ての複製物、構成物、記録書体及び文書類、許諾ソフトウェアの全バージョン及びアップグレード版並びに本契約を含む）を譲渡するものとし、一写の複製物を手元に残してはならないものとします。

解約：お客様が本契約の諸条件に違反した場合、ソニーは、その他のいかなる権利も失うことなく、本契約を解約することができます。かかる場合、お客様は、許諾ソフトウェアの複製物及びその構成物の複製物の一切を消去するものとします。

秘密保持：お客様は、許諾ソフトウェアに含まれる公知でない情報を秘密に保持し、ソニーの事前の書面による承諾のない限り、第三者に開示してはなりません。

付随ソフトウェア：許諾ソフトウェアの動作に必要な、許諾ソフトウェア以外のソフトウェア、ネットワークサービスその他の製品は、提供者（ソフトウェアサプライヤー、サービスプロバイダー、或いはソニー）の判断で、提供中止されることがあります。ソニー及びかかる提供者は、当該ソフトウェア、ネットワークサービスその他の製品が、中断或いは変更されることなく継続して利用できる事、或いは動作する事を保証するものではありません。

著作権

許諾ソフトウェア（許諾ソフトウェアに含まれる、画像、写真、動画、映像、音声、音楽、文字及びアプレットを含むがこれに限られません。）及びその複製物に関する著作権等の一切の権利は、ソニー又は原権利者に帰属するものとします。本契約の下で特に許諾されていない権利は、ソニーに留保されるものとします。

許諾ソフトウェアの著作権法上保護されるコンテンツとの使用

お客様は、許諾ソフトウェアを、お客様及び第三者が製作したコンテンツを保存、加工、使用するために使用することができます。かかるコンテンツは著作権法その他の知的財産権に関する法律及び/又は契約によって保護されている場合があります。お客様は、許諾ソフトウェアをかかるコンテンツに適用される法律や契約を遵守の上で使用するものとします。お客様は、ソニーが、許諾ソフトウェアの使用により保存、加工、使用されるコンテンツの著作権を保護するために適切な手段を講じることができることに合意するものとします。かかる手段には、お客様による特定の許諾ソフトウェアの機能を用いたバックアップ及び復旧の頻度を数えること、特定の許諾ソフトウェアの機能を通じたお客様のデータ復旧要求を拒否すること、並びに、お客様が許諾ソフトウェアを違法に使用する場合、本契約を解約することを含みますがこれに限られません。

ハイリスク行為

許諾ソフトウェアは耐障害性を有するものではなく、安全装置機能を必要とする危険な環境（核施設の運営、航空機の操縦、情報通信システム、航空管制、直接生命を維持する装置、又は武器などの許諾ソフトウェアの欠陥が死亡、怪我、重大な物理的若しくは環境的損害につながり得るもの（以下、「ハイリスク行為」といいます））においてオンライン制御が可能な装置として、設計、製造又は使用若しくは再販する事を想定したものではありません。ソニー及び原権利者は、許諾ソフトウェアがかかるハイリスク行為に適合するものであることを、明示、黙示を問わず保証するものではありません。

つづく

CD-ROM媒体についての限定的保証

許諾ソフトウェアのバックアップコピーがCD-ROM媒体で提供される場合、ソニーは、お客様への納入日から90日間、かかるバックアップコピーが記録されているCD-ROM媒体が、通常使用の下で、物理的及び工程上の瑕疵がないことを保証する。この限定的保証は、最初の許諾を受けたお客様にのみ適用されるものとします。ソニーの限定的保証に合致せず、ソニーに、（CD-ROM媒体が保証期間内であることを証明する）売買証書形式の購入証明と共に返却されたCD-ROM媒体の交換のみが、ソニーの責任の全てであり、お客様の得られる唯一の救済です。ソニーは、事故、誤用或いは不正使用により破損したディスクを交換する責任を負うものではありません。CD-ROM媒体についてのいかなる黙示的保証（商品性、特定目的適合性の保証を含みますがこれに限られません）は、納入日から90日間に限られます。保証期間の限定が認められない裁判管轄では、お客様に前述の期間限定は適用されません。この保証はお客様に特別の法的権利を与えるものであり、お客様は各管轄毎に異なるその他の権利も有するものとします。

許諾ソフトウェアの保証適用の除外

お客様は、許諾ソフトウェアの使用は自己責任で行うものであることを明示的に認識し、かつ合意するものとします。許諾ソフトウェアは、現状有姿かつ無保証で提供されるものとし、ソニー及びそのライセンサー（以下、本条項ではあわせて「ソニー」といいます）は、いかなる明示・黙示の保証（商品性、目的適合性、特定目的の黙示的保証を含みますがこれに限られません）も負わない事を明示的に確認するものとします。ソニーは、許諾ソフトウェアに含まれる機能がお客様の要求を満たすこと、或いは、許諾ソフトウェアの動作が修正されることを保証するものではありません。また、ソニーは、許諾ソフトウェアの正確性、信頼性その他の観点において、許諾ソフトウェアの使用もしくは使用の結果について、何らの保証又は表明を行うものではありません。ソニーの正式な代表者の口頭、書面の情報、アドバイスは、新たな保証を提供し、又は、本保証の範囲を一切拡張するものではありません。許諾ソフトウェアに不具合がある場合、お客様（ソニー或いはソニーの正式な代表者ではありません）が、必要なサービス、修理に必要な費用全部を負担するものとします。但し、黙示的保証の除外が認められない裁判管轄では、お客様に前述の除外規定は適用されません。

ソニーは、いかなるコンピュータハードウェア及びソフトウェアも、許諾ソフトウェア或いはお客様が許諾ソフトウェアを使用してダウンロードしたデータによって破損されないことを保証しません。お客様は、許諾ソフトウェアの使用は全自己責任で行うことを明示的に認識し、かつ合意するものとし、許諾ソフトウェアのインストール、及び、許諾ソフトウェアの本製品との使用については、お客様が責任を負うものとします。

責任限定

ソニー、その関連会社及びそれの各ライセンサー（以下、本条項ではあわせて「ソニー」といいます）は、本製品に関する、いかなる明示若しくは黙示の保証違反、契約違反、故意、厳格責任その他法的根拠に基づく間接損害、偶然損害、結果損害又は特別損害（逸失利益、逸失収入又はデータ損失、本製品或いは関連ハードウェアの使用機会喪失、中断時間及びお客様の時間損失を含みますがこれに限られません）について、損害が生じる可能性をソニーが通知され、又は認識していた場合であっても、責任を負いません。いかなる場合も、ソニーの本契約の各条項に基づく責任は、関連製品について実際に支払われた対価を上限とするものとします。結果或いは偶発的損害の免責或いは責任制限が認められない裁判管轄では、上記の除外規定は、お客様には適用されません。

ソフトウェアデータ収集とモニタリング

許諾ソフトウェアには、ソニー及び/又は第三者が、許諾ソフトウェアを実行又は許諾ソフトウェアと相互接続する制御用及び/又は監視用コンピュータ及び装置から、データを収集できる機能が含まれています。お客様はかかるデータ収集行為が行われることにつき同意するものとします。ソニーの現行のプライバシーポリシーについては各国におけるソニーの問合せ先までお問い合わせ下さい。

自動アップデート機能

ソニー或いは第三者は、セキュリティ機能の強化、バグ修正並びに機能改善目的等で、お客様がソニー或いは第三者のサーバーにアクセスする場合等に、適宜許諾ソフトウェアの自動アップデートその他改変をすることができます。かかるアップデートや改変物は、許諾ソフトウェアの機能の性質その他の特徴（お客様が活用している機能を含みます）を削除或いは変更することがあります。お客様は、これらの行為がソニーの判断のみで行うことができ、かつ、ソニーは、お客様がかかるアップデート若しくは改変版を完全にインストールし、或いは受諾することを、許諾ソフトウェアの継続的使用の条件とすることできる事に合意するものとします。

輸出

お客様が許諾ソフトウェアを、お客様の居住国以外で使用する場合、お客様はあらゆる輸出入及び関税に関する法律及び規制（米国商務省その他米国政府機関の法律及び規則を含みますがこれに限られません）を遵守するものとします。お客様は、許諾ソフトウェアを、輸出禁止国に、又は輸出入及び税関に関する制限に違反して、移転或いは移転させないことに同意するものとします。

可分性

本契約の一部が無効或いは執行不能となっても、本契約の他の部分は有効に存続するものとします。

準拠法及び裁判管轄

本契約は、法例に抵触しない限り、日本法に準拠するものとします。本契約の当事者は、日本の裁判所を専属管轄裁判所とすることに同意するものとします。ソニーは、お客様が登録されたＥメールアドレスへの通知、又はその他法的に容認される形式の通知により、許諾ソフトウェアの使用許諾に関する特定の条件を変更することができるものとします。お客様がソニーから発効に先立ち通知された変更後の条件に同意しない場合、お客様は本契約の「重要なお知らせ」に規定された手続に従った返金のため、本製品全部及び購入時に同梱されたその他配布物をソニーのウェブサイトから入手されたソフトウェアと共に返却するものとします。かかる通知後、お客様が許諾ソフトウェアを継続して使用することをもって、お客様は修正後の条件に従うことに同意したものとみなされます。

第三者受益者

本契約の全ての目的のために、ソニーの許諾ソフトウェアにかかる各第三者ライセンサーは、明示的な本契約上の第三者受益者とみなされるものとし、本契約の諸条件を執行する権利を有するものとします。

本契約或いは本契約上の限定的保証に関して疑問がある場合、各国におけるソニーの問合せ先に書面にてお問い合わせ下さい。

本機のファームウェアについて

本製品はMicrosoft Corporationの知的財産権により保護されています。当該ファームウェアについては、MicrosoftもしくはMicrosoft認定子会社のライセンスなしに、本製品より取り出して使用したり、または配布したりすることは禁止されています。

本製品のファームウェアには、libpngバージョン1.2.8、Independent JPEG GroupのJPEGソフトウェアバージョン6b、「zlib」汎用圧縮ライブラリ・バージョン1.2.2のインタフェースzlib.h、FreeType 2バージョン2.1.9、およびOpenSSL バージョン0.9.8bが含まれています。

つづく

The Independent JPEG Group's JPEG Software version 6b

- Portions of the firmware of this product is used in part on The Independent JPEG Group's JPEG software. The Independent JPEG Group's JPEG software is copyright © 1991-1998, Thomas G. Lane. All Rights Reserved. "The Graphics Interchange Format© is the Copyright property of CompuServe Incorporated. GIF(sm) is a Service Mark property of CompuServe Incorporated."

zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library version 1.2.2

zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library version 1.2.2, October 3rd, 2004
Copyright © 1995-2004 Jean-loup Gailly and Mark Adler

FreeType 2 version 2.1.9

Portions of this firmware of this product are copyright © 1996-2002 The FreeTypeProject (www.freetype.org). All rights reserved.

1. No Warranty
THE FREETYPE PROJECT IS PROVIDED 'AS IS' WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT WILL ANY OF THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY DAMAGES CAUSED BY THE USE OR THE INABILITY TO USE, OF THE FREETYPE PROJECT.

OpenSSL version 0.9.8b

1. OpenSSL License
Copyright © 1998-2008 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyrightnotice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO,THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

2. Original Ssleay License
Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
All rights reserved.

つづく

索引

あ行

アップデート 66, 104
イコライザー 96
インターネットラジオ 64
映像設定 （Video）99
映像変換機能 31
エフェクトタイプ 94, 107
オートジャンルセレクター 76
オプションメニュー 48
音声設定（Audio）98

か行

画面リモコン設定 （Quick Click） 103
クイッククリック 109

さ行

サーバー 46, 63
サラウンド効果を調節する 55, 94
自動音場補正機能 39, 89, 106
消音機能 51
初期設定 36
スーパーオーディオ CD プレーヤー 20, 22, 23
スピーカーインピーダンス 37, 107
スリープタイマー 82
接続する
　映像機器 24
　オーディオ機器 19
　スピーカー 16
　テレビ 18
　ネットワーク 34

た行

デジタルメディアポート 9, 11, 20, 52
デジタル CS チューナー 29
電源コード 36
ドルビーデジタル EX 59

な行

入力に名前を付ける 51
入力を選ぶ 50
ネットワーク 60
　設定 45
ネットワーク設定（Network） 102

は行

パーティー機能 72
バイアンプ接続 86
ビデオデッキ 30
表示切り換え 108
表示窓 7
ファームウェア 66, 104
ブルーレイディスクレコーダー 25, 28, 50
ヘッドホン 57
補正タイプ 42, 106
ボリューム 6

ま行

マクロ操作
　クイッククリック 116
　多機能リモコン 125
マルチゾーン 67
マルチゾーン設定（Multi Zone）96
メッセージ
　エラー 137
　自動音場補正 44
　デジタルメディアポート 52
メニュー 47, 88

ら行

リセット 137
　メモリー 36
　リモコン 128
リモコン 11, 37, 120-128
レベル 96
録音する 84
録画する 84

A

AUDIO OUT 108
Audio Out 101
Audio（Settings）98
Auto Calibration 39, 89, 106
A.F.D.（モード）54
A/V Sync 51, 98, 107

B

Bass 6, 96, 107
BI-AMP 91
BS デジタルチューナー 29

C

CD プレーヤー 20, 23
Center Mix 91, 107
Control for HDMI 101, 108
Crossover Freq 93, 107

つづく

D

Decode Priority 98, 107
DISPLAY MODE 105
Distance Unit 94, 107
DLNA 60
DTS Neo:6（Cinema、Music） 55
Dual Mono 98, 107
DVD プレーヤー 25, 28
DVD レコーダー 30
D.Range Comp 94, 106

E

Effect Type 94, 107
Enhanced Setup 89
EQ Curve 90
EQ（Settings） 96, 107
ES Utility 65

F

Front Ref Type 90

G

GUI（Graphical User Interface） 18
GUI MODE 48

H

HD-D.C.S. 58
HD-D.C.S.（エフェクトタイプ） 94
HDMI IN ボタン 6, 36
HDMI OUT ボタン 6, 78
HDMI（Settings） 101, 108
HDMI 端子 9, 24
HDMI ボタン 6
H.A.T.S. 101

I

Impedance 37, 91, 107
Input Assign 51, 80
INPUT MODE 79
Installer Mode 104, 108
IP アドレス 102

L

LARGE 92
L.F.E.（low Frequency Effect） 8

M

MOVIE 58
Multi Zone（Settings） 96
MUSIC 56

N

Network（Settings） 102
Neural-THX 55
Night Mode 83, 98, 107

P

Pass Through 78, 101
Phase Audio 93, 106
Phase Noise 93, 106
PHONES 端子 6
PIP（Picture In Picture） 9, 14
Position（自動音場補正） 89, 106
Pro Logic II 55
Pro Logic IIx 55
PROTECTOR 137
Proxy サーバー 103

Q

Quick Click（Settings） 103
Quick Setup 41

R

Repeat 64
Resolution 99, 107

S

Screen Saver 104
SHOUTcast 64
Shuffle 64
SMALL 92
Sound Field 51
SOURCE 71
SP Pair Match 90
Speaker Pattern 91, 107
Speaker（Settings） 37, 91, 107
SPEAKERS（OFF/A/B/A+B） 6, 39
Subwoofer Level 102, 108
Subwoofer LPF 102, 108
Surround 55
Surround（Settings） 94, 107
System（Settings） 108
System Update 104

T

Test Tone 93, 106
THEATER 77
TONE 6
TONE MODE 6, 36
Treble 6, 96, 107

V

VAIO Media plus 46

Video（Settings）99, 107
VIDEO 2 IN 端子 31

Z

Zone 12V Trigger 108
ZONE2 70

数字

12V Trigger 97
12V トリガ機能 97
2 チャンネル 53
2ch Analog Direct 53
2ch Stereo モード 53
24p Auto Sound Sync 77, 101
4Ω 38
5.1 チャンネル 15
7.1 チャンネル 15
8Ω 38

記号

⏚ SIGNAL GND 端子 23

その他